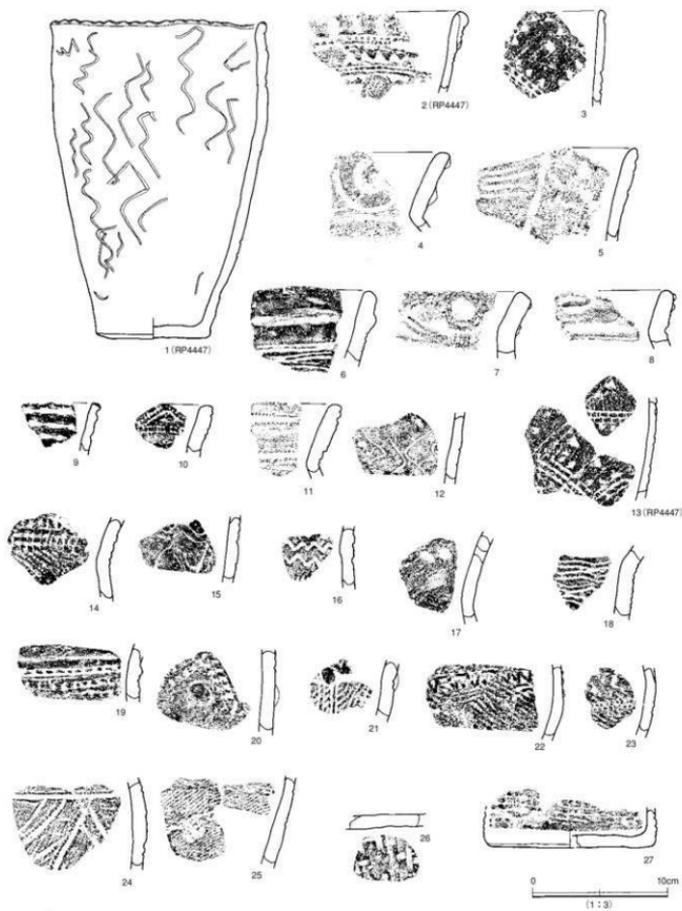
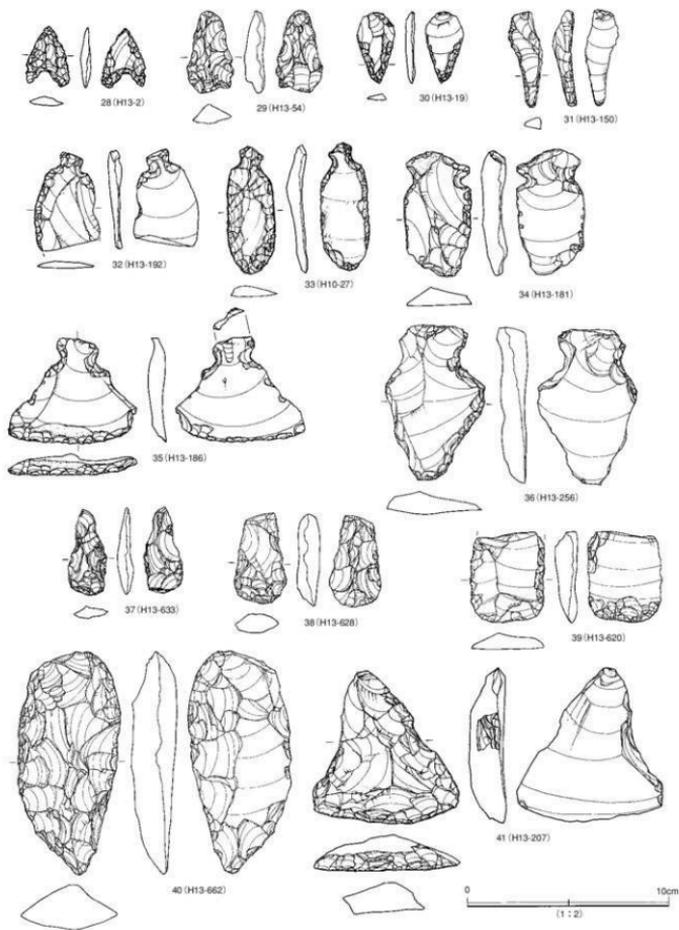


Ⅲ 縄文時代



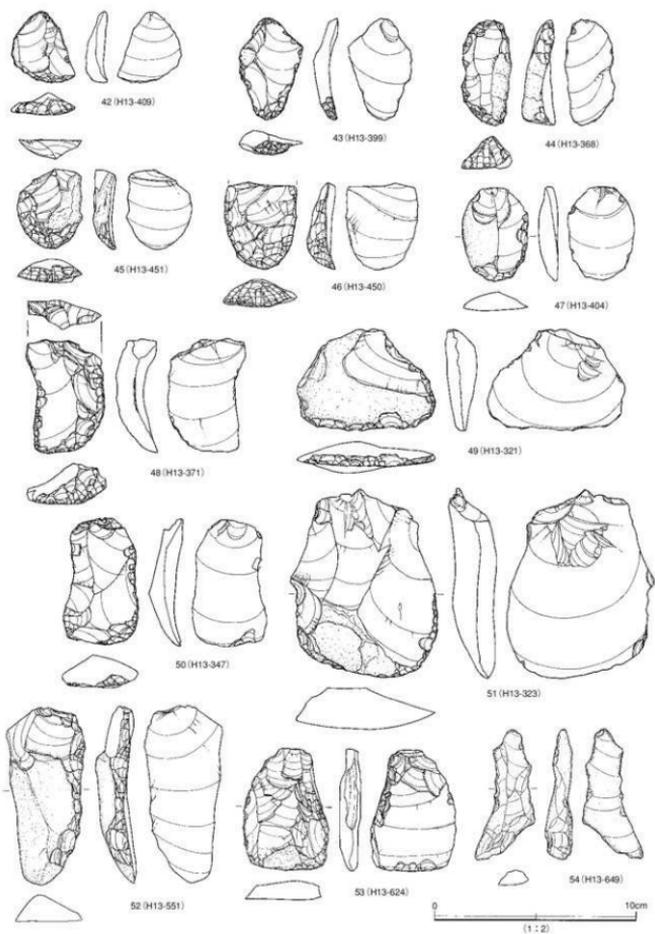
第224回 ST3467 住居跡出土遺物 (1)

Ⅲ 縄文時代



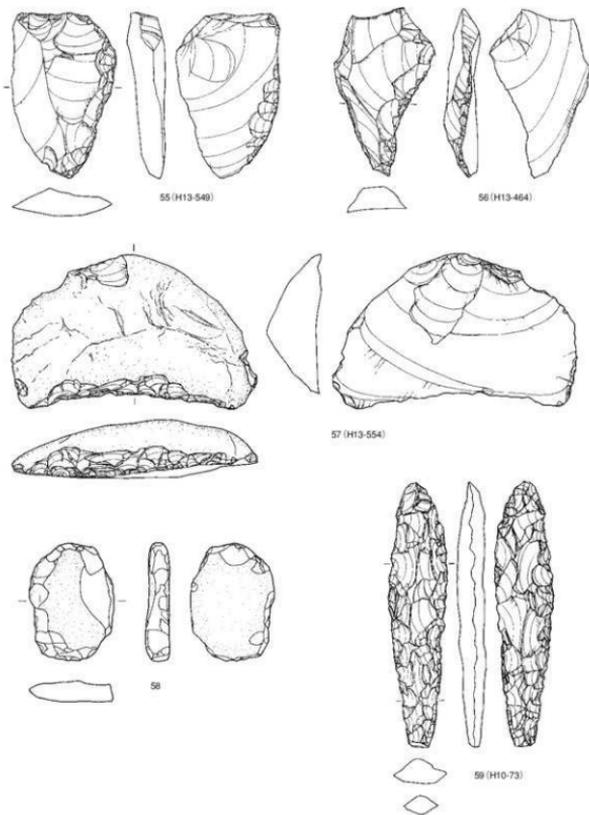
第225図 ST3467 住居跡出土遺物(2)

Ⅲ 縄文時代



第226図 ST3467 住居跡出土遺物 (3)

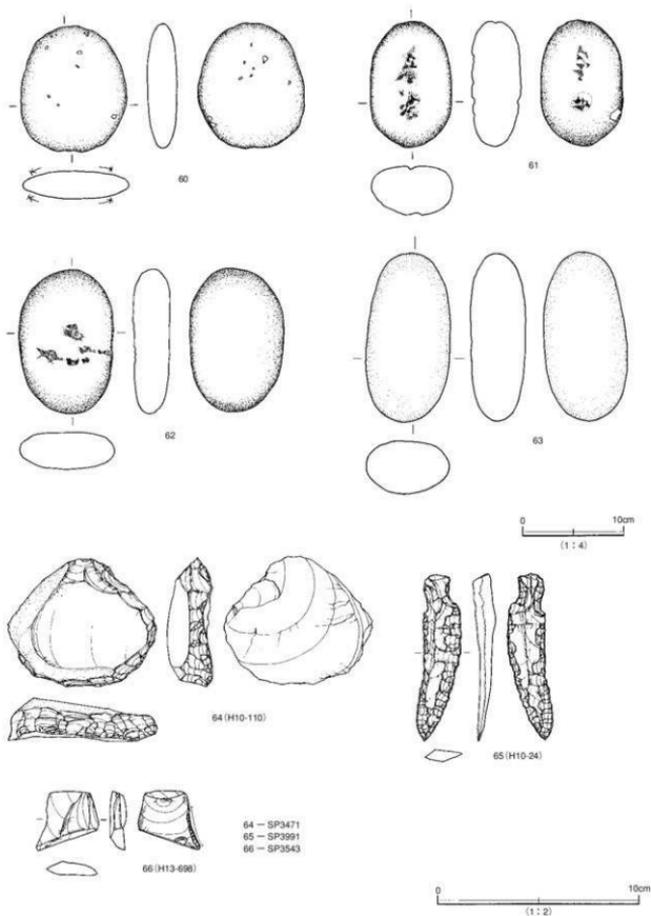
Ⅲ 縄文時代



0 10cm
(1:2)

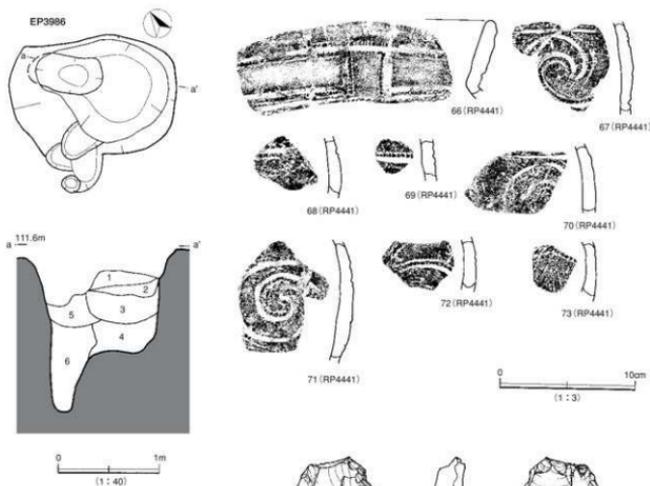
第227回 ST3467 住居跡出土遺物 (4)

Ⅲ 縄文時代



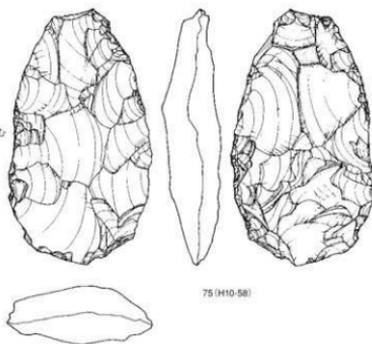
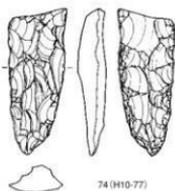
第228回 ST3467 住居跡出土遺物 (5)

III 縄文時代



EP3986

- | | |
|--------------------|--------------|
| 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト | 炭化粒含み、固くしまる |
| 2 10YR2/1 単色シルト | 炭化物含む |
| 3 10YR3/3 暗褐色シルト | 粘土ブロック含む |
| 4 10YR3/3 暗褐色シルト | |
| 5 10YR4/3 濃い黄褐色シルト | 炭化粒、粘土ブロック含む |
| 6 10YR4/1 褐色砂質土 | シルトブロック含む |

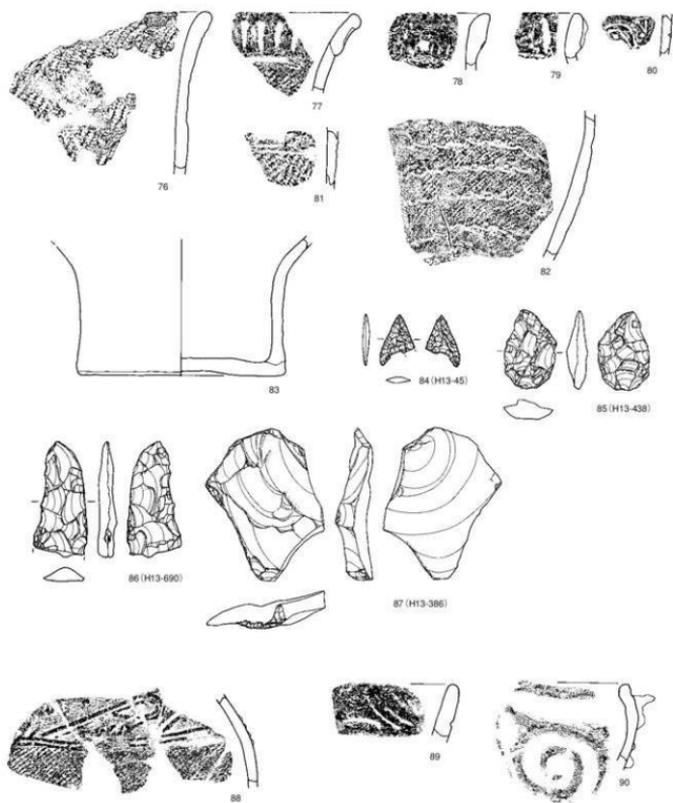


66~75 - EP3986

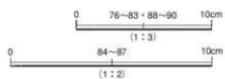


第229図 ST3467 住居跡・出土遺物 (6)

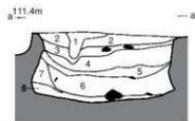
Ⅲ 縄文時代



76~87 - EP3992
 88 - EP3917
 89・90 - 周溝内



第230図 ST3467 住居跡出土遺物 (7)



遺物出土状況

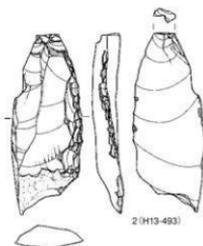


SK3468

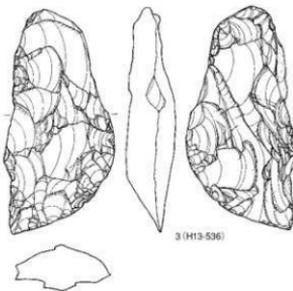
- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1 10YR3/2 黒褐色シルト | 炭化粒、土器片含む、固くしまる |
| 2 10YR3/2 黒褐色シルト | 粘土ブロック、炭化粒含む、しまる |
| 3 10YR4/2 灰黄褐色シルト | 下部に硬土、上部に粘土を含む、しまる |
| 4 10YR2/2 黒褐色シルト | 炭化粒含む、5よりしまる |
| 5 10YR2/2 黒褐色シルト | 炭化粒、土器片含む |
| 6 10YR3/4 暗褐色シルト | 粗砂、粒土含む、石器含む |
| 7 10YR4/3 に近い黄褐色シルト | 粗砂、粒土含む |
| 8 10YR2/2 黒褐色シルト | 炭化粒含む |



1 (H13-407)



2 (H13-493)



3 (H13-536)

SK3468



第231図 ST3467 住居跡・出土遺物 (8)

Ⅲ 縄文時代

S T 3482住居跡 a (第232図 写遺構-162 写遺物-9・70)

グリッド12・13-99に位置する。S T 3467大型住居跡の西側、南西にやや大きく傾斜する地区に所在する。

本址の東側の壁外は堅緻な床面状を呈しており、その範囲を重複する別遺構としてS T 3482 bとした。東側にS T 3404・3403と隣接する。

平面形は瓢箪形を呈する。規模は東西3.85m、南北2.4mを測る。床面までの深さは東壁で50~60cm、西壁で15~25cmである。これは東から西への斜面に位置するためである。

覆上の状態は北東方向から一気に埋まり(13層)、その後8~12層が時間をかけて、更に中央から西南方向に徐々に堆積している。特に中央部に炭化物粒や炭化材が密集しているのが特徴的で、上層構造が崩壊する状況と関連があるものとみられる。

壁は垂直に立ち上がる。床面は非常に平坦で、壁際以外の中央部は堅緻な床面が構築されている。長軸方向に溝を有し、その両端に柱穴を配置する。溝は幅40~50cm、深さは床面から5~10cmで、P 2・P 8付近では25cmを測る。

対向する壁柱穴 主柱穴は住居内で9基検出された。P 1 - P 3、P 4 - P 2 - P 5、P 6 - P 7がそれぞれ対向する。

柱穴の深さは次の通りである。P 1 (75cm)、P 2 (40cm)、P 3 (35cm)、P 4 (30cm)、P 5 (33cm)、P 6 (30cm)、P 7 (40cm)、P 8 (35cm)、P 9 (9cm)である。

この柱穴の深さを標高と比較するとP 3~8は、ほぼ同じ標高である。P 1はこれよりも30~40cm深く、P 9は20~30cm程浅い。

炬、周溝は検出されていない。

S T 3482住居跡 b (第233図 写遺物-70)

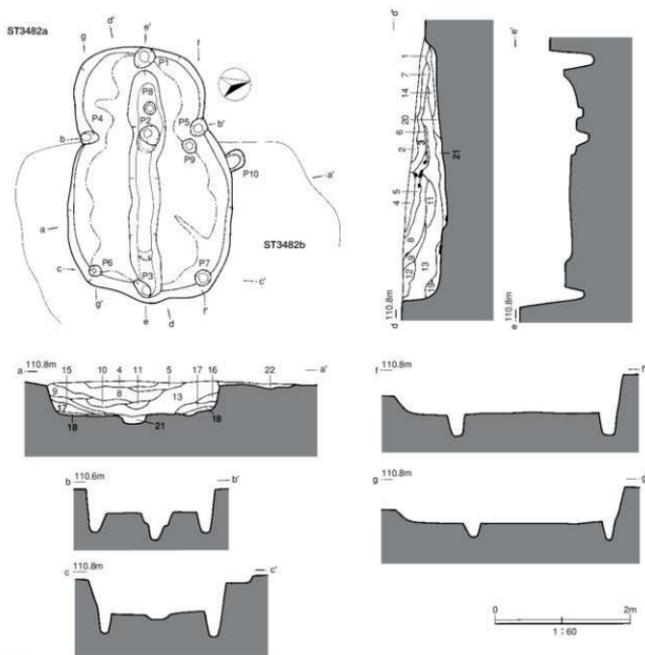
S T 3482 a と重複し切られる。平面形は不整形を呈する。壁の掘り込みは検出されず、床面のみが確認された。上面が削平されているためと考えられる。規模は南北4.7m、東西3.6mを測る。堆積土、壁高は不明である。

床面は黄褐色粘土と黒褐色粘土混じりの貼床である。この堅く踏み固められた範囲を本址の平面プランとした。

ピットは10基が検出された。その内柱穴とされるのは6基である。P 2・4は深くしっかりとした掘り込みだが他は浅い。P 7・8は幅が広く、浅い周溝状を呈する。それぞれの深さは次の通りである。P 1 (14cm)、P 2 (30cm)、P 3 (15cm)、P 4 (70cm)、P 5 (19cm)、P 6 (10cm)、P 7 (11cm)、P 8 (8cm)、P 9 (6cm)、P 10 (16cm)である。

炬は検出されていない。遺物はS T 3482 a から土器や石器が少量出土している。1は胴下半部の1/3を欠くが、全容が窺える深鉢型土器である。S T 3482 a 床面で検出され、胴部上半部に炭化物が多量に付着している。石器は削器などが数点出土している。1の深鉢に付着していた炭化物の放射性炭素年代測定により紀元前3,950~3,700年の測定値が得られている。

紀元前3,950年の
測定値

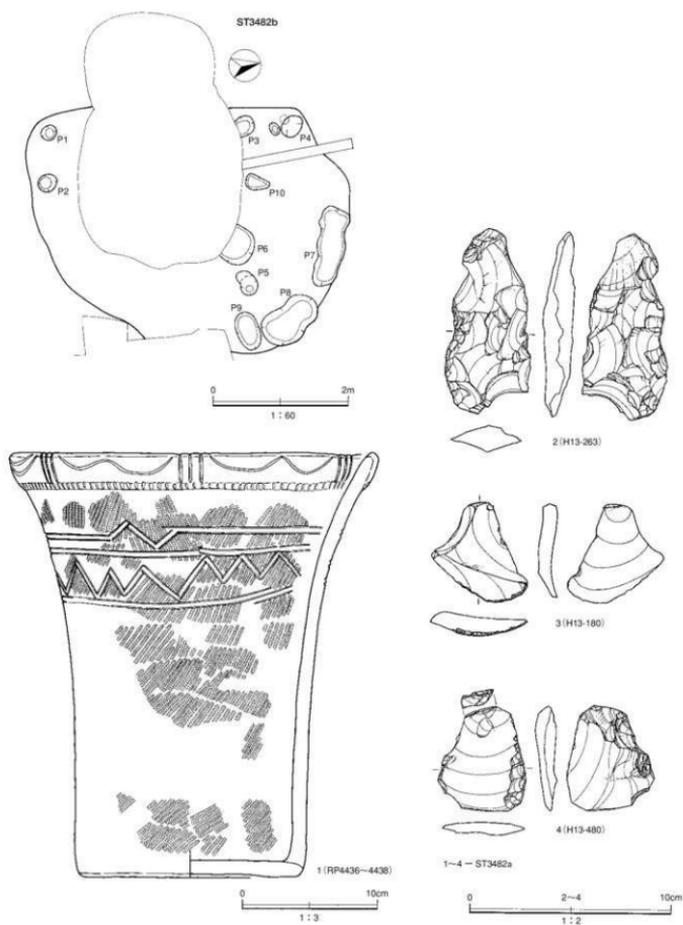


ST3482

- | | |
|------------------------|---|
| 1 75YR4.1 褐色シルト質粘土 | 若下の炭化粒子と黄褐色粘土粒が混じり、ボツボツと柔らかい |
| 2 10YR3.3 暗褐色シルト質粘土 | 若下の炭化粒子と黄褐色粘土粒が多量に混じり、土質は11に近似する |
| 3 10YR4.4 褐色シルト質粘土 | 黄褐色炭化粒子と白色風化礫粒が混じり、また黄褐色粘土中粒 (径1-2cm) が多量に含まれ、しまっている |
| 4 10YR4.2 灰黄褐色シルト質粘土 | 炭化粒子と白色風化礫粒や黄褐色粘土粒が若干混じる、柔らかい |
| 5 10YR2.2 黒褐色シルト質粘土 | 炭化粒子、風化礫粒、黄褐色粘土粒が若干混じる、黄褐色粘土ブロック (径10-15cm) が塊状に含まれる |
| 6 10YR2.1 黒色シルト質粘土 | 炭化粒子、炭化材が割合なして多量に混じる、柔らかい |
| 7 10YR3.4 暗褐色シルト質粘土 | 若下の炭化、黄褐色粘土粒を含み、ボツボツと柔らかい |
| 8 10YR3.1 黒褐色シルト質粘土 | 多量の炭化粒子、若下の黄褐色粘土粒が混じり、特に炭化材が中央部に密集し、しまっている |
| 9 10YR2.2 黒褐色シルト質粘土 | 8に近似するが、9よりさらに土質がしまっている |
| 10 10YR2.2 黒褐色シルト質粘土 | 8、9に近似しているが、黄褐色粘土粒がやや多くなる |
| 11 10YR3.3 暗褐色シルト質粘土 | 10に近似するが、8、9、10に比べて炭化粒子の大粒が塊状に混じる |
| 12 10YR2.2 黒褐色シルト質粘土 | 炭化、白色風化礫粒、黄褐色粘土ブロックがやや多く混じり、やや固くしまった土質 |
| 13 10YR3.4 暗褐色シルト質粘土 | 若下の炭化粒子が混じり、黄褐色粘土粒子やブロック (径3-5cm) 及び白色風化礫が多量に混じり
やや柔らかく急速に堆積している |
| 14 10YR4.3 濃い黄褐色シルト質粘土 | 若下の炭化粒や黄褐色粘土粒が含まれ、柔らかくボツボツしている |
| 15 10YR2.1 黒褐色シルト質粘土 | 大粒の炭化粒子や黄褐色粘土粒が多量に含まれ、柔らかい |
| 16 10YR3.2 暗褐色シルト質粘土 | 炭化粒子、黄褐色粘土粒 (中粒) が多く含まれ、やや柔らかい、15に近似する |
| 17 10YR3.3 暗褐色シルト質粘土 | 炭化粒子の大粒、黄褐色粘土ブロック、黒色粘土ブロックを多量に含み、柔らかい |
| 18 10YR2.1 黒褐色シルト質粘土 | 多量の炭化粒や炭化材が混じり、柔らかい |
| 19 10YR2.1 黒褐色シルト質粘土 | 18に近似するが、炭化粒子の他、黄褐色粘土ブロックが混じり、柔らかい |
| 20 10YR4.2 灰黄褐色シルト質粘土 | 若下の炭化粒子や黄褐色粘土ブロックが若干混じり、砂質性が強い土質である |
| 21 10YR2.3 暗褐色シルト質粘土 | 炭化粒子や黄褐色粘土粒やブロック (径7-10cm) 黒色粘土ブロック (径3-5cm) が多量に混じりやや粘性強い |
| 22 10YR5.4 濃い黄褐色シルト質粘土 | 黄褐色粘土ブロックに若下の黒褐色粘土ブロックが混じる、固く締められており
粘米状になってST3482aの底面となる |

第232図 ST3482a 住居跡

Ⅲ 縄文時代



第233図 ST3482b 住居跡・出土遺物

S T 3501住居跡 (第234・235図 写遺構-162 写遺物-63)

グリッド13・14-99に位置する。西側に傾斜している斜面部、S T 3482の南側及びS T 3467の西側に隣接して所在する。土層断面などからa～dの4基の遺構の重複と推測される。いずれも卵や周溝などは検出されていない。遺物は1～17がある。細い粘土紐による連続山形文・半截竹管文などの深鉢片、搔器などが出土している。

4基の重複遺構**S T 3501住居跡 a**

平面プランは2×2.15mのほぼ正方形を呈する。覆土は1～11層が確認され、黒褐色シルト質粘土～暗褐色シルト質粘土を主体とする。

壁は垂直に掘り込まれる。壁高は西壁で40cm、南東コーナー付近で90cmを測る。これは本址が東から西への斜面に所在するためである。北壁から東壁は重複するS T 3501 b・cのため壁高は40cmほどである。北壁はP 8の溝状遺構が重複しているため壁面は検出されていない。

床面は全体にほぼ平坦であるが、中央部から南西コーナーにかけての床面は5～15cmほど高い。主柱穴は検出されずP 1のみが検出されている。径30～35cm、深さ17cmである。

S T 3501住居跡 b

本址はS T 3501 aの北側に重複する。平面形は隅丸方形～楕円形を呈し、長軸3m、短軸2.7mを測る。堆積土は12～14層が相当する。壁は垂直に掘り込まれる。壁高は東壁で50cm、西壁では20cm前後である。

床面は平坦である。床面には溝状を呈する遺構が見られる。溝はテラス状の張り出しが附随する部分もあるが、概ね幅80cm、現存長1.1m、深さ30cmである。

柱穴は各コーナーと北壁中央部に検出された。位置的にも、掘り込みのしっかりしていることから、P 2・P 4・P 5が主柱穴とみられる。各ピットの床面からの深さは次の通りである。P 2 (40cm)、P 3 (27cm)、P 4 (27cm)、P 5 (28cm)、P 6 (13cm)、P 7 (19cm)である。本址は重複のため全体の1/2を失うが本来は床面に幅広の溝を有し、各コーナー及び壁中央などに壁柱穴を巡らす、S T 3404と同様の構造であったとみられる。

S T 3501住居跡 c

本址のほとんどがS T 3501 bに切れ、わずかに北壁と床面の一部が検出されただけである。平面形は円形～楕円形とみられ径2mと推定される。本址の堆積土は15～18層が該当する。壁高は検出面から20～30cmを測る。床面は東端と西端では10cm程の高低差がある。柱穴は壁際でP 9が検出され、深さ10cm程の浅いピットである。

S T 3501住居跡 d

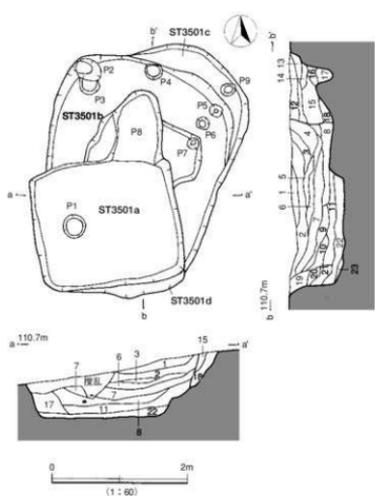
第234図ではS T 3501 aの南壁に本址の壁面が一部みられる。平面形はほとんど不明だが方形を呈していた可能性もある。断面図から規模等を推定すると2m前後と推測され、深さは遺構検出面から80～90cmを測る。壁は垂直に掘り込まれ、床面は平坦である。

S T 3507住居跡 (第236図 写遺構-172)

グリッド14-98に位置する。S T 3467大型住居跡の南西コーナー付近に所在する。平面形は隅丸長方形であったと推測されるが、西側に傾斜する斜面に位置するため西側部分は検出されない。推定規模は南北3.35m、東西2.4mを測る。

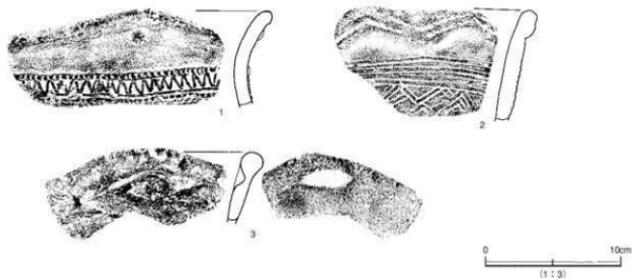
覆土は4層が確認された。暗褐色砂質土を主体とする。5層は掘り過ぎである。壁は垂直に

III 縄文時代



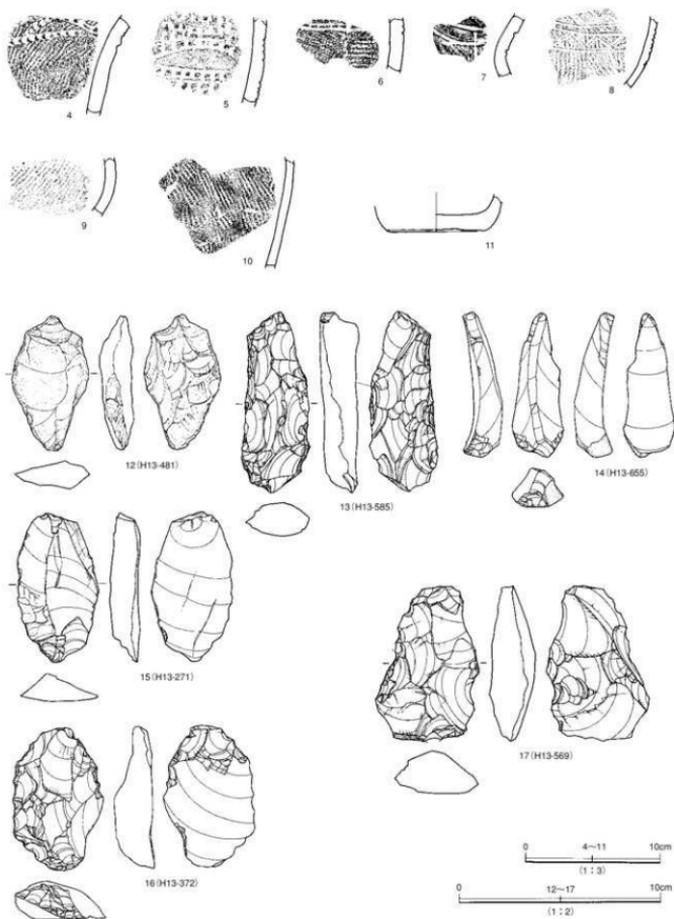
ST3501

- a
- 1 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土 炭化、白色風化礫(小)、黄褐色粘土粒を含み、やや固くしまっているのに近似するが、炭化粒子の量が多くなる
 - 2 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土 炭化粒子、黄褐色粘土粒子を若干含み、やや砂質が強い
 - 3 10YR3/4 暗褐色シルト質粘土 土質が3に近似するが、色調が黒味を増す
 - 4 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土 炭化粒子、黄褐色粘土粒、焼土粒が多数と混じり、上部から下部にかけて、焼土が厚く堆積する
 - 5 10YR3/4 暗褐色シルト質粘土 炭化粒子、黄褐色粘土粒がやや多く混じり、ややしまっている
 - 7 10YR4/1 褐色シルト質粘土 若くは炭化粒子、黄褐色粘土粒が混じる程度で、砂質性が強く、土質は7に近似するが、小礫や礫が多数に混じる
 - 8 10YR4/1 褐色シルト質粘土 炭化粒子、黄褐色粘土粒、風化礫が混じり砂質性が強い
 - 9 10YR4/4 褐色シルト質粘土 9に近似、炭化粒子を多数に含む黄褐色粘土粒ブロック、炭化粒子を多数に含む
 - 12 10YR3/4 暗褐色シルト質粘土 炭化粒子、黄褐色粘土粒、ブロックが多数に混じり、固くしまっている
 - 13 10YR3/3 暗褐色シルト質粘土 炭化粒子を多数に含み、やや柔らかい(自然堆積)
 - 14 10YR3/3 暗褐色シルト質粘土 13に土質が近似、黄褐色粒子を多数に含む、壁の前落土が混じる
 - c 15 10YR5/4 2に近似暗褐色シルト質粘土 黄褐色粘土ブロック(径3~8cm)褐色粘土ブロック(径2~5cm)を多数に含み、固くしまる
 - 16 10YR3/3 暗褐色シルト質粘土 炭化粒子、黄褐色粘土粒ブロック、黄褐色粘土ブロックを多く含み固くしまる
 - 17 10YR3/4 暗褐色シルト質粘土 凝性粘土粒、炭化粒子を含み、柔らかい
 - 18 10YR4/4 褐色シルト 黄褐色粘土粒、砂礫が混じる
 - d 19 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土 炭化、風化礫粒が混じり、固くしまっている
 - 20 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土 19に近似するが、風化礫小礫を多く含み固い
 - 21 10YR4/4 褐色シルト質粘土 黄褐色粘土ブロック、若干の黒色粘土ブロックが混じり、やや固くしまっている。砂質性が強い
 - 22 10YR2/2 黒褐色シルト質粘土 黒色粘土ブロック、黄褐色粘土ブロックや粒子、灰褐色粘土ブロックが混り、固く踏みしめられている
 - 23 10YR4/4 褐色シルト 黄褐色シルトや粘土ブロックが混じる



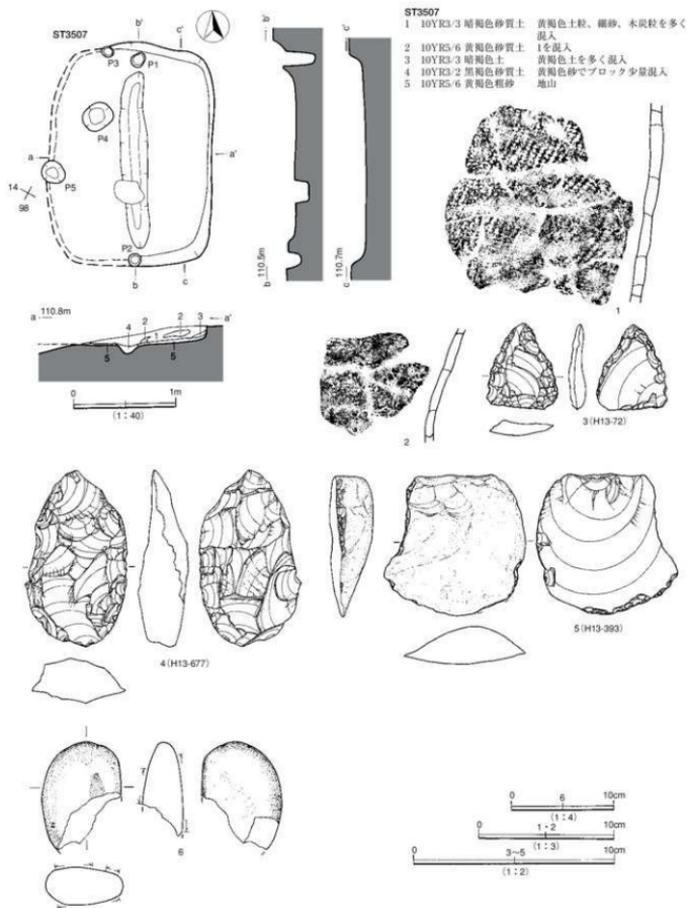
第234図 ST3501住居跡・出土遺物(1)

III 縄文時代



第235図 ST350 住居跡出土遺物(2)

Ⅲ 縄文時代



第236図 ST3507 住居跡・出土遺物

掘り込まれている。黄褐色粗砂の床面は平坦だが、やや西に傾斜しており、あまり堅緻とはいえない。床面の長軸方向に溝状遺構を有する。長さ21m、幅40cm、深さ14cmほどである。その溝の両端部に柱穴を配置する。溝の一部は攪乱を受けている。

床面の溝状遺構

主柱穴はP 1・P 2で、しっかりと掘り込まれる。他柱穴はやや浅い。各柱穴の深さはP 1(46cm)、P 2(23cm)、P 3(13cm)、P 4(18cm)、P 5(15cm)である。

遺物は1～6の深鉢片、石鏃・磨石が少量出土している。

S T 3563住居跡 (第237～247図 写遺構-163 写遺物-63・64・141)

グリッド14～16～94～96に位置する。南西に傾斜する斜面にS T 3467・S T 4036と隣接して所在する。本址は、上面で貼床様の床面が検出され、同レベルで焼土範囲及び周溝様のプランが検出されたため住居跡と想定し、上面で検出された床面をS T 3563aとした。その約10cm下層で検出された大きな楕円形のプランをS T 3563bとした。

上下2枚の床面

当初は大きくS T 3563bのプランが見え、その南側に切り合ってS T 3564が所在していると思われた。しかし、精査を行う過程でS T 3564は土坑と判明し、本址は1棟の大型住居と推定された。S K 3564は、やや大型の土坑であったと思われ、S T 3563bを切っている。

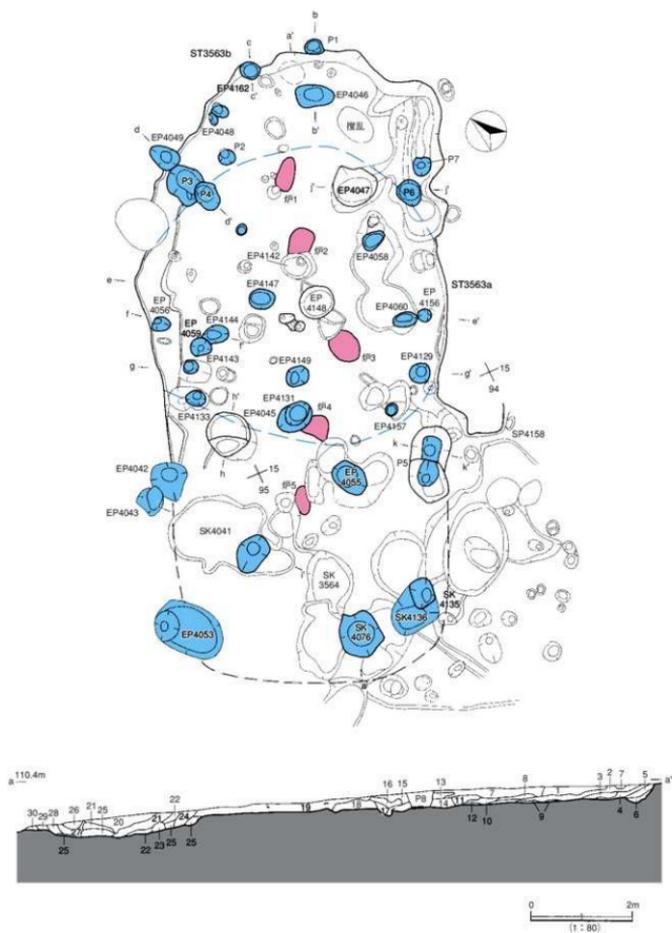
S T 3563aでは、北側・南側の壁は確認されず、床も掘り過ぎてしまった部分が多いが黄褐色土ブロックと暗褐色～黒褐色土混じりの貼床のややゆるまった面が確認された。中央のやや北寄りには焼土範囲があり、地床かと考えられる。焼土範囲は径1mで焼土の堆積は5～7cm程であり焼けていない。この範囲が住居跡のプランとすれば東西6m、南北5.6mの円形に近いプランであったと考える。炉址の周囲にはビットがいくつか検出された。深さ50cm程で比較的深くしっかりとビットや10cm程の浅いビットなどが検出された。西壁下では深さ5～7cmの周溝状のプランが確認された。これらのことから、貼床された住居跡と考えた。

S T 3563bの平面形は、最大で長軸10m以上、短軸6mの隅丸長方形が考えられるが、これは南西壁が未検出のため推定である。覆土は暗褐色土～黒褐色土を主体とする。壁はほぼ垂直に掘り込まれ、検出面からの深さは10～30cmである。南西への傾斜地に所在するため西側では壁面は検出されていない。床面はプランの北東床と南西床では、30cm程の高差がある。炉は焼土範囲が住居跡の長軸の中心に5カ所が並列して検出され地床かと考えられる。この炉のレベルも北東から南西端まで10～20cm程のレベル差がある。

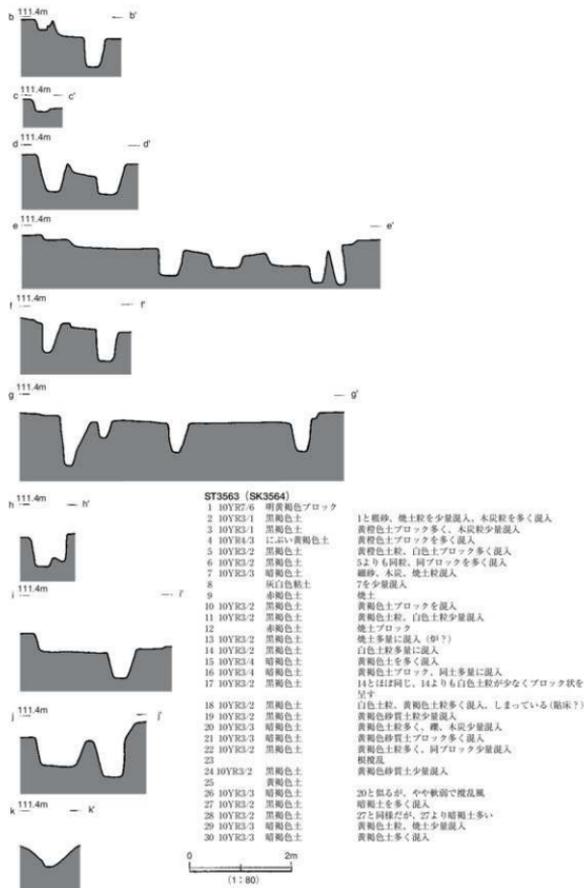
柱穴は、平面形が円形～楕円形で径40～80cm、深さ50～60cmを測り、深いものでは80cm程のものが数本ある。柱穴の配置は不整列で、切り合った柱穴等も多く不明確である。周溝様のプランが北西側で検出されており、幅60cm、深さ10cm程である。

遺物は1～39までは覆土中で出土している。1・2は平行沈線文、4・9・14は単沈線文、3・12は結節状沈線文の深鉢。5・6は同一個体で肥厚した口縁部の両端に刻目文、8は口縁部隆帯に押し縄文の深鉢。10は細い粘土紐に円形刺突文、15は細い粘土紐貼付による斜格子文の深鉢。17～35は石器である。石鏃・石錐・搔器・削器が出土している。36は凹石、37は砥石～石皿片、38は磨石、39は石皿である。40～46はE P 4042・4043・4048柱穴の出土遺物。40・41は細い半截竹管文、44は結節状沈線文とボタン状沈線文、他は平行沈線文の深鉢である。47～55はS K 4041出土である。47～49は同一個体とみられる深鉢である。口縁部突起4単位、結節状沈線文を3条巡らせ、胴部には横位や縦位、同心円～渦巻きの平行沈線文施文、51も47と同

Ⅲ 縄文時代

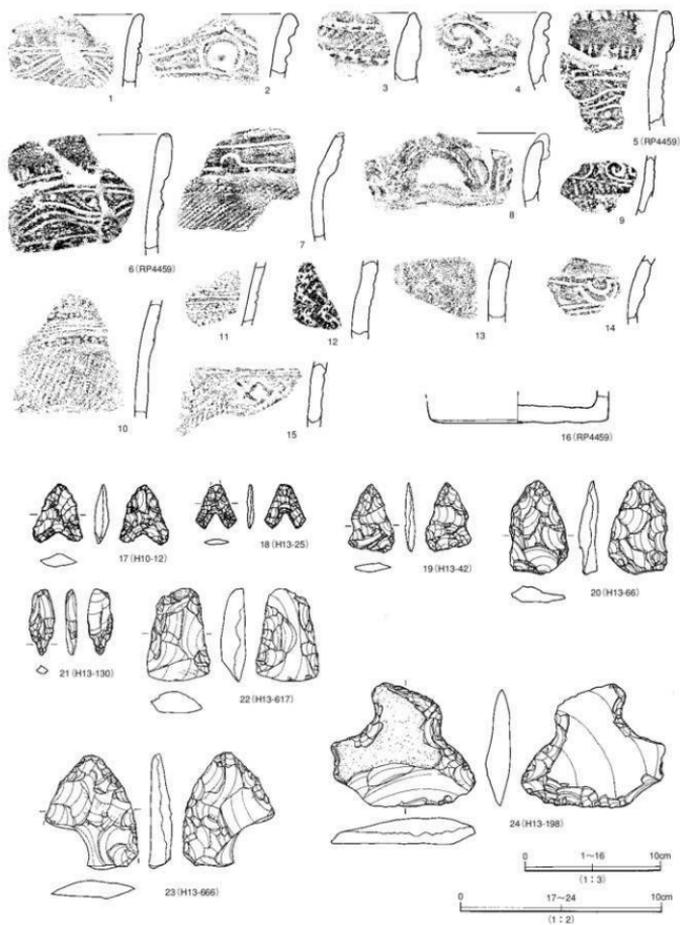


第237図 ST3563 住居跡 (1)



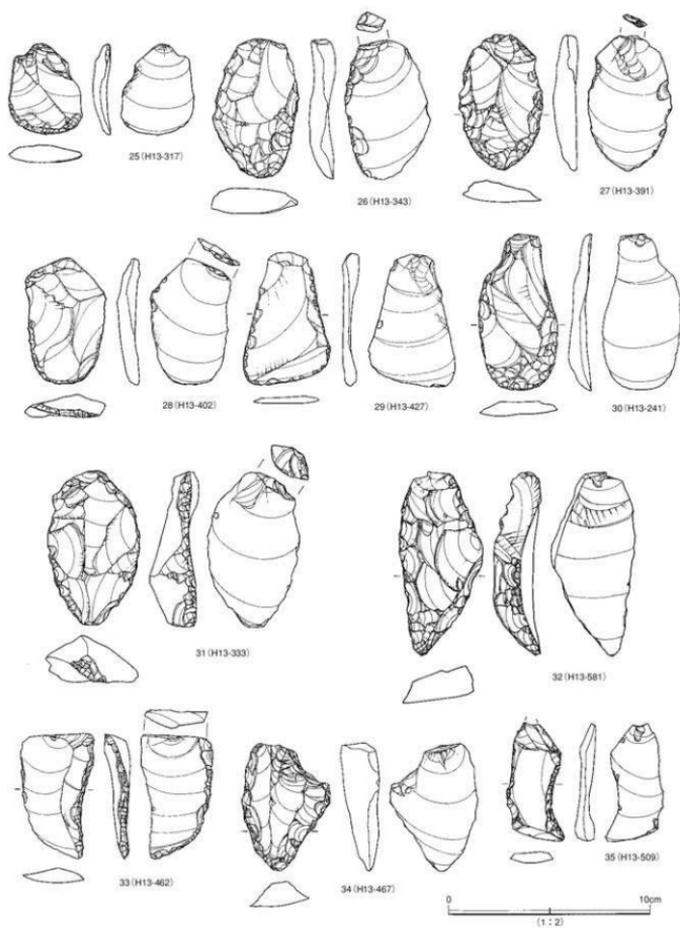
第238図 ST3563 住居跡(2)

Ⅲ 縄文時代



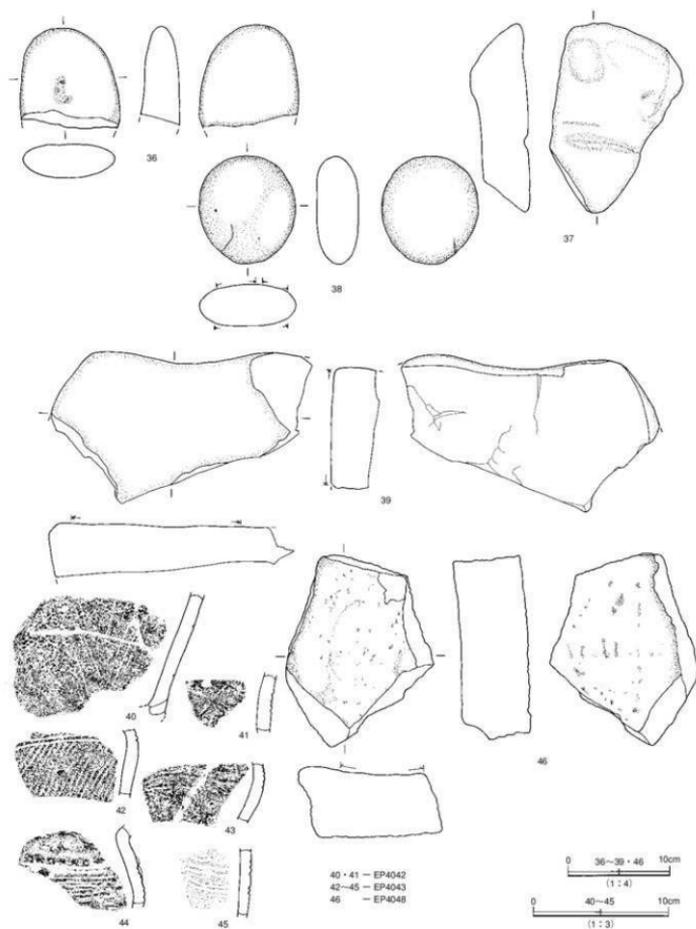
第239回 ST3563 住居跡出土遺物 (1)

Ⅲ 縄文時代



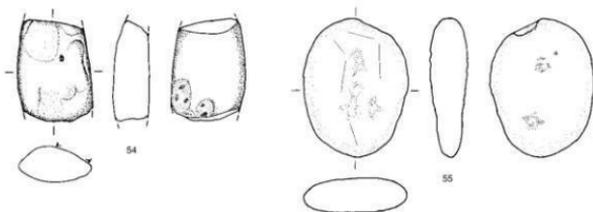
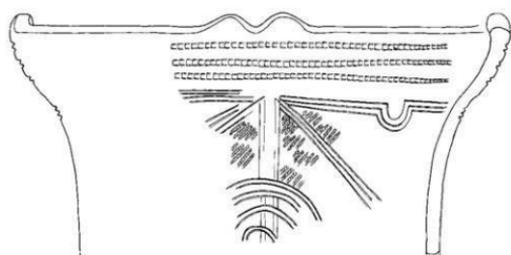
第240図 ST3563 住居跡出土遺物 (2)

Ⅲ 縄文時代

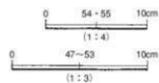


第241図 ST3563 住居跡出土遺物 (3)

Ⅲ 縄文時代

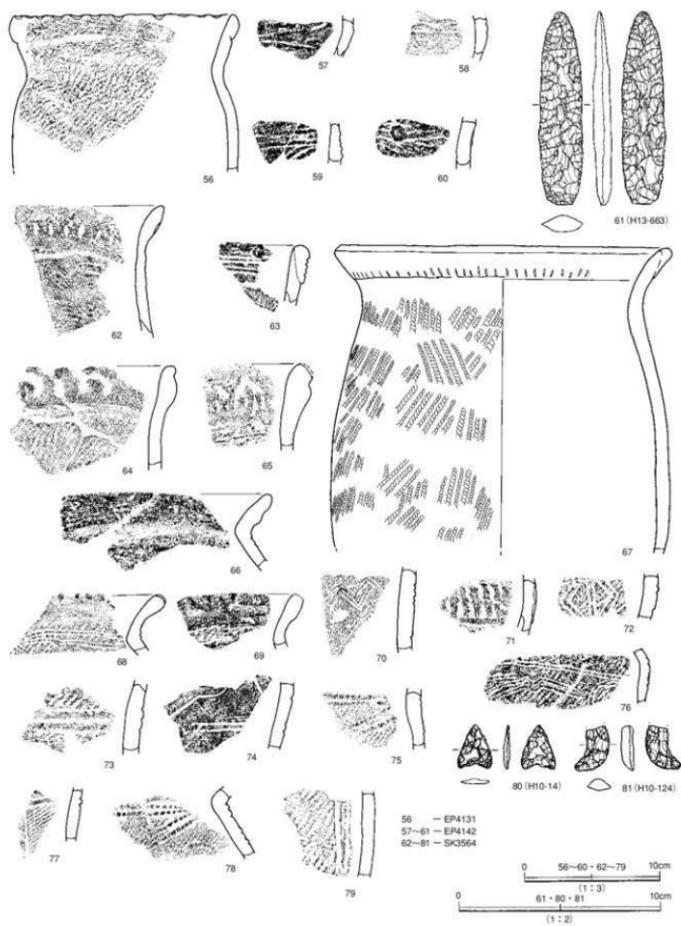


47-55 - SK4041



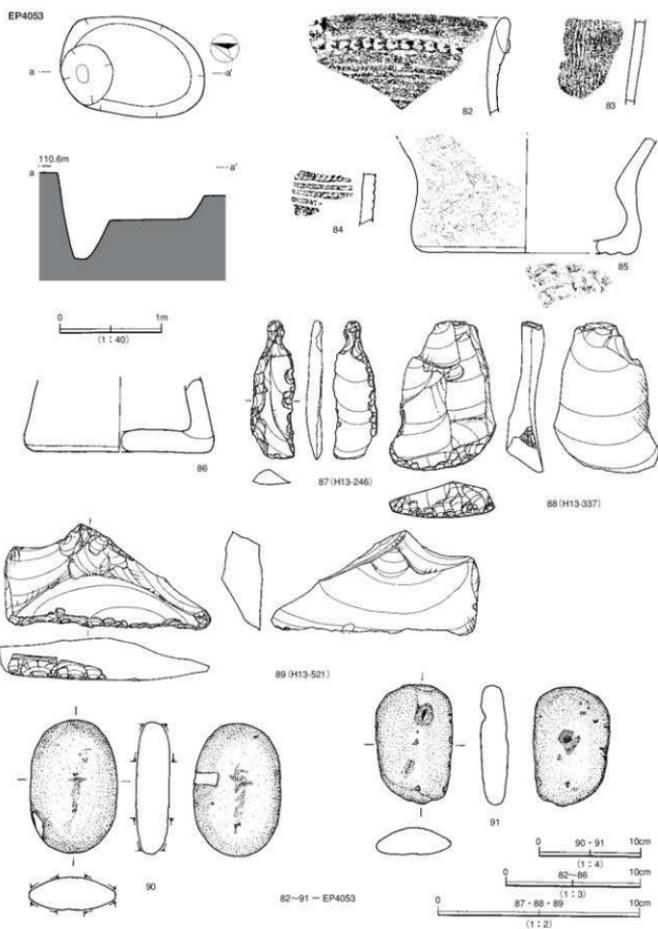
第242回 ST3563 住居跡出土遺物 (4)

Ⅲ 縄文時代



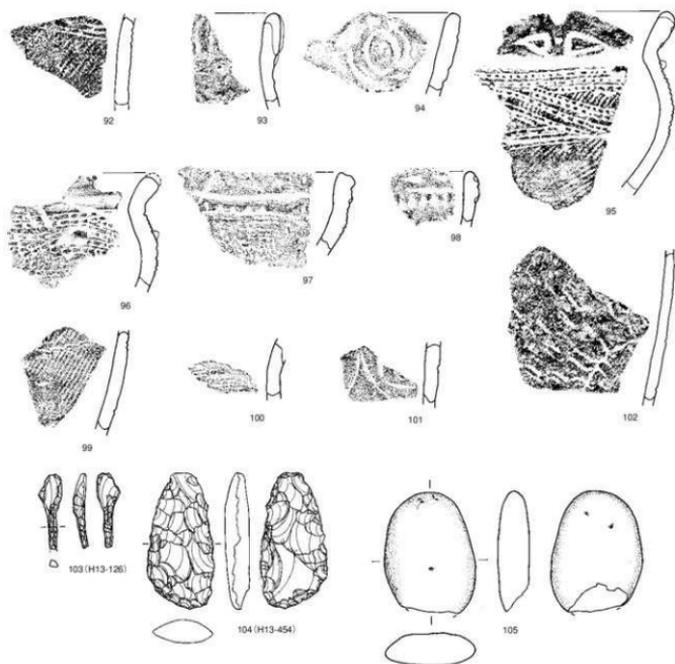
第243図 ST3563 住居跡出土遺物 (5)

Ⅲ 縄文時代

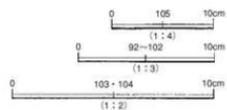


第244回 ST3563 住居跡出土遺物 (6)

Ⅲ 縄文時代



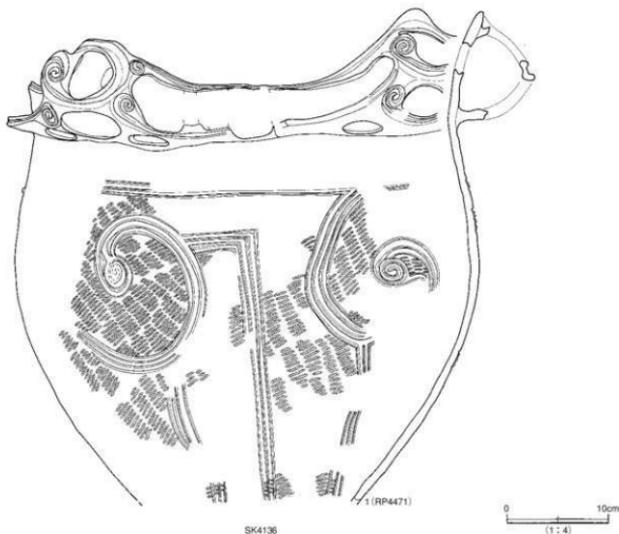
92 — SP4158
93-105 — SK4135



第245図 ST3563 住居跡出土遺物 (7)

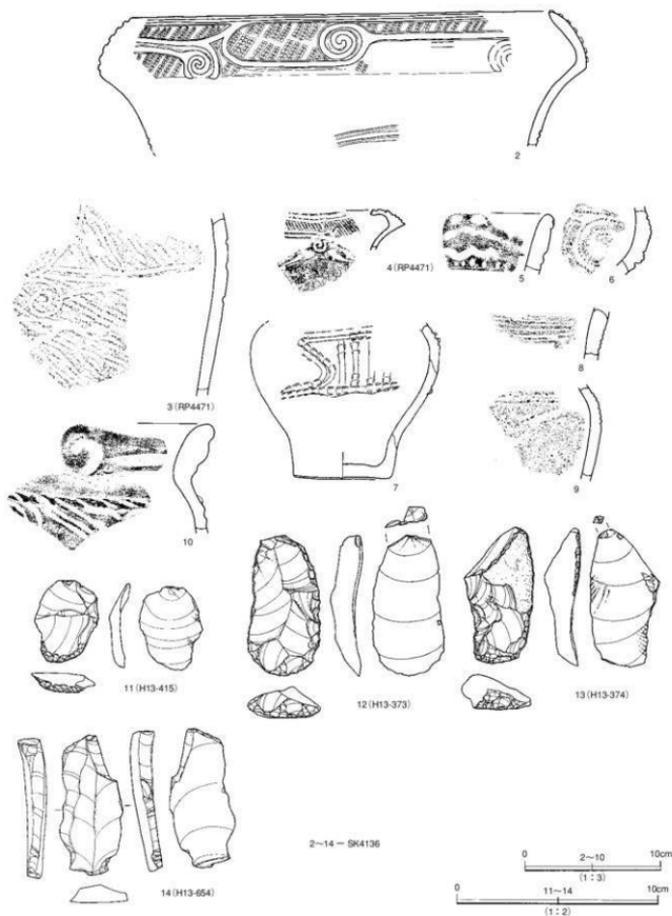
様である。53は結節状沈線文による山形文、渦巻き文の深鉢。54は磨石、55は凹石である。56～61はE P 4131・4142柱穴出土の遺物である。56は口縁部指頭押捺、57～60は平行沈線文、60はボタン状貼付文の深い鉢。

62～81は本址の南西側 S K 3564 付近出土である。遺構精査時には S K 3564 付近の大きな範囲を、S T 3563 と重複する住居跡と考えていた。しかし、最終的に土坑・ピット状の遺構群と確認された。62～81の遺物には S T 3563 の南西側部分の遺物も含まれるとみられる。62・65は口縁部下端に爪形文、64・65は肥厚した口縁部に太い沈線文、66は口縁部下端に結節状浮線文の深鉢。67は口縁部下端に爪形文、68は口唇部刻目、71は連続刺突文、75・78は結節状浮線文、他は半載竹管文の深鉢である。77・79は大木 8 b 式土器深鉢である。82～91は S P 4053 出土の遺物である。82は口縁部隆部に半載竹管による刺突、平行沈線文の深鉢、85・86は台付き鉢底部。87～89は石匙・搔器、90・91は凹石である。92は S P 4158 出土の半載竹管文の深鉢。93～105は S K 4136 付近に所在する S K 4135 出土遺物。93～97は太い沈線文、95～96は結節状沈線文、98は口縁部に刺突文の深鉢。103は石鏃、104は削器、105は磨石。第246・247図の 1～14 は本址の柱穴と重複する S K 4136 土坑出土の遺物である。1～4 は中期大木 8 b 式の深鉢土器である。5～10 は結節状浮線文、沈線文施文の深鉢である。S K 4136 は中期の所産とみられる。



第246図 ST3563 住居跡出土遺物 (8)

Ⅲ 縄文時代



第247回 ST3563 住居跡出土遺物 (9)

S T 3633住居跡 (第248・249図 写遺構-172 写遺物-27・64・117)

グリッド16-93・94の地山面で検出した。全体にS T 4036大型住居跡の東辺に重複して所在する。S K 4032プラスチック土坑やS P 4033など多数の遺構と切り合う。新旧関係はS T 3633が古くS K 4032、S P 4033、S T 4036が新しいとみられる。

平面形は隅丸方形を呈し、確認面で長軸4.2m、短軸2.9mを測る。西側が若干広がる。検出面から床面までの深さは25cmである。本址はS T 3406とプラン・規模ともに非常に良く似た遺構である。

S T 3406と類似

覆土は3層が確認され、黒褐色～にぶい黄褐色シルトを主体とする自然堆積である。1層はS T 4036大型住居跡の床面整地のため堅く締まる。

各壁面ともに、ほぼ垂直に立ち上がる。壁の高さは25cmほどである。南側は重複のため壁高は5cmほどである。

床は平坦で締まりがある。一部北東部分に堅い部分があり、入口部分と想定する。床面に焼土など灰の痕跡は認められなかったが、中央付近に炭化物の分布がみられた。南側は傾斜地に相当する。

柱穴は床面で15基を確認した。径10～20cmを測る。壁の外側を巡る直径10cm前後の小穴E P 4017～E P 4025・E P 3617は垂木穴とみられる。E P 3617からは土器がまとまって出土している。

遺物は1～22が出土している。1～10は半截竹管文の深鉢片である。11～19は掻器・削器、20は円盤状石製品、21は土偶、22は磨石である。22はE P 4024から出土している。

S T 3703住居跡 (第250～262図 写遺構-164・165 写遺物-65・66)

グリッド9-97～99の地山面で確認された。西に向けて傾斜する地形面の東側では住居跡の壁面の一部を確認している。

S T 3202やS T 3812大型住居跡、多数の土坑や柱穴と重複する。新旧関係の明確なものはS T 3202とS K 3154・S K 3148・S K 3678・S K 3682・S K 3124等で、S T 3202は古く、土坑はいずれも本址より新しいとみられる。大型住居跡との新旧関係は古い方からS T 3202→S T 3703→S T 3812とみられる。

平面形は細長い楕円形と考えられる。北西部は床面まで削平されているが、周溝が確認された。また、東側では壁面が確認されていることから、これらの範囲を住居跡とした。

規模は長軸16.4m、短軸4.4mを測る。覆土は3層に分けられる。1層は黒褐色腐植土、2層は黒ボク、3層は褐色粘質シルトで、遺物は主に1・2層から出土する。

16.4mの大型住居

東側では地山を壁とする。西側は旧表土中に壁が掘り込まれていたとみられ、地山面では検出できなかった。東壁の高さは10cmを測り、立ち上がりは緩やかである。

床は地山の粘土層上面を床とする。床面は緩やかな凹凸があり、堅く締まっている。炭化物や焼土の混入が多く、ほぼ平坦に整地されている。

床面周囲には、幅10cm前後、深さ15cm前後の周溝が巡っている。周溝内には小ピットがみられる。

床面に巡る周溝

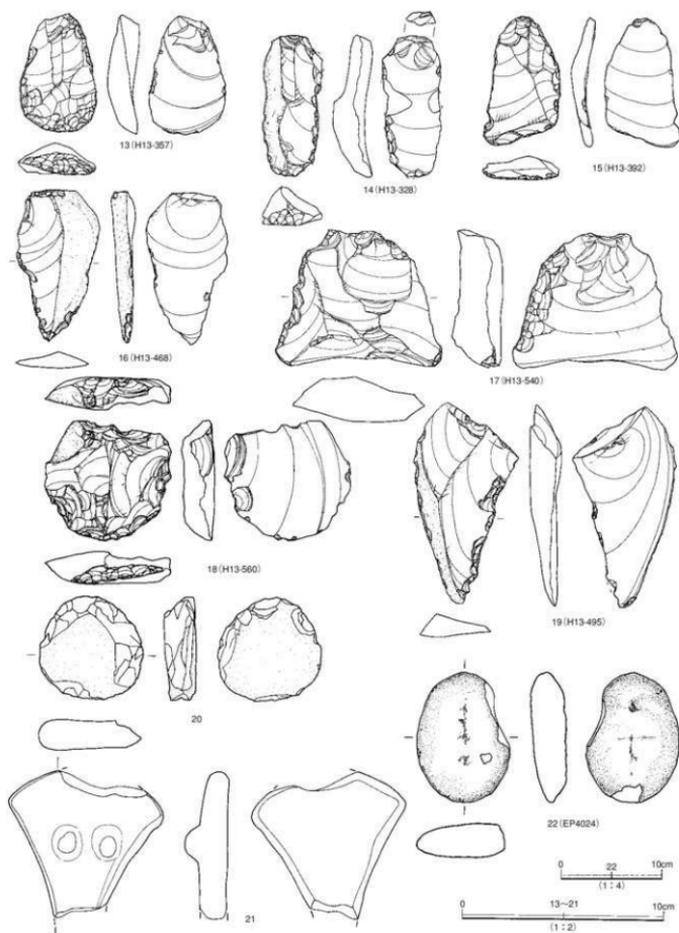
床面及び住居跡周囲で約60カ所の柱穴・小穴が検出された。これらは確認面や規模・深さから、他の遺構とも関連する。この中でS T 3703を構成するとみられるものについて記述する。

Ⅲ 縄文時代



第248図 ST3633 住居跡・出土遺物 (1)

Ⅲ 縄文時代



第249回 ST3633 住居跡出土遺物 (2)

Ⅲ 縄文時代

径20cmほどの大きい柱穴は主柱穴とみられ、壁や周溝の内側に位置している。住居中央部は、S T3202住居跡と重複し、柱跡を確認することができなかった。

主柱穴は掘り方を持つものが多く、住居の長軸線に平行するように配置する。これらを検討するとE P3157-E P4002、E P3147-E P3676、という長軸線をささむ2つの相対関係が認められ、相対関係のつかめなかった柱穴も主柱穴の可能性がある。

壁周辺や周溝部に位置する小穴は壁際・壁外柱穴と考えられる。周溝内と壁外側と2列認められた。主柱穴の2本ずつの相対関係や周溝が2本重なる点など住居の建て替えを示すと考えられるが、その新旧関係はつかめなかった。

住居内部にも多数の小穴が検出されたが、内部プランを把握するまでには至らなかった。それぞれの柱穴や土坑の掘り込みの深さは次の通りである。P 1 (68cm)、P 2 (35cm)、P 3 (43cm)、P 4 (43cm)、P 5 (64cm)、P 6 (90cm)、P 7 (100cm)、P 8 (100cm)、P 9 (50cm)、P 10 (83cm)、P 11 (72cm)、P 12 (87cm)、P 13 (70cm)、P 14 (37cm)、E P 3178 (95cm・105cm)、E P 3170 (80cm)、E P 4004 (88cm)、E P 3147 (70cm)、E P 3165 (60cm)、E P 3166 (53cm)、E P 3167 (51cm)、E P 3676 (60cm)、E P 3677 (70cm)、S K3148 (82cm)、S K3678 (90cm)、E P 3698 (27cm)、E P 3697 (15cm)、E P 3688 (43cm)、E P 3766 (60cm)、E P 3764 (60cm)、E P 3761 (60cm)、S K3760 (30cm)、S K3123 (50cm)、S K3134 (50cm)、S K3124 (90cm)、E P 3196 (30cm)、E P 3197 (86cm)、E P 3157 (55cm)、E P 3156 (130cm)、E P 4002 (70cm)、E P 3135 (65cm)、E P 3125 (62cm)、S P 3143 (16cm)、S P 3144 (15cm)である。西壁の外に巡る柱穴はS P 3185 (78cm)、S P 3731 (38cm)、S P 3683 (18cm)、S P 3687 (15cm)などがある。さらに本址の壁外の北側にはS K3140やS K3209などの直径30cm、深さ1m前後の掘り込みを持つ柱穴が調査区外まで続いている。これらは本址E P3178とほぼ同様の柱穴で、E P3178から北西に4.5m等間隔で並ぶ。床面上で3カ所の焼け面が検出されている。このうち2カ所は重複するS T3202の覆土中で確認している。いずれも地床と考えられる。炉は長軸線上に位置し、堅く焼けており使用頻度が高かったものとみられる。埋設土器などはみられない。炉周囲で石皿や凹石が出土している。

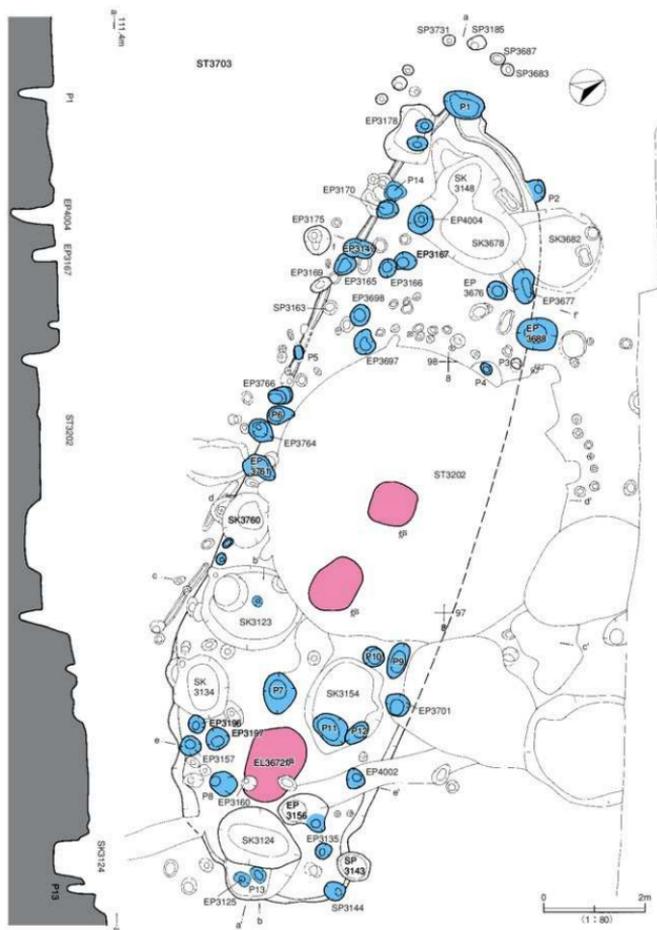
壁外に続く柱穴

遺物は覆土・床面・柱穴から縄文土器と石器が多数出土した。1～49は覆土や床面での出土である。1～26は沈線文・細い粘土紐貼付文・半載竹管文の深鉢口縁部片や胴部片、27～31は副代重の深鉢底部である。32～44は石鏃・尖頭器・石匙・搔器・削器・石核などの石器である。45～48は磨石・凹石で、49は石皿である。

E P3146からは50～53の深鉢片・削器、E P3178からは54～64が出土。54～59は半載竹管文・爪形文の深鉢、60～63は削器・搔器・尖頭器、64は擦痕のある磨石である。この他にも各柱穴から遺物が出土している。68は凹石、70は石斧、75は磨石である。82はE P3701から出土した半載竹管による連続菱形文を底部付近まで施文する深鉢である。

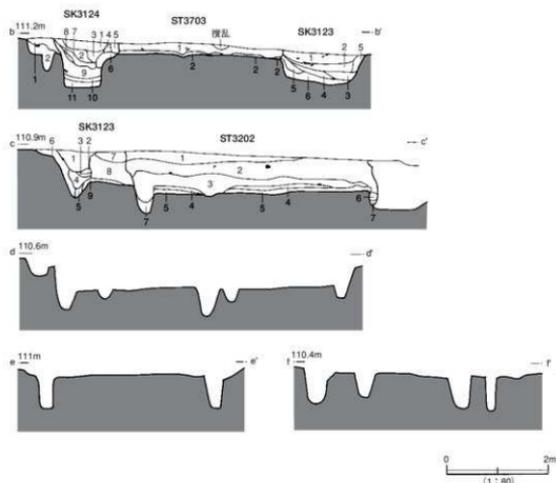
本址内に所在する土坑からも遺物が多数出土している。S K3123からは86～108が出土している。86～103は押圧縄文・太い沈線文・半載竹管文・ボタン状貼付文の深鉢である。104・105は搔器である。106は石棒片で107は石皿片、108の円盤状石製品が出土している。

S K3124からは109～113の深鉢、114～116は搔器、117の凹石がある。S K3134では118～125の深鉢片・搔器・削器、S K3148では深鉢片、S P3765からは129の石斧などが出土している。



第250図 ST3703 住居跡 (1)

Ⅲ 縄文時代



ST3703

b-f

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト
2 10YR4/4 褐色粘質シルト

炭化粒、炭片混じり、下部に土器多い、2の間の
しりり
上部は汚れている、一部、土器、石器くい込む、固い

SK3123

b-f

- 1 10YR3/2 黒褐色腐植土
2 10YR3/3 暗褐色腐植シルト
3 10YR2/1 黒色腐植シルト
4 10YR3/3 暗褐色シルト
5 10YR4/4 褐色シルト
6 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト

固い、根痕見あり、土器、石器含む
土器、石器含む
10YR6/6明黄褐色粘質シルト、柔らかい、混合50%
炭化物粒
炭化物混じり、土器含む
粘質シルト混じり、柔らかい
少し粘性あり

SK3124

b-f

- 1 10YR3/2 黒褐色腐植土
2 10YR3/2 黒褐色腐植土
3 10YR2/3 黒褐色シルト
4 10YR3/3 暗褐色腐植土
5 10YR3/3 暗褐色腐植土
6 10YR3/3 暗褐色腐植土
7 10YR3/1 黒褐色粘質シルト
8 10YR3/3 暗褐色腐植土
9 10YR3/3 暗褐色腐植土
10 10YR3/3 暗褐色腐植土
11 10YR4/3 暗褐色粘質シルト

遺物多い、糞合み、炭化物粒混じり
10YR4/6褐色シルトの混合土、下部に炭化物粒
多い
細砂混じり、固くしまっている、炭片1-2cm
遺物出
10YR6/6明黄褐色粘質シルトの混合土、褐色粘
土が多い
4よりも10YR3/3暗褐色腐植土が多く混じる、炭
片若干あり
ほぼ同じ
細砂混じり、炭化物が多い、固くしまっている
遺物出
10YR6/6明黄褐色粘質シルト粒の混合土、炭片粘
混じる、遺物出
10YR6/6明黄褐色粘質シルトの混合土、褐色粘
土が多い、遺物出
8じや9の中が多く含む、遺物出
サクサクしている、遺物出

SK3123

c-e

- 1 10YR4/4 褐色腐植土
2 10YR4/4 褐色腐植土
3 10YR5/8 黄褐色粘質シルト
4 10YR5/1 褐色粘質シルト
5 10YR5/1 褐色粘質シルト
6 10YR6/6 明黄褐色粘質シルト
7 10YR3/2 黒褐色腐植土
8 10YR5/1 褐色粘質シルト
9 10YR6/6 明黄褐色粘質シルト

粗砂混じり、固い、10YR6/3に近い黄
褐色シルト粘質シルト、遺物含む
混じり土、やや腐植土（黒褐色）が多い
炭片混じり、遺物含む
炭片混じり、遺物含む
炭片小あり、柔らかい、遺物含む
炭片小あり、柔らかい
硬土
固い
炭化物混じり、土器、石器あり
池田

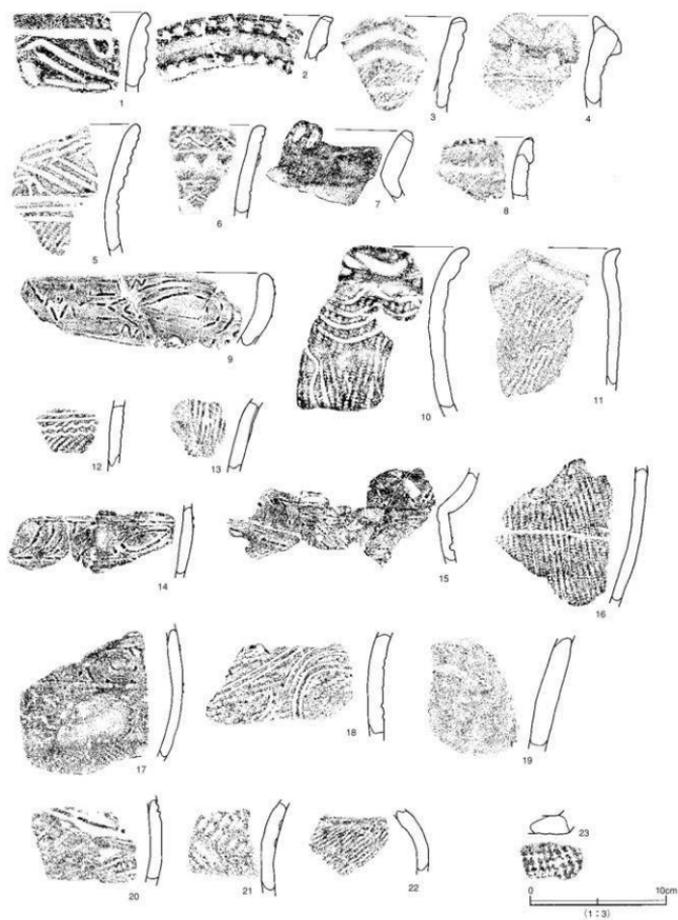
ST3202

c-e

- 1 10YR3/3 暗褐色腐植土
2 10YR3/2 黒褐色腐植土
3 10YR3/1 黒褐色腐植土
4 10YR6/6 明黄褐色粘質シルト
5 10YR3/3 暗褐色砂
6 10YR6/6 明黄褐色粘質シルト
7 10YR4/4 褐色砂

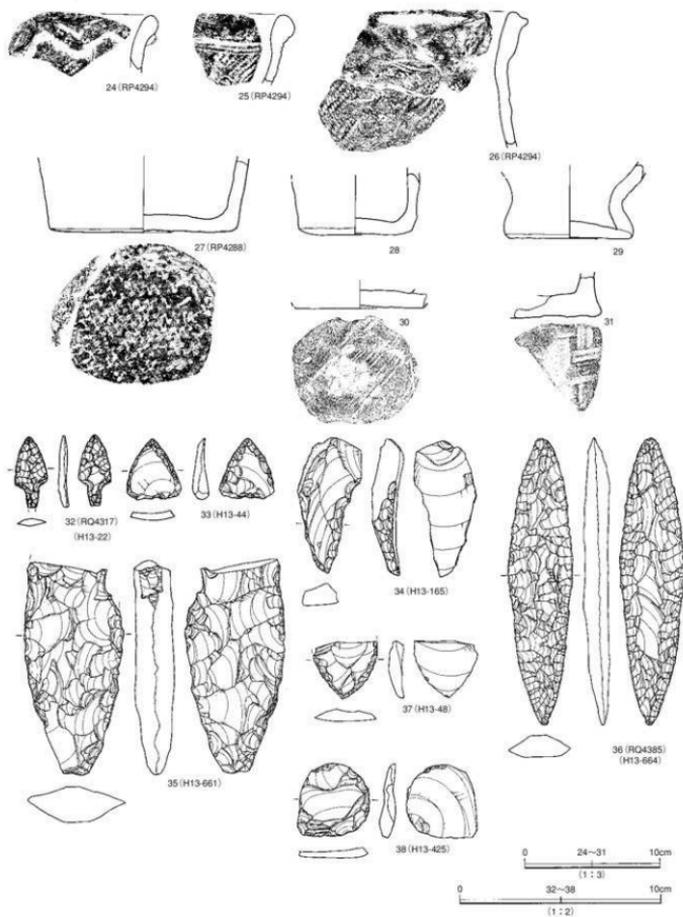
ST3703埋土、床土、積込に入りこむ
埋10-15cm、土器、石器多い、炭化物ま
まじり多い、固くしまる
小礫2-5cm散在、炭化粒小さく、土器
石器あり、固くしまり
固くしまり、10YR3/1暗褐色腐植土、炭
化物粒含む、遺物なし、扇状地
4の汚れ、扇状地
ブロッカ大、流れ込み
溝底

第251図 ST3703 住居跡 (2)



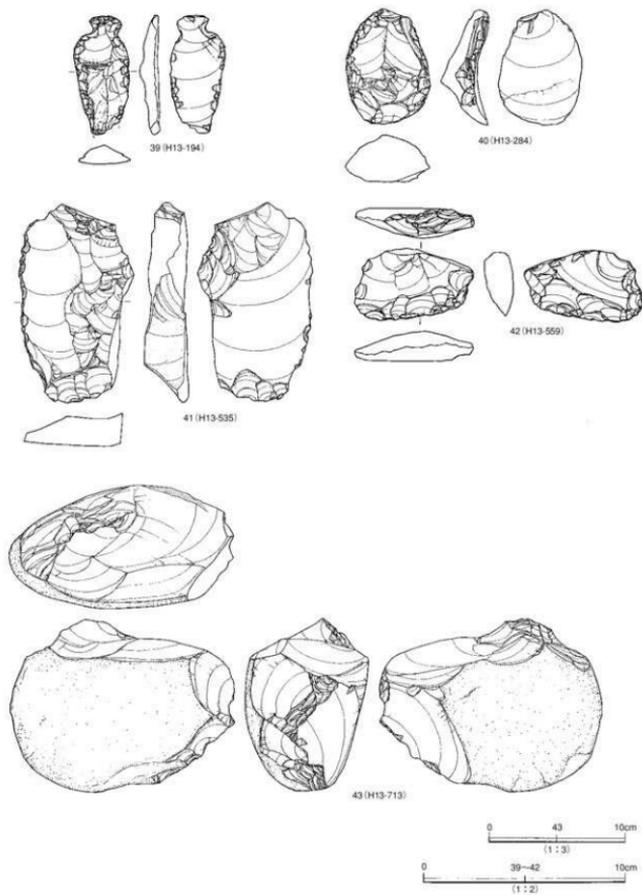
第252図 ST3703 住居跡出土遺物 (1)

Ⅲ 縄文時代



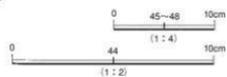
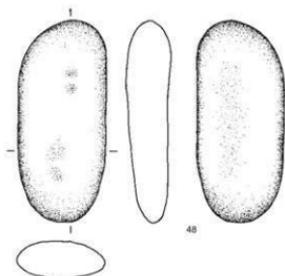
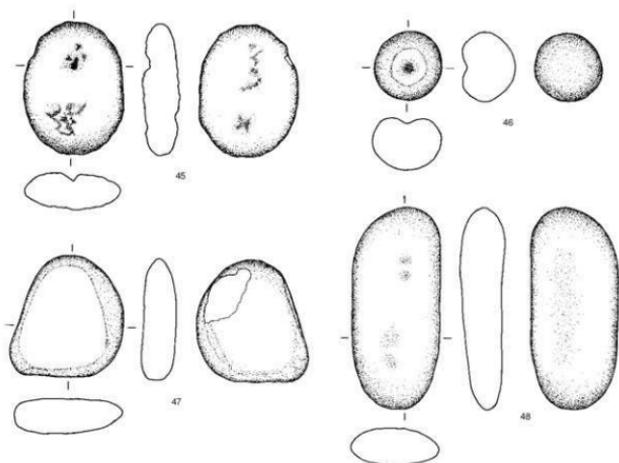
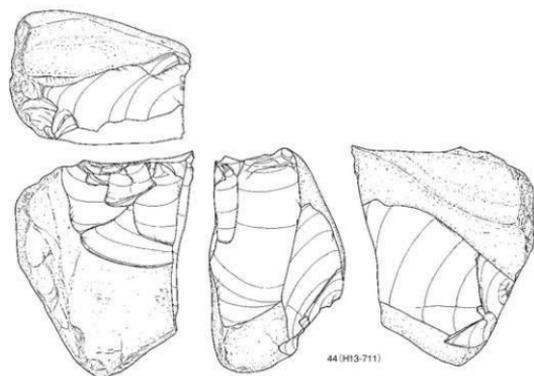
第253図 ST3703 住居跡出土遺物 (2)

Ⅲ 縄文時代



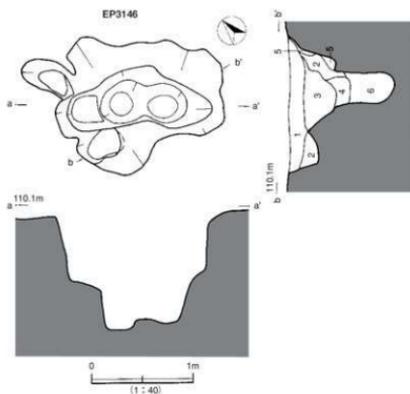
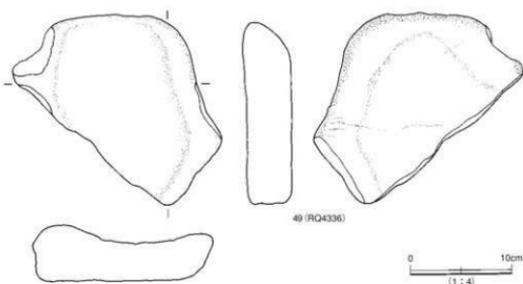
第254図 ST3703 住居跡出土遺物 (3)

Ⅲ 縄文時代

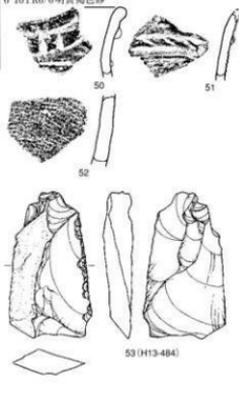


第255図 ST3703 住居跡出土遺物 (4)

Ⅲ 縄文時代

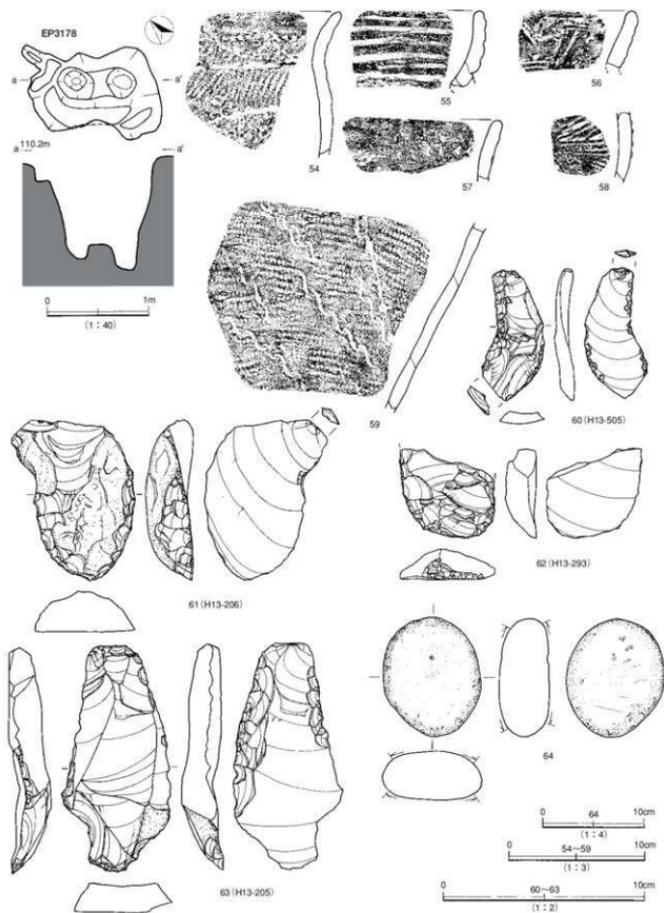


- EP3146
- | | |
|--------------------|---------------|
| 1 10YR3/3暗褐色腐植土 | 粗砂まじり、土器、石器あり |
| 2 10YR6/6明黄褐色粘質シルト | 炭化物粒 |
| 3 10YR3/3褐色土 | より固くしまり炭化物含む |
| 4 10YR4/2灰黄褐色砂質シルト | 柔らかい |
| 5 10YR4/4褐色土 | カベ流れ、汚れている |
| 6 10YR6/6明黄褐色砂 | |



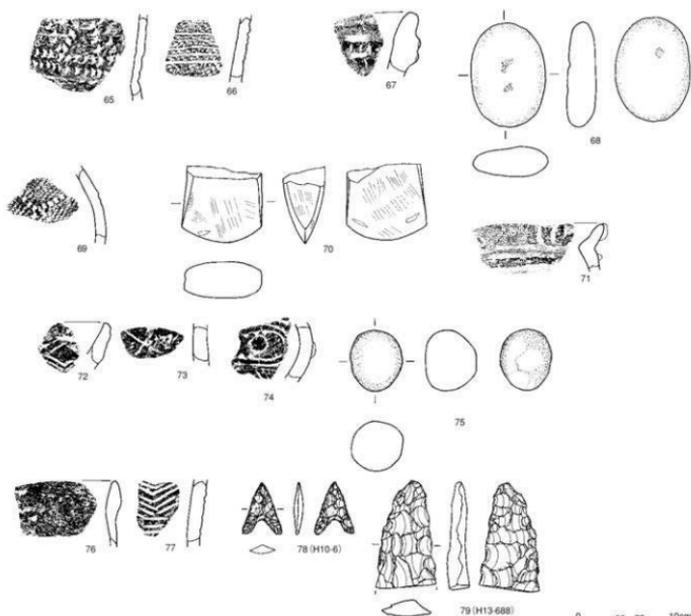
第256図 ST3703 住居跡・出土遺物 (5)

Ⅲ 縄文時代

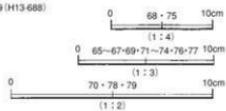


第257図 ST3703 住居跡・出土遺物 (6)

Ⅲ 縄文時代

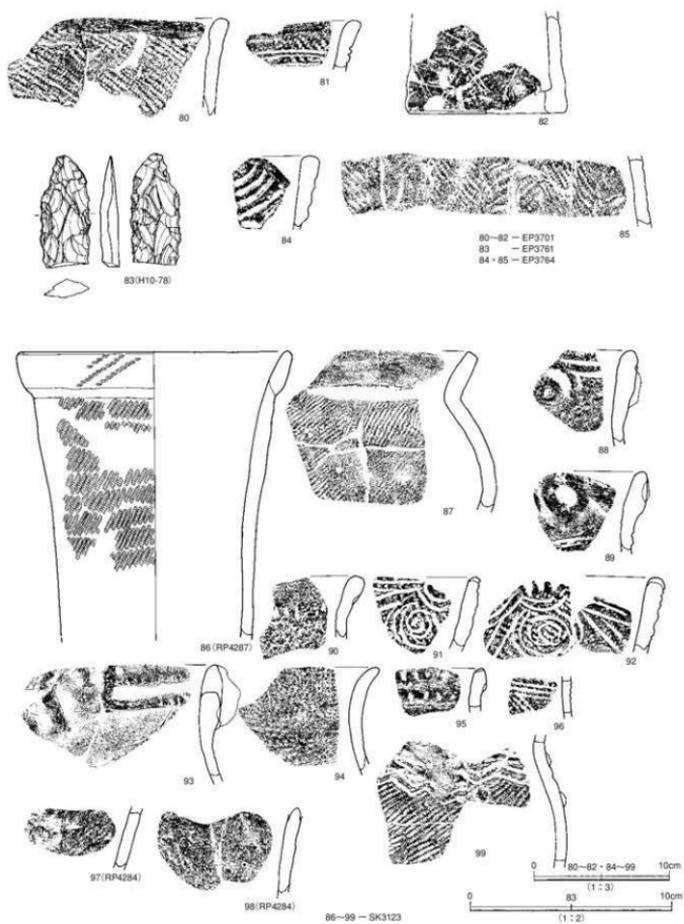


- 65・66 - EP3156
 67・68 - EP3157
 69 - EP3160
 70 - EP3169
 71 - EP3196
 72-75 - EP3678
 76-79 - EP3688



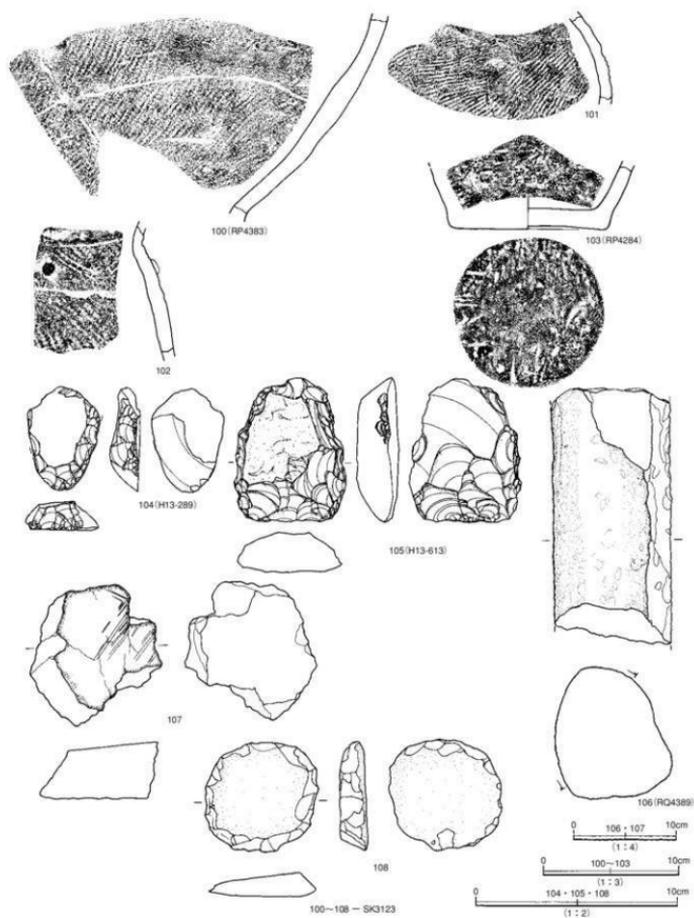
第258回 ST3703 住居跡出土遺物 (7)

Ⅲ 縄文時代



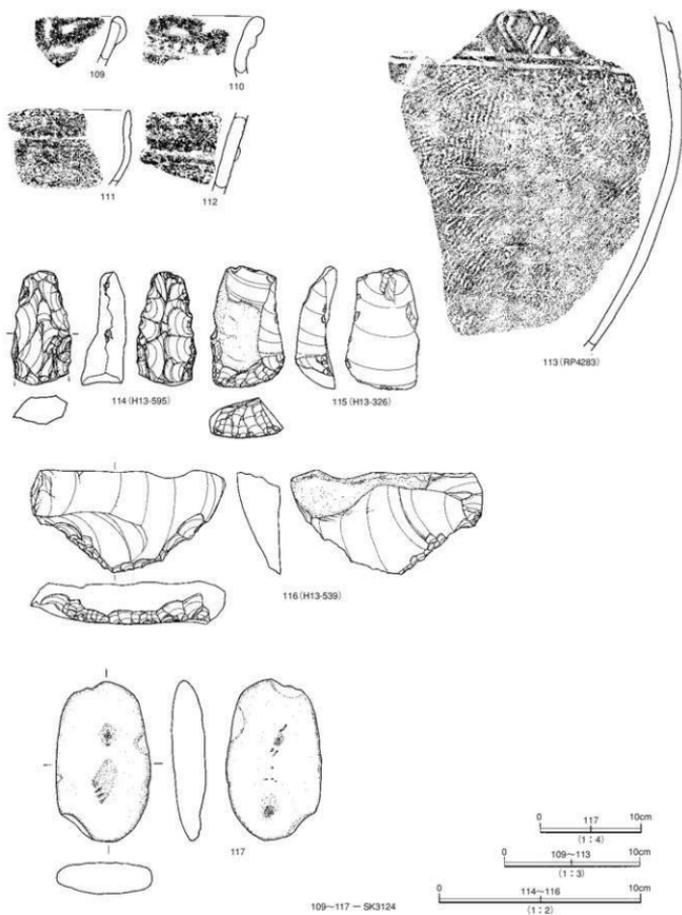
第259図 ST3703 住居跡出土遺物 (8)

Ⅲ 縄文時代



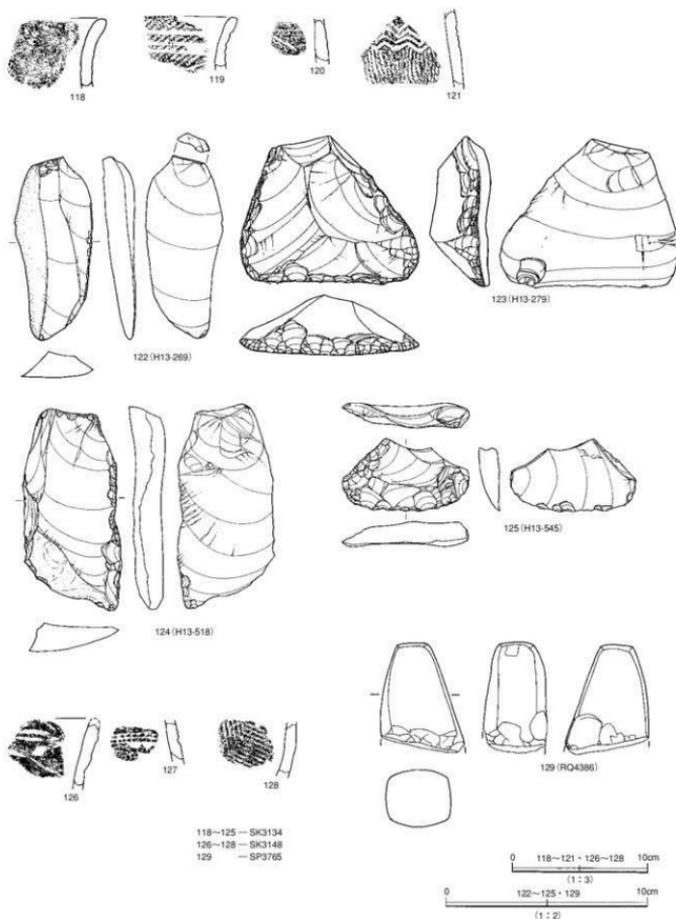
第260図 ST3703 住居跡出土遺物 (9)

Ⅲ 縄文時代



第261図 ST3703 住居跡出土遺物 (10)

Ⅲ 縄文時代



第262図 ST3703 住居跡出土遺物 (11)

Ⅲ 縄文時代

S T 3812住居跡 (第263～268図 写遺構-166・167)

グリッド9・10-95～98に位置し、S T 3136やS T 3703大型住居跡と重複する。S T 3812の住居跡がS T 3703の覆土を切っていることから本址の方が新しい。

また、S T 3136は埋没後整地され、本址の卵が重複していることから、本址より古い。S K 812・S K 795の土坑も本址よりも古い掘り込みである。

18mの大型住居 本址の規模は梁の柱跡を基準にすると長軸は約18m、幅5.2～7.2mを測る。平面形は長方形を呈する。覆土は暗褐色土を主体とし、焼土・炭化物・土器片・石器片が混入する。床面は西に傾斜し、平坦で固く締まっている。

80cmの大型柱穴 主柱穴は、E P 805・E P 3113・E P 3114・E P 3156・E P 3809・E P 3123・E P 3349・E P 3732・E P 3359・E P 3738・E P 3142などである。いずれも大型の柱穴で、径80cm、深さ100cmを測る。主柱穴は長軸線上に対称に配列されている。北側に6本、南側に5本の両側11本で構成される。これらが上部構造を支えたものと考えられる。

主柱穴間の距離は、2.3m・2.5m・3.0m・3.3mである。主柱穴に沿って、間に径10cm前後の小ピットが配置されている。梁柱のE P 3126・1573・918等が外部に突出しているのが特徴である。また本址の東に隣接して所在するS P 794は大型柱穴である。本址がさらに東に延びる可能性を示しているものとも考えられる。

焼土範囲を1カ所確認した。地床がと考えられる。本址に重複するS T 3136の覆土中で確認している。出入り口の位置は不明である。

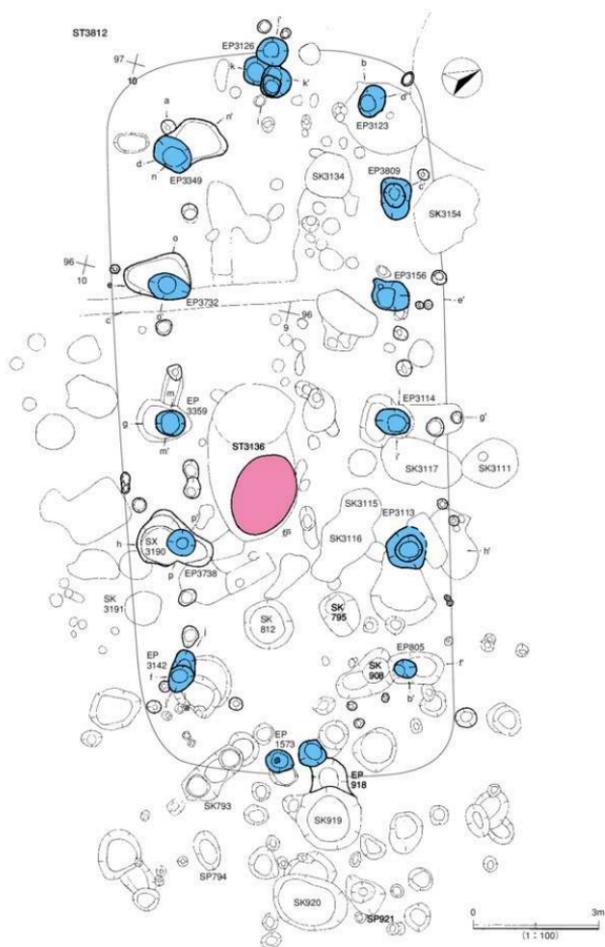
建物内部にS K 3136・S K 3134・S K 3115・S K 3116・S K 812などの土坑が存在する。これらの土坑の堆積土上面に住居跡の覆土の流れ込みがあることから、この大型住居以前に構築されたものとみられる。

遺物については本址が建物としての確認が遅れたことから、グリッド毎に遺構外出土遺物として取り上げたものの中にも含まれているとみられる。

主柱穴内および底面からも土器・石器が出土している。1はE P 805出土の深鉢口縁部、2はS K 908出土の深鉢、3・4はE P 3113出土の石鏝・石匙である。5はE P 3126出土の深鉢、6はE P 3142出土の掻器、7・8はE P 3156出土の深鉢片である。

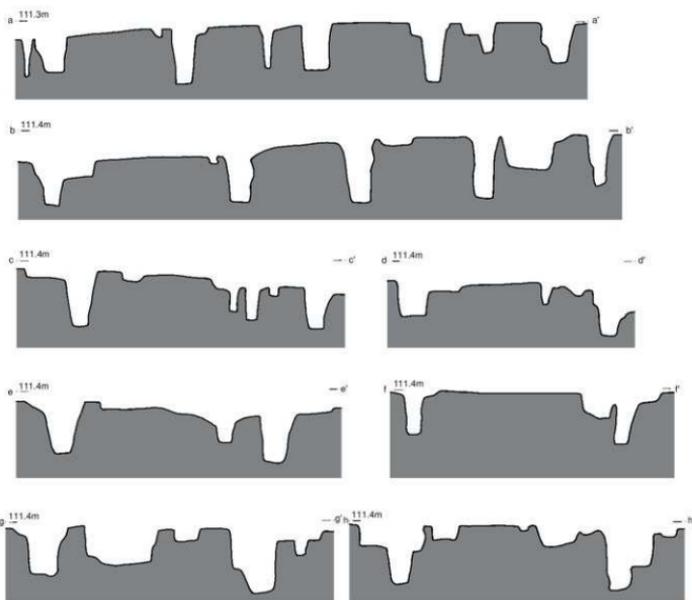
7はS X 3190出土の石皿。8～12はE P 3349出土の深鉢片・石匙・掻器・削器である。13・14はE P 3359出土の深鉢片・凹石。15～17はE P 3732出土の深鉢片・掻器である。

18～20はS K 812出土。18は細い粘土組貼付による連続山形文の深鉢、19は石鏝、20は砥石である。



第263図 ST3812 住居跡 (1)

Ⅲ 縄文時代



EP3114

- 1 10YR2/3 黒褐色粘質シルト
- 2 7.5YR4/4 褐色シルト質砂
- 3 7.5YR5/6 明褐色粘質シルト
- 4 7.5YR5/6 明褐色粘質シルト
- 5 7.5YR4/4 褐色シルト質砂
- 6 10YR2/3 黒褐色粘質シルト
- 7 7.5YR4/4 褐色砂質シルト
- 8 7.5YR4/4 褐色シルト
- 9 10YR5/4 におい黄褐色シルト
- 10 7.5YR4/3 褐色砂質シルト

地山土を点状に少量含み、炭化粒を含む

1. 地山粒を底に含み、雜含む

1を少量含み、5を底に含む、雜含む

3と同様だが、1を多量に含み、炭化粒含む

地山土を小ブロック状に含み、1を少量含む

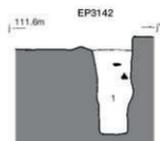
1と地山土の混合土

色調やや黄色っぽい、1を小ブロック状に含み、炭化粒、植物根、雜含む

1を点状、まだら状に多量に含み、炭化粒、植物根含む

1を小ブロック状に少量含み、炭化粒、植物根含む

炭化粒含む



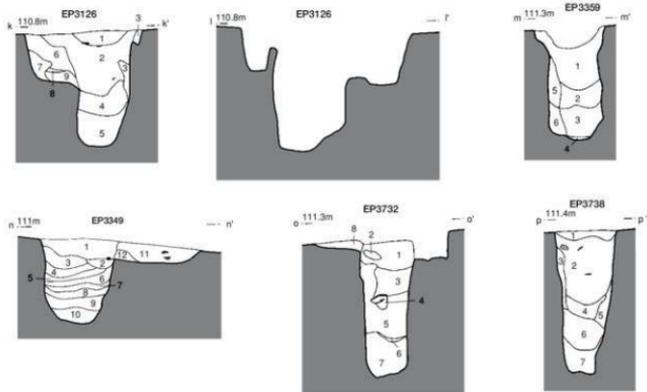
EP3142

EP3142

- 1 10YR2/1 黒色シルト 下層に地山、近くにブロック状に炭化粒を含む



第264図 ST3812 住居跡 (2)



EP3126

- 1 10YR4/3 におい黄褐色シルト
2 10YR3/3 暗褐色腐植質シルト
3 10YR4/4 褐色砂質シルト
4 10YR4/4 褐色シルト
5 10YR4/4 褐色砂質シルト
6 10YR4/4 褐色シルト
7 10YR4/4 褐色シルト
8 10YR3/2 黒褐色腐植土
9 10YR4/4 褐色砂質シルト

EP3349

- 1 10YR3/2 黒褐色腐植土
2 10YR2/2 黒褐色腐植土
3 10YR6/6 明黄褐色粘質土
4 10YR3/2 黒褐色シルト
5 10YR6/2 灰黄褐色粘質シルト
6 10YR3/2 黒褐色粘質シルト
7 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト
8 10YR3/2 黒褐色シルト
9 10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト
10 10YR3/1 黒褐色腐植質シルト
11 10YR3/2 黒褐色腐植土
12 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト

EP3359

- 1 10YR2/3 黒褐色腐植土
2 10YR3/3 暗褐色腐植質シルト
3 10YR3/3 暗褐色腐植質シルト
4 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト
5 10YR3/2 黒褐色土
6 10YR3/2 黒褐色土

- 10YR6/6 明黄褐色粘土ブロック
粗砂混じり。炭片あり
粘土ブロック5cm大、数ヶ所あり
炭化物混じり
礫混れ
10YR6/6 明黄褐色粘土ブロック小
~3cm、しまりあり
葉らみ
4:2に近い
4よりやや濃い、粗砂混じり
炭化物混
葉らみ

- 10YR6/6 明黄褐色粘質土ブロック
3~7cm30%、石混む
しまりあり、根腐風受ける(根の
痕跡小)
10YR7/2 灰白色粘質土ブロック混
じり上50%
炭片混じり
炭片混じり
炭片混じり

- 下部は腐植質シルト
混じり、下部は砂が多く混
じり、混じり
10YR6/6 明黄褐色粘質土ブロック
3~10cmX50%、固くしまる、石
混む

- 10YR6/6 明黄褐色粘土ブロック混
じる、固い
炭化物混、砂少量
2よりやや炭化物多い、粘土質シルト
小ブロック混じり
固い、粘りあり
炭化物少、固いしまり、根腐風受
ける、遺物含む
5より固く炭片や多い、遺物含む

EP3732

- 1 10YR3/3 暗褐色腐植質土
2 10YR6/6 明黄褐色粘質土ブロック
3 10YR3/1 黒褐色腐植土
4 10YR3/1 黒褐色土
5 10YR6/6 明黄褐色粘質シルトブロック
6 10YR2/1 黒色粘質土
7 10YR4/4 褐色砂質シルト
8

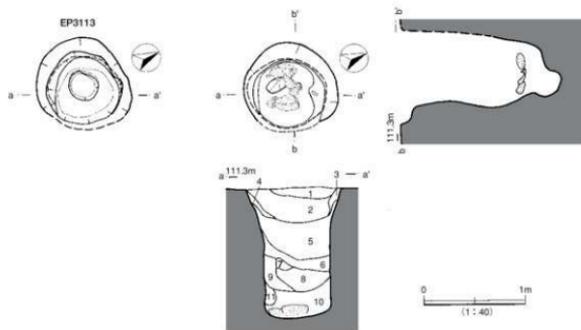
- 粗砂、炭化物混じり
固い
10YR6/6 明黄褐色粘質土小ブロック
混じる、40%くらい、径3~7cm
葉らみ、土混む
黒褐色土混じる、締まり固い、上面
に土混り
しまりあり、薄く層積
下部は砂混
じり土、黒褐色+粘質土ブロック
固くしまる

EP3738

- 1 10YR2/3 暗褐色腐植質シルト
2 10YR3/1 黒褐色腐植質粘土
3 10YR3/1 黒褐色腐植粘土
4 10YR3/1 黒褐色腐植粘土
5 10YR6/6 明黄褐色粘質シルト
6 10YR6/6 明黄褐色粘質シルト
7 10YR4/4 褐色シルト

- 粗砂混じり、土混り
固い、10YR6/6 明黄褐色粘土シルト
径1~3cmまばらに入る10~20%
炭片小入る、土層片、石混り
10YR6/6 明黄褐色粘質シルト混じり
黄褐色粘土が70%くらい多い
3より粘土の割合が多い、固いしまり
10YR3/1 黒褐色シルト小粒
灰白色粘質土ブロック、まだら状し
まり固い、密めている
下部は砂混になる

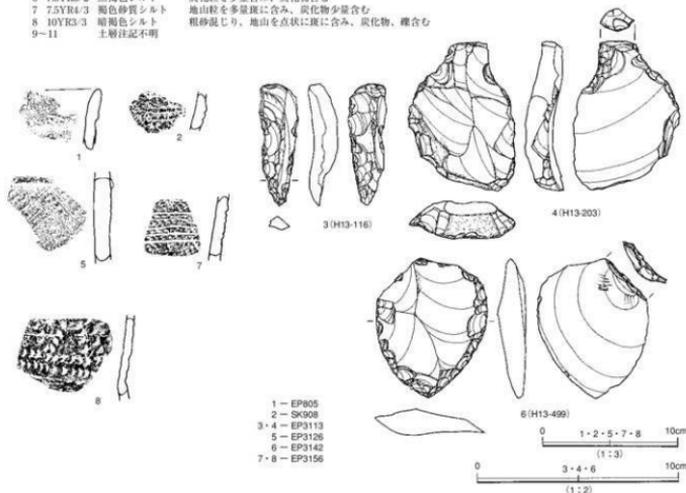
III 縄文時代



EP3113

- 1 10YR4/4 褐色シルト
- 2 10YR2/2 暗褐色シルト
- 3 10YR3/4 暗褐色シルト
- 4 10YR2/3 暗褐色シルト
- 5 10YR3/2 暗褐色粘質シルト
- 6 7.5YR4/2 暗褐色シルト
- 7 7.5YR4/3 褐色砂質シルト
- 8 10YR3/3 暗褐色シルト
- 9-11 土層注記不明

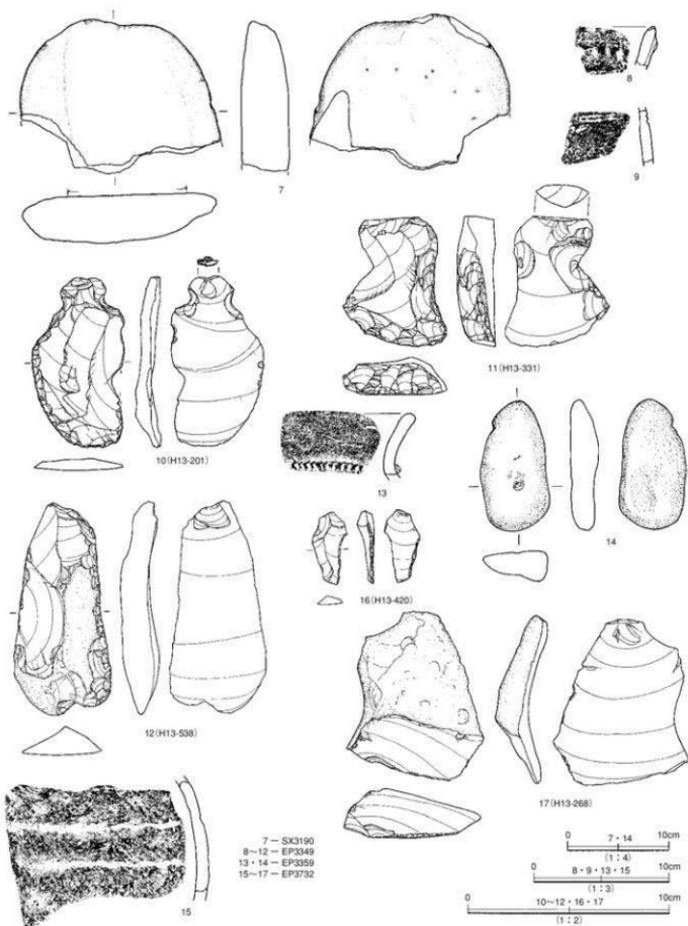
- 2. 炭化粒少量含む、焼土多量含む
- やや粘性あり、地山土を粒状に小ブロック状に少量含む、炭化粒、植物根、糞、焼土含む
- 2を少量、地山粒を微量に含む、植物根含む
- 地山粒を微量含む
- 地山土を点状、小ブロック状に僅に多量に含む、炭化物、植物根、糞含む
- 炭化粒を少量含む、炭化物含む
- 炭化粒を少量含む、炭化物少量含む
- 地山粒を多量に含む、炭化物少量含む
- 糞砂混じり、地山を点状に僅に含む、炭化物、糞含む



- 1 - EP805
- 2 - SK008
- 3・4 - EP3113
- 5 - EP3126
- 6 - EP3142
- 7・8 - EP3156

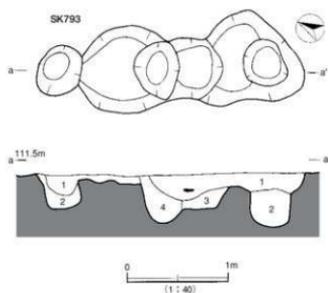
第266図 ST3812 住居跡・出土遺物(1)

Ⅲ 縄文時代



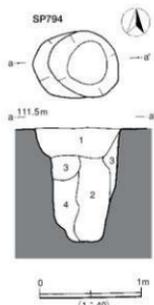
第267図 ST3812 住居跡出土遺物(2)

Ⅲ 縄文時代



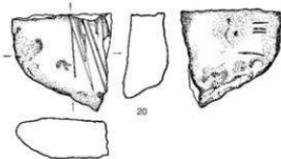
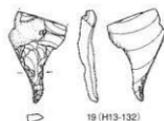
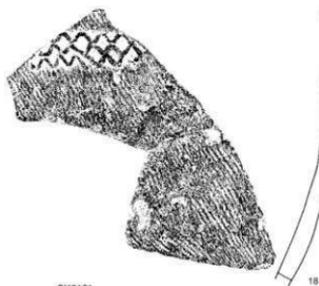
SK793

- 1 10YR2/3 黒褐色シルト 地山を含み、炭化粒、植物根含む
- 2 10YR2/3 黒褐色粘質シルト 2cm角の地山、地山粒を塊に含み、炭化粒含む
- 3 10YR2/2 黒褐色粘質シルト 地山をブロックで含み、炭化粒含む
- 4 10YR2/3 黒褐色シルト 地山を2cm角で塊に含み、炭化粒含む

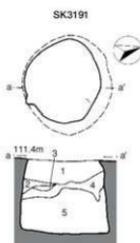


SP794

- 1 10YR3/2 黒粘質シルト 炭化粒を多く含み、微砂を含み、固くしまる
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト 地山を若干小ブロックで含み、柔らかい、柱状様
- 3 10YR3/2 黒褐色シルト 地山上をブロックで含み、しまる
- 4 10YR3/2 黒褐色シルト 3と地山土の混合土、地山土をブロックで塊に含み、微砂を含み、しまる



18-20 - SK812
21 - SK3191



SK3191

- 1 10YR3/3 暗褐色腐植土 土器、石器あり
- 2 10YR3/3 暗褐色腐植土 炭化物粒含む
- 3 10YR3/2 黒褐色腐植土 5と同じ、ブロック大
- 4 10YR3/2 黒褐色腐植土 固くしまっている、遺物あり
- 5 10YR3/2 黒褐色腐植土 粘質シルトブロックまじり土

0 20 10cm
(1:4)

0 18 21 10cm
(1:3)

0 19 10cm
(1:2)

第268図 ST3812 住居跡・出土遺物

S T 4036住居跡 (第269～272図 写遺構-168)

グリッド16・17-92～94の地山面で確認された。西～南側が傾斜する地形面で住居跡の柱跡と枡を確認している。

S T 3633やS K 3634・S K 4011・S K 4013・S K 4027・E P 4023及び多数の柱穴と重複する。S T 3633とS K 3634・S K 4011・S K 4013・S K 4027はいずれも本址よりも古い。

南西部が地山面まで削平されているが、平面形は長軸15.8m、短軸6.1mの細長い楕円形と考えられる。柱間距離はE P 4029-E P 4028-E P 3644-E P 3640で3.2m・3.2m・3.4mを測る。P 1-E P 4011c-E P 4011b-E P 727bでは3.6m・2.6m・3.8mを測る。

15mの大型住居

壁や覆土は確認していない。床は地山の黄褐色粘土層上面付近を床とする。床面は緩やかな凹凸があり、堅く締まっている。炭化物や焼土粒の混入が多く、ほぼ平坦に整地されている。

床面及び住居跡周囲で多数の柱穴・小穴が検出された。これらは確認面や規模・深さから他のS T 3633等の遺構とも関連する。

この中でS T 4036を構成すると思われるものについて記述する。径80cmほどの大きい柱穴は主柱穴とみられ、壁の内側に位置していたものと推測される。住居中央北側に、S T 3633住居が重複する。

主柱穴は2列並行に配列し、梁部分にも1本配置される。これらを検討するとE P 4029-P 1、E P 4028-E P 4011c、E P 3644-E P 4011b、E P 3640-E P 727という長軸線の左右に2つの相対関係が認められる。

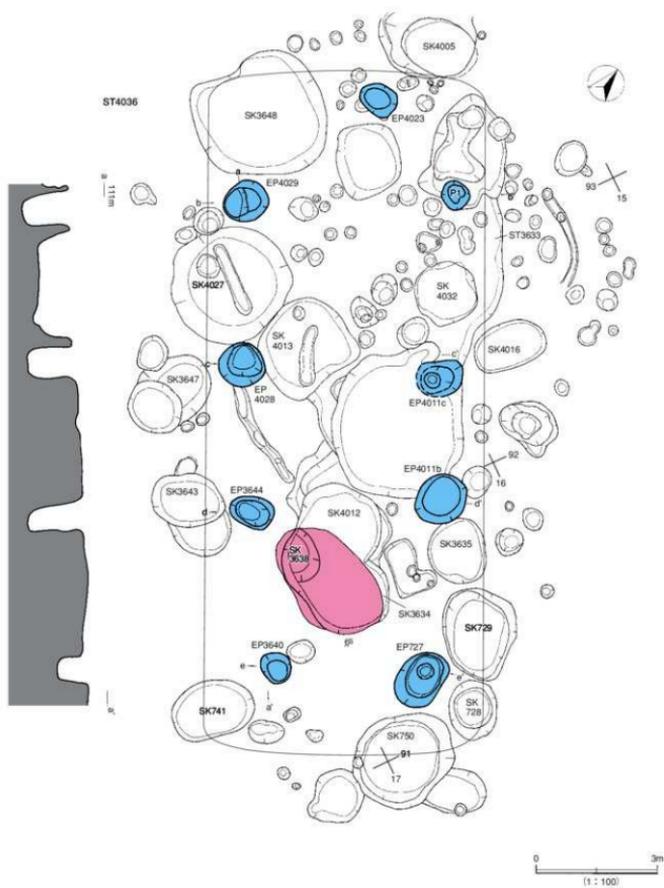
E P 4023は梁柱である。相対関係のつかめなかった柱穴も主柱穴の可能性はある。主柱穴は径80cm前後、深さ100cmを測る。

主柱穴や周辺に位置する小穴は壁際・壁外柱穴と考えられる。住居内部にも多数の小穴が検出されたが、内部プランを把握するまでには至らなかった。

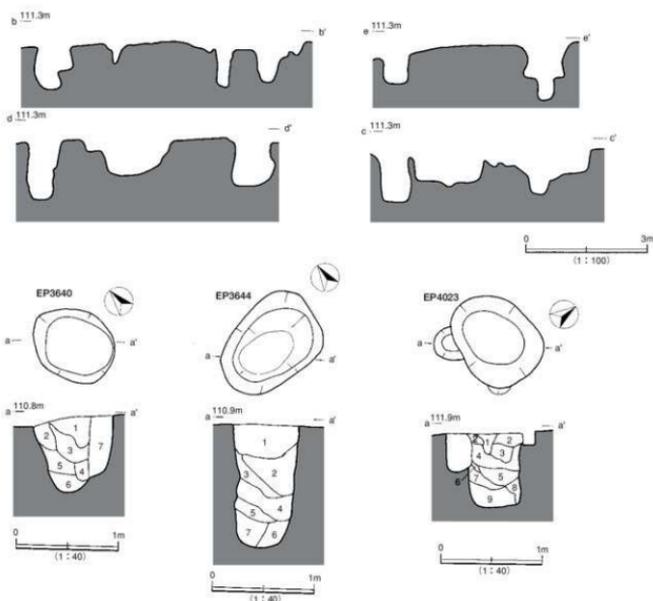
床面上で1カ所の焼け面を検出している。地床枡と考えられる。枡はS K 3634・S K 4012に重複しその上面に位置し、住居長軸線上にある。堅く焼けており使用頻度が高かったものとみられる。埋設土器などはみられない。

主柱穴から縄文土器と石器が少量出土した。1～11はE P 727から出土している。1は半載竹管による結節状浮線文の深鉢口縁部、2はボタン状貼付文、3～7は口縁部爪形文の深鉢片である。10は石鏃、11は凹石である。12～18は重複するS K 3638出土の半載竹管文や細い粘土紐貼付文の深鉢。19～22はE P 3644出土の深鉢や磨石。23～25はE P 4029出土の半載竹管文の深鉢片である。

Ⅲ 縄文時代



第269図 ST4036 住居跡 (1)

**EP3640**

- 1 10YR4/2 灰黄褐色砂シルト
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
- 5 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト
- 6 10YR5/3 にぶい黄褐色砂
- 7 10YR6/6 明黄褐色粘質土

EP3644

- 1 10YR3/2 黒褐色腐植土
- 2 10YR3/2 黒褐色腐植土
- 3 10YR4/4 褐色シルト
- 4 10YR3/2 黒褐色粘シルト
- 5 10YR4/4 褐色砂
- 6 10YR3/2 黒褐色粘シルト
- 7 10YR5/1 褐色粘質土

EP4023

- 1 10YR3/1 黒褐色腐植土
- 2 10YR3/3 暗褐色粘質土
- 3 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト
- 4 10YR3/1 黒褐色粘質シルト
- 5 10YR3/1 黒褐色粘質シルト
- 6 10YR6/5 明黄褐色粘質シルト
- 7 10YR4/2 灰黄褐色シルト
- 8 10YR3/1 黒褐色砂質シルト
- 9 10YR6/6 明黄褐色粘質シルト

10YR6/6明黄褐色粘質土ブロック+10YR7/2にぶい黄褐色粘質土ブロック1~2cm混じり土
固いしまり
下部は砂層多い、やわらかい
小礫混じり、土器出上、やわらかい
10YR7/2にぶい黄褐色粘質土との混合土

粘性あり、炭化物粘り。土器張りつく、土器、石器出土
10YR6/6明黄褐色粘質土粒少量混じり、土器、石器出土
小礫10cm大あり、流れ込み、上部は砂シルト
小礫混じり、土器出上やわらかい、炭化物粘り

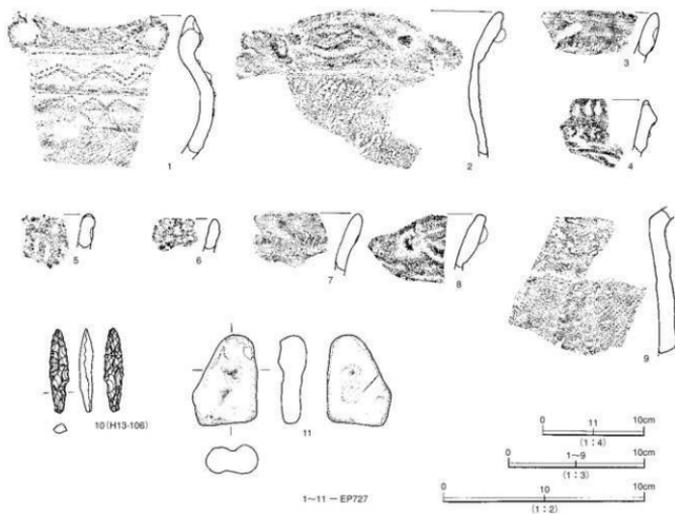
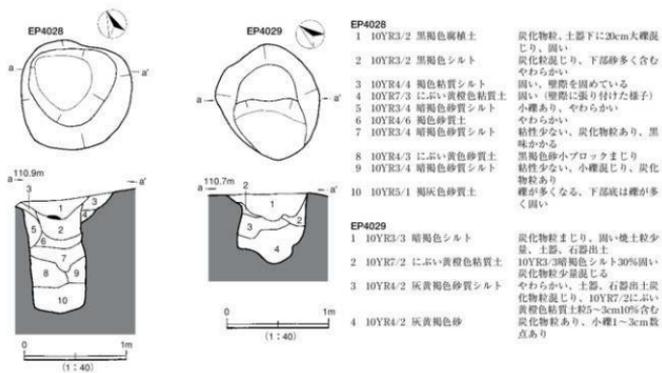
炭化物粘、10YR6/6明黄褐色粘土粒少量混じり、炭片大もあり、土器出土

やわらかい、痕跡
しまりあり

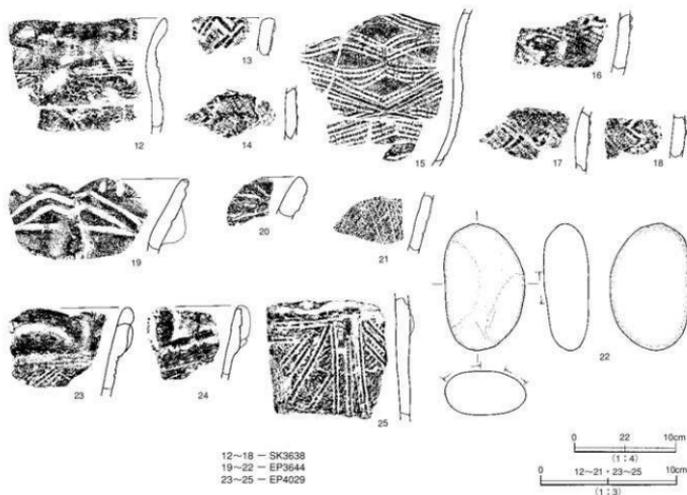
25%混じり、炭化物あり、土器、石器出土
10YR4/2褐色シルトブロック混合土、土器、石器出土
4.2もシルト質
流れ込み、上部はSP4022に切られる
10YR3/1黒褐色土混じり、小ブロック、遺物少量
炭化物あり、遺物少量
7との混じり上、下部は10YR6/6明黄褐色粘質土、遺物少量

第270回 ST4036 住居跡(2)

III 縄文時代



第271図 ST4036 住居跡・出土遺物(1)



第272図 ST4036 住居跡出土遺物(2)

S T 4127住居跡 (第273~281図 写遺構-169・186 写遺物-3・61・95・96・99)

グリッド9・10-98~101に位置しており、S T 3337大型住居跡とほぼ同じ場所、内部に重複する。本址はS K 3256・S K 3261・S K 3739・E P 3741等と重複する。覆土の切り合いからS K 3256・E P 3741・S K 3742・S K 3739は本址より古く、S K 3256・S K 3236・E P 3264は本址より新しい。

S T 3337大型住居跡と重複

またS T 3337と本址は両者の重複はみられるものの平面的に新旧を明確にできなかった。しかし、柱穴E P 3133とE P 3128の切り合いや柱穴の配列、炉(E L 3298)のあり方などから、S T 4127がS T 3337より新しい住居跡であることを確認している。

S T 4127の柱跡は新しい遺構となる。従って本住居跡を中心として遺構の新旧関係は古いほうからS K 3741・S K 3742・S T 3337→S T 4127・S K 3739となる。

Ⅲ 縄文時代

本住居跡は、プランとして南東から北西方向に長方形に広く確認されたが、多数の遺構との切り合いがある柱穴の配列のため、確認し難い状況にあった。長軸線を挟んで北側と南側には並行して柱穴列が並ぶ。

20mの大型住居 この柱穴を結ぶ線がほぼ住居の規模を示すとすれば、長軸は推定で20m、短軸は6～7mの長方形を呈すると考えられる。

覆土は褐色粘質シルトで炭化物や土器・石器が含まれる。柱穴の覆土は暗褐色土や黒褐色土との混合土で自然堆積土が多い。壁は確認できなかった。床面は全体的に堅緻で強く踏みしめられた状況である。床面整地のため踏み固められた土坑がみられる。

主柱穴はS K3236・S K3228・E P3264・S K3256・E P3805・E P3262・E P3803・E P3132・E P3746・E P3128・E P4137・E P3121で、全12本で構成される。S K3236・S K3228・E P3264・S K3256は土坑と柱穴の重複遺構で、柱穴部分をP1～5とした。

この他にE P3266・S K3807内P6・E P4138も大型柱穴である。E P3266は径1m、深さ1.3mの大型柱穴で、当初S K3258と対向するものと考えられたが、S K3258は浅く大型柱穴ではないことが明らかである。P6は径120cm、E P4138は径110cmで深さがともに70cmを測る。これらも本址の主柱穴の可能性がある。

大型の主柱穴 主柱穴の規模は検出面で径60～120cm、深さ100～160cmを測る。あまりにも大型であるため、これらの柱穴は当初土坑と考え登録していた。柱穴は長軸線に沿って2本セットで並列に配置される。主柱穴の覆土の堆積状況から自然堆積の様子が見取でき、柱が抜き取られていることがわかる。E P3264とS K3236は本址だけでなく、重複しているS T3337大型住居跡の柱穴としても考えられている。

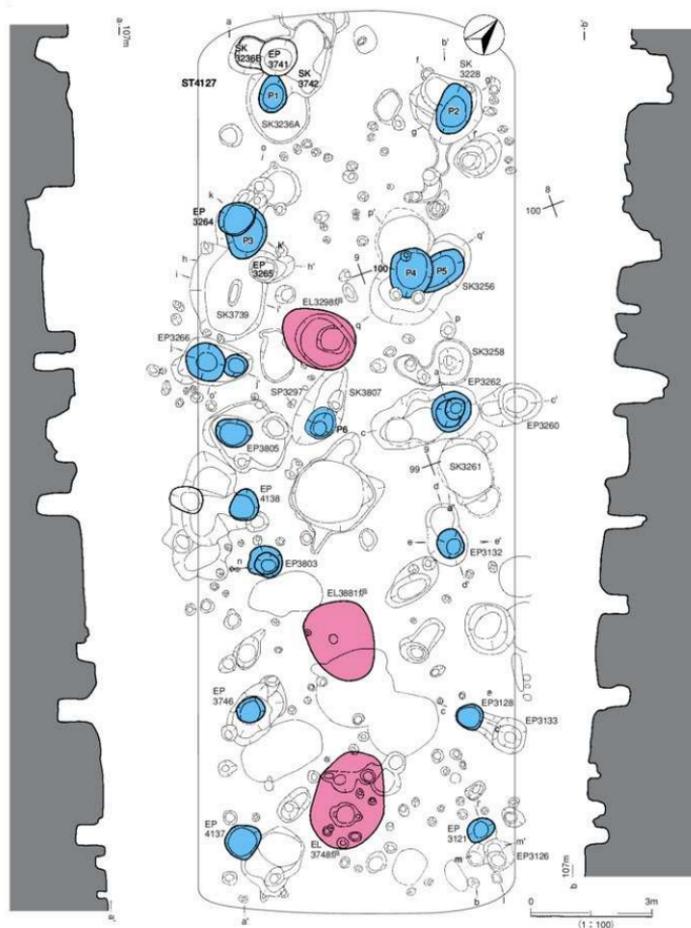
主柱穴のプランは2本並列長方形に配置し、柱穴間距離は南側柱列のP1・P3・E P3805・E P3803・E P3746・E P4137で3.6m・5m・3.5m・3.6m・3.3mである。北側柱列ではP2・P5・E P3262・E P3132・E P3128・E P3121で4m・3.6m・3.6m・4.3m・3mである。覆土の状況から、柱は直立していたものとみられる。主柱穴に並び小穴が検出される。

住居には地床炉（E L3748・3881・3298）が長軸中心線に沿ってみられる。不整形で周辺からは加熱を受けた土器が出土している。E L3298は本址だけでなくS T3337・4168の如くとも認定されている。

本址は床面で確認された住居跡のため、覆土中及び床面出土遺物はS T3337と同様に、本址のプラン検出時に所在するグリッド（9・10-98-100）の出土遺物として取り上げた中に含まれるとみられる。床面出土の遺物は重複するS T3337の遺物と区別することは難しい。

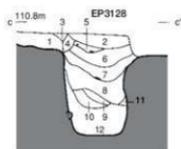
遺物は主柱穴から出土した主な遺物を図示した。1～35はE P3262出土の遺物である。1～26は結節状浮線文・半截竹管文・太い沈線文・三角刻印文の台付鉢・深鉢である。27～30は深鉢・台付鉢底部である。31～34は石鏝・石匙・削器・搔器、35は凹石である。

E P3266出土の遺物は36～44である。36～38は半截竹管文・三角刻印文の深鉢、39～42は搔器・削器、43・44は凹石である。45はE P3121、46～55はE P3132、56はS P3297、57～60はE P3746出土である。45～55・57～60は半截竹管文・太い沈線文・三角刻印文の深鉢片、56は搔器である。



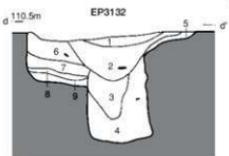
第273図 ST4127 住居跡 (1)

III 縄文時代



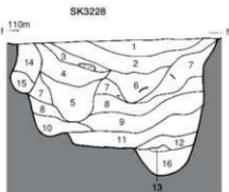
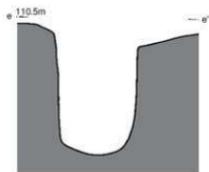
EP3128

- | | | |
|-------------------|-----------|--------------------------------------|
| 1 10YR3/1 | 黒褐色腐植土 | 礫3~5cm散在する。根腐れあり土器含む、固い。よりやや黒色で柔らかい。 |
| 2 | | 根の跡 |
| 3 | | 根の跡 |
| 4 | | 根の跡 |
| 5 10YR3/2 | 黒褐色土 | 土器片大。炭片多く散在する。腐植質シルト |
| 6 10YR2/3 | 暗褐色土 | |
| 7 10YR3-3.10YR6/6 | 暗褐色-明黄褐色土 | 小粒まじり柔らかい。土器あり |
| 8 | | 7に同じ |
| 9 | | 7、8よりも10YR6/6明黄褐色土ブロックが大きい |
| 10 10YR6/6 | 明黄褐色土 | 粘質土ブロック大。固い |
| 11 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 砂質汚れ |
| 12 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | 砂質汚れている。柔らかい。礫3~5cm散在する |



EP3132

- | | | |
|-----------|-----------|-----------------------------------|
| 1 10YR3/3 | 暗褐色腐植土 | 粗砂混じり、遺物出土。小礫1~3cm散在する |
| 2 10YR3/2 | 黒褐色シルト | 炭化物粒混じり。土器、石器あり |
| 3 10YR3/1 | 黒褐色腐植シルト | 柔らかい。炭片混じる |
| 4 10YR3/2 | 黒褐色腐植シルト | 炭化物粒混じり。土器出土。固い。下部は砂が多くなる |
| 5 10YR2/1 | 黒色粘質土 | 固い。土器あり |
| 6 10YR6/6 | 明黄褐色砂礫 | 遺物出土 |
| 7 10YR3/2 | 黒褐色腐植シルト | 10YR6/6明黄褐色粘質シルトブロック混じり。粘性強い。遺物含む |
| 8 10YR3/1 | 黒褐色粘質シルト | 固い |
| 9 10YR6/6 | 明黄褐色砂質シルト | 固い |

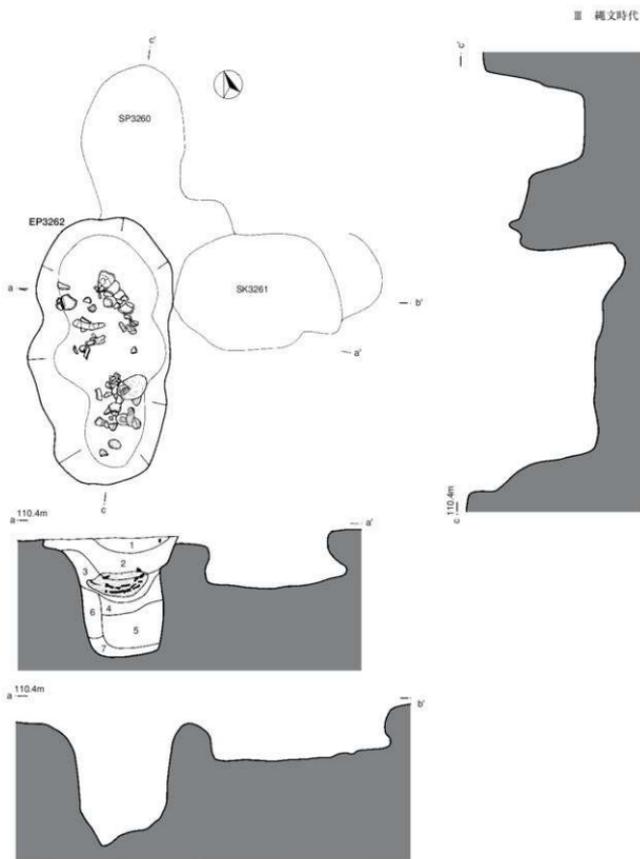


SK3228

- | | | |
|-------------|---------|---------------------------------------|
| 1 10YR1.2/1 | 黒色砂質粘土 | 風化礫の砂子を多量に含む。固くしまっている |
| 2 10YR2/1 | 黒色砂質粘土 | 風化礫粒。黄褐色粘土砂子を含み固くしまっている |
| 3 10YR3/4 | 暗褐色砂質粘土 | 黄褐色粘土粒。風化礫を若干含むやや固い。2にやや近似的 |
| 4 10YR4/4 | 暗褐色砂質粘土 | 黄褐色粘土ブロック。風化礫粒 (径3cm以下) を多量に含む |
| 5 10YR3/4 | 暗褐色砂質粘土 | 4に近似的だが、多量の炭化材料砂子を多量に含む。柔らかい |
| 6 10YR3/1 | 黒褐色砂質粘土 | 炭化砂子。風化礫粒を多く含む。非常に柔らかい |
| 7 10YR3/2 | 黒褐色砂質粘土 | 黄褐色粘土ブロック。風化礫粒。炭化砂子を多量に含む固くしまっている |
| 8 10YR3/2 | 黒褐色砂質粘土 | 7に近似的。ブロックの大 (径5cm) がより多くなる。しるる |
| 9 10YR3/2 | 黒褐色砂質粘土 | 8より粘土ブロック (径10~12cm) がより多くなる。固くしまっている |
| 10 10YR3/2 | 黒褐色砂質粘土 | 砂土。粘土ブロックを多量に含む。柔らかい。壁体崩壊土 |
| 11 10YR3/4 | 暗褐色砂質粘土 | 砂土。粘土ブロックの中核が含まれるが、やや固くなる |
| 12 10YR3/3 | 暗褐色砂質粘土 | 崩体崩壊土。柔らかい |
| 13 10YR4/6 | 褐色シルト | 砂質土 |
| 14 10YR3/1 | 黒褐色砂質粘土 | 炭化。白色風化礫砂子が混じる |
| 15 10YR3/1 | 黒褐色砂質粘土 | 14に近似的だが、粘土ブロック。風化礫が混じる |
| 16 10YR3/3 | 暗褐色砂質粘土 | 黄褐色粘土ブロック (径6~8cm) 風化礫が混じり固くしまっている |



第274回 ST4127 住居跡 (2)

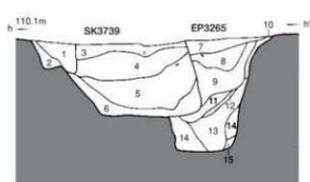


EP3262

- | | |
|---|--|
| <p>1 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土
2 10YR2/2 黒褐色シルト質粘土
3 10YR3/1 黒褐色シルト質粘土
4 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土
5 10YR2/2 黒褐色シルト質粘土
6 10YR4/1 褐灰色シルト質粘土
7 10YR4/2 灰黄褐色シルト質粘土</p> | <p>若干の炭化粒子と白色風化礫粒が少量に混じり、やや柔らかい
炭化粒子、黄褐色粘土ブロックを少量に含み、柔らかい
若干の黄褐色粘土粒子や少量の炭化粒子を含み柔らかい
黄褐色粘土ブロック (径8~12cm)、炭化粒子を少量に含みやや固くしまっている
黄褐色粘土ブロック (径5~9cm)、黒色粘土ブロックや炭化粒子を少量に含み固くしまっている
黄褐色粘土ブロック、褐灰色粘土ブロックを少量に含む
砂礫、黄褐色粘土、褐灰色粘、黒色土ブロックが混じる、上面は粘り床状に固くしまっている</p> |
|---|--|

第275図 ST4127 住居跡 (3)

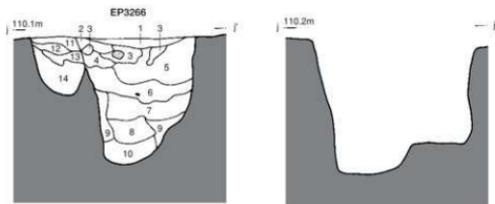
Ⅲ 縄文時代



SK3739 (1~6) EP3265 (7~16)

- 1 10YR4/3 土間・黄褐色シルト質粘土
- 2 10YR4/4 褐色シルト質粘土
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト質粘土
- 4 10YR3/4 暗褐色シルト質粘土
- 5 10YR4/4 褐色シルト質粘土
- 6 10YR3/4 暗褐色シルト質粘土
- 7 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土
- 8 10YR3/1 黒褐色シルト質粘土
- 9 10YR3/1 黒褐色シルト質粘土
- 10 10YR4/4 褐色シルト質粘土
- 11 10YR2/3 黒褐色シルト質粘土
- 12 10YR5/6 黄褐色シルト質粘土
- 13 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土
- 14 10YR3/3 暗褐色シルト質粘土
- 15 10YR4/4 褐色シルト質粘土

若下の炭化粒子と黄褐色粘土粒を含む、柔らかくシルト質が強い
下部に黄褐色粘土ブロックがあり、若下の炭化粒子を含む、1より更にシルト質が強い
炭化粒子、黄褐色粘土粒を多量に含む、やや固くしまりシルト質が強い
若下の炭化粒子、黄褐色粘土粒、ブロック(径8~15cm、2~3cm)が多量に混じり、やや粘質が強い
4に近似している、より黄褐色粘土粒、ブロックが4より多量含まれる、色調が明るくなる
若下の炭化粒子と黒色粘土ブロックが混じり、壁体付近に径15~20cmの黄褐色粘土の崩落土
中央部で黄褐色粘土ブロック(径1~2cm)や粘土粒が多量に含まれ、粘質が強い
炭化粒子、白色風化粒、黄褐色粘土粒を含む、固くしまっていて粘質がある
若下に炭化粒子と粘土ブロックを含む、やや固くしまりやや粘質がある
8に近似する、より粘性が弱す、黄褐色粘土ブロック(径3~5cm)が多量に混じる、やや固い
壁体黄褐色粘土の崩落土
炭化粒子、黄褐色粘土粒、黒色粘土ブロックを多量に含む、やや柔らかく粘質がある
黄褐色粘土やブロックがレンズ状に堆積、壁体の崩落土
炭化粒子、黄褐色粘土粒、ブロック(径3~10cm)、黒色粘土が多量に混じり粘りが強く柔らかい
黄褐色粘土ブロック、黒色粘土ブロックが堆積している
炭化粒子が多量に混じる、柔らかい



EP3266

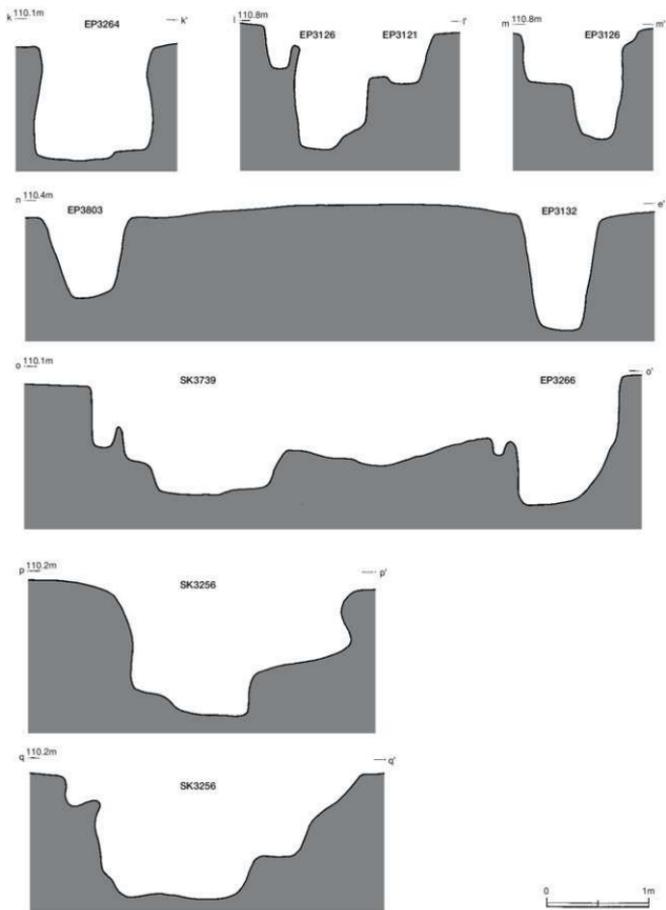
- 1 10YR3/1 黒褐色シルト質粘土
- 2 10YR2/3 黒褐色シルト質粘土
- 3 2S5R5/4 に近い赤褐色シルト
- 4 10YR3/1 黒褐色シルト質粘土
- 5 10YR4/4 褐色シルト質粘土
- 6 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土
- 7 10YR4/6 褐色シルト質粘土
- 8 10YR3/3 暗褐色シルト質粘土
- 9 2S5R6/1 赤灰色シルト質粘土
- 10 2S5R4/2 灰赤色シルト質粘土
- 11 10YR3/4 暗褐色シルト質粘土
- 12 10YR4/6 褐色シルト質粘土
- 13 10YR4/2 灰赤色シルト質粘土
- 14 10YR4/3 に近い黄褐色シルト質粘土

若下の炭化粒子、白色風化粒が混じり固くしまっている
炭化粒子、黒色粘土ブロックが混じる、しまっている
砂礫や砂礫ブロック、黄褐色粘土粒が混じる、固い
黒褐色粘土ブロックが混じる、やや固い
黄褐色粘土ブロック(径10~15cm、4~8cm)や、黄褐色粘土粒、焼土ブロックが多量に混じる
固く締められている
炭化粒、黄褐色粘土粒、黒色粘土ブロックが混じる、固い
3に近似するが、黄褐色粘土ブロックが小さくなり(径2~3cm) 褐色粘土ブロックが混じる、固い
多量の炭化粒子や黄褐色粘土ブロックが混じる、やや固い
砂礫、灰褐色粘土が混じる、若下の黄褐色粘土ブロックが含まれ、やや固い
黄褐色粘土ブロック、黄褐色粘土ブロック、若下の黒色粘土ブロックが多量に混じり、非常に固くしまっている
黄褐色粘土粒を多量に含む、固い
黄褐色砂、黄褐色粘土ブロックが混じる
砂礫、粘土ブロックが混じる、固い
黄褐色粘土ブロック、砂礫が混じる



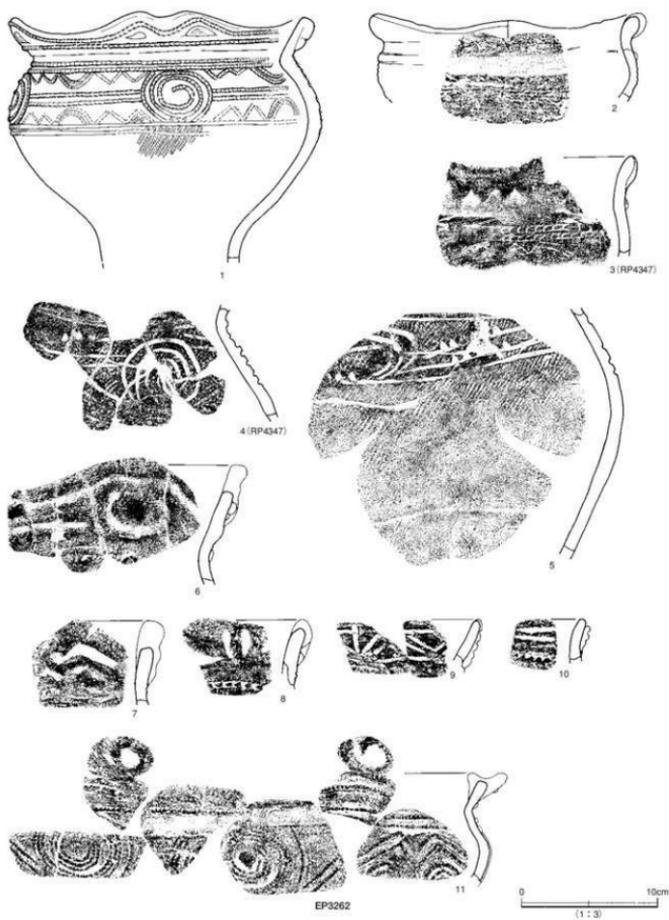
第276図 ST4127 住居跡(4)

III 繩文時代



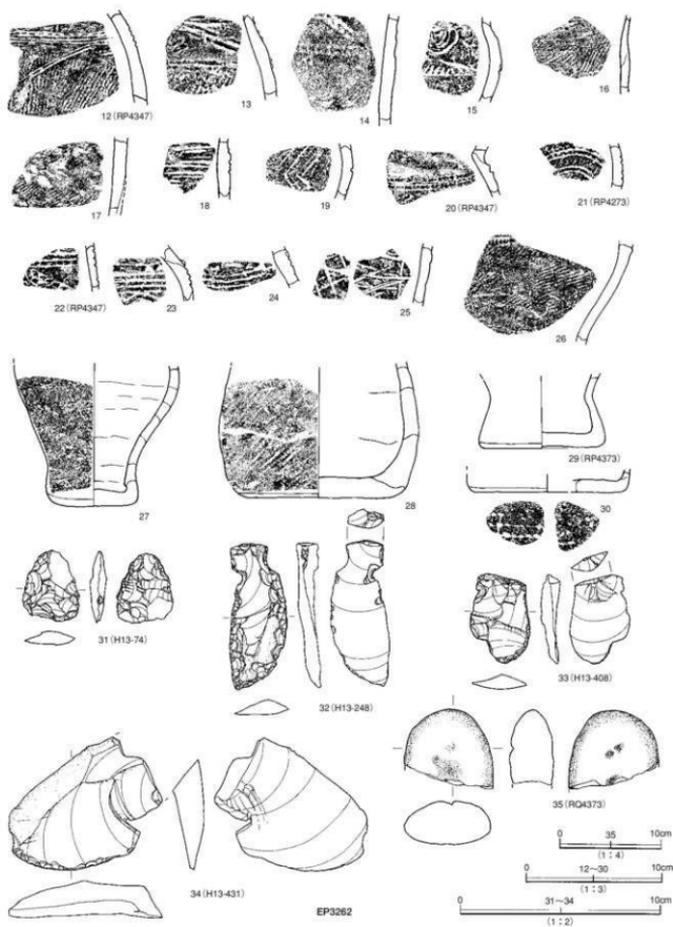
第277図 ST4127 住居跡 (5)

Ⅲ 縄文時代



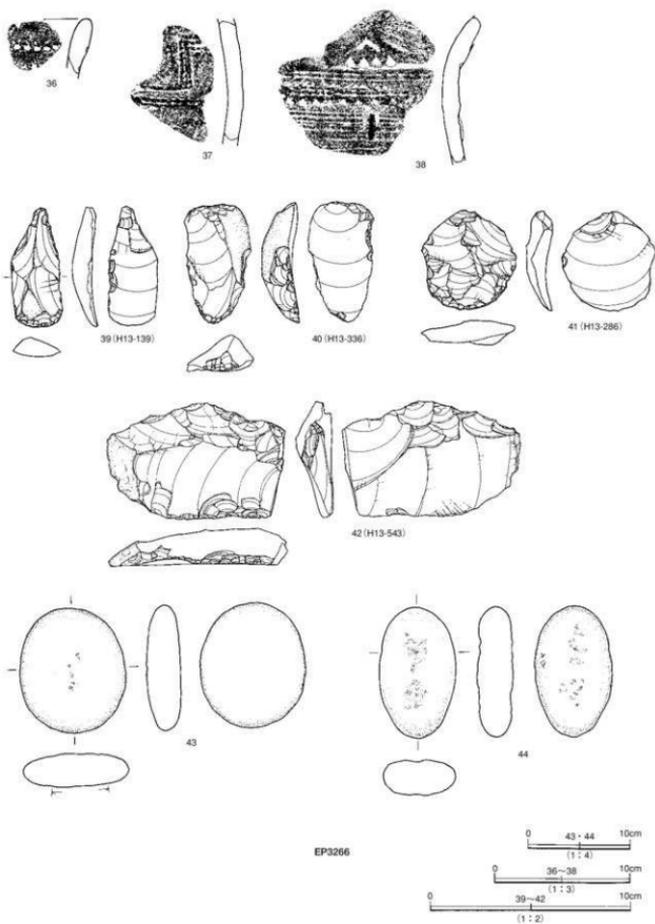
第278回 ST4127 住居跡出土遺物 (1)

Ⅲ 縄文時代



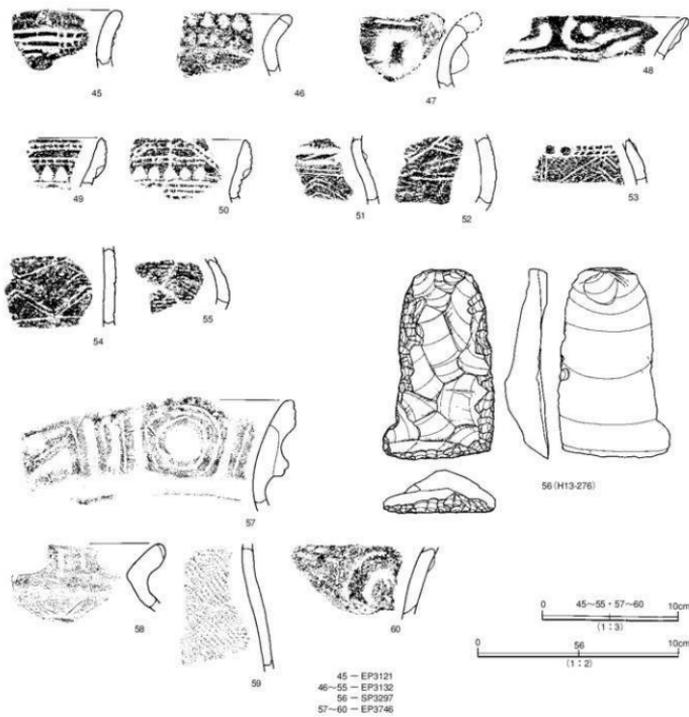
第279回 ST4127 住居跡出土遺物 (2)

Ⅲ 縄文時代



第280図 ST4127 住居跡出土遺物 (3)

Ⅲ 縄文時代



第281図 ST4127 住居跡出土遺物(4)

Ⅲ 縄文時代

S T 4168住居跡 (第282～295図 写遺構-170・171 写遺物-81・82・96)

グリッド9・10-98～102に位置しており、S T 3337大型住居やS T 4127大型住居と切り合い重複する。この他にS K 3293・E P 3805・S K 3299・S K 3235等と重複する。

堆積土の様子や柱穴の切り合い、柱穴の配列、炉 (E L 3298) のあり方などから、S T 4168がS T 3337やS T 4127より新しい住居跡であることを確認した。本址を中心として遺構の新旧関係は古い方からS T 3337→S T 4127→S T 4168である。

本址の平面プランは南から北方向に長方形に確認されたが、多数の遺構との切り合いがある柱穴の配列で、把握し難い状況にあった。長軸線を挟んで東側と西側に、ほぼ並行して主柱穴列などが並ぶ。主柱間にも小柱穴がみられる。この柱穴を結ぶ範囲がほぼ住居の規模を示すとすれば、住居長軸は推定で17.4m、短軸は5～6mほどの長方形を呈するものと考えられる。

17.4mの大型住居

覆土は褐色粘質シルトで炭化物や土器・石器が含まれる。柱穴の覆土は暗褐色土や黒褐色土との混合土である。

壁は確認できなかった。床面は全体的に堅緻で、堅く踏みしめられた状況である。床面整地のため、埋められ踏み固められた土坑がみられる。

主柱穴のE P 3741・E P 3804・E P 3801以外は、S K 3806・S K 3293・S K 3256・E P 3264・S K 3228・S K 3224・S K 3736の中に主柱穴P 1～7が重複し、計10本ほど構成される。特にE P 3741とS K 3736及び3233間では位置や間尺が不揃いで、S K 3736とS K 3233のどちらが主柱穴か特定し難い。

主柱穴と土坑の重複

これら主柱穴は当初、その規模の大きさから土坑として調査が進められた。その後、大型柱穴と土坑とが重複していることが判った。このため遺物の所属は土坑と柱穴の区別がつかない。

主柱穴の規模は検出面で径60～120cm、深さ100～160cmを測る。長軸に沿って並列に並ぶ。柱の間隔は西側柱列でE P 3801～P 7 (S K 3293) 間が3.5m、P 7 (S K 3293) ～E P 3264 (P 5) 間で5 m、E P 3264～E P 3741間で4 m、E P 3741～S K 3233間で3.5m、E P 3741～P 1間は4.4mを測る。覆土や掘り込み状況から、柱は直立していたものとみられる。主柱穴に並び小穴と溝が部分的に延びる。

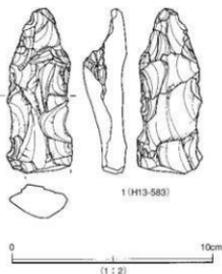
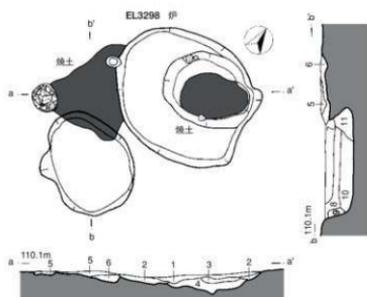
住居には地床炉 (E L 3298) が長軸中心線に沿ってみられる。不整形で周辺からは加熱を受けた土器 (R P 4445) が出土している。

遺物は、主柱穴及び主柱穴と重複する土坑からの出土が大半で、床面出土の遺物は建物の確認が遅れたことから、遺構外出土遺物としてグリッド毎に取り上げている。また北半部の床面出土の遺物はS T 3337・S T 4127と重複するため区別できない。

遺物は各柱穴や柱穴の所在する土坑内で多数出土している。S K 3228では1～11が出土している。1～3は半截竹管文や平行沈線文の深鉢、4～10は石鏃・搔器・削器、11は円盤状石製品である。E P 3741に隣接するS K 3235からは1の深鉢片が出土、S K 3236では1～3の石鏃・削器・尖頭器が出土している。P 4の所在するS K 3256では1～18が出土している。1～9は太い沈線文・半截竹管文の深鉢片や底部、10～18は石鏃・搔器・削器である。E P 3264では1～4の深鉢片、5～7の搔器と扁平な磨石がある。

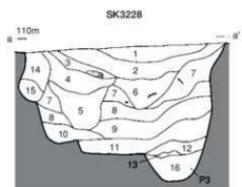
S K 3293では1の石鏃、P 1の所在するS K 3736では1～11がある。1～8は半截竹管文・三角刻印文・太い沈線文の深鉢・台付鉢である。9～11は削器・磨石である。P 6の所在する

III 縄文時代



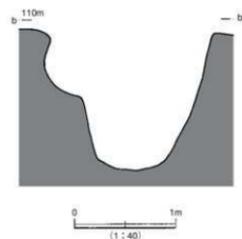
EL3298

- | | |
|-------------------------|---|
| 1 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土 | 炭化粒子、黄褐色粘土粒、焼土粒を含み、柔らかい炭化粒子、焼土粒子、黄褐色粘土ブロックを含み柔らかい(砂質) |
| 2 10YR3/3 暗褐色シルト質粘土 | 炭化粒子、焼土ブロック(径5~8cm、25YR3/4暗赤褐色)を多量に含む |
| 3 10YR3/4 暗褐色シルト質粘土 | 炭化粒子、黄褐色粘土粒、焼土粒子、粒(径2~3cm)をより多く含む(焼土が明確) |
| 4 5YR3/2 暗赤褐色シルト質粘土 | 焼土ブロック(径4~7cm、25YR3/6暗赤褐色)が上面に固く踏みしめられ、堆積する |
| 5 5YR4/6 赤褐色シルト質粘土 | 焼土粒子、炭化粒子が混じり、焼土が強く堆積するややしまる |
| 6 25YR4/8 赤褐色シルト質粘土 | 炭化粒子、黄褐色粘土粒やブロックを多量に含み上面が堆積に固くなる(住居跡床面) |
| 7 10YR3/3 暗褐色シルト質粘土 | 7に近似するが、黄褐色粘土粒を多量に含み、ややシルト質が強い |
| 8 10YR3/4 暗褐色シルト質粘土 | 質干しの炭化粒子、黄褐色粘土粒を含み、結實がよくなり(ブロック状に堆積) |
| 9 10YR3/1 黒褐色シルト質粘土 | 炭化粒子、黒褐色粘土粒やブロック、黄褐色粘土粒を多量に含みやわらかい |
| 10 10YR4/4 褐色シルト質粘土 | 質干しの炭化粒子、黄褐色粘土粒やブロックを含みやわらかい(壁跡崩落土) |
| 11 10YR4/3 に近い黄褐色シルト質粘土 | |



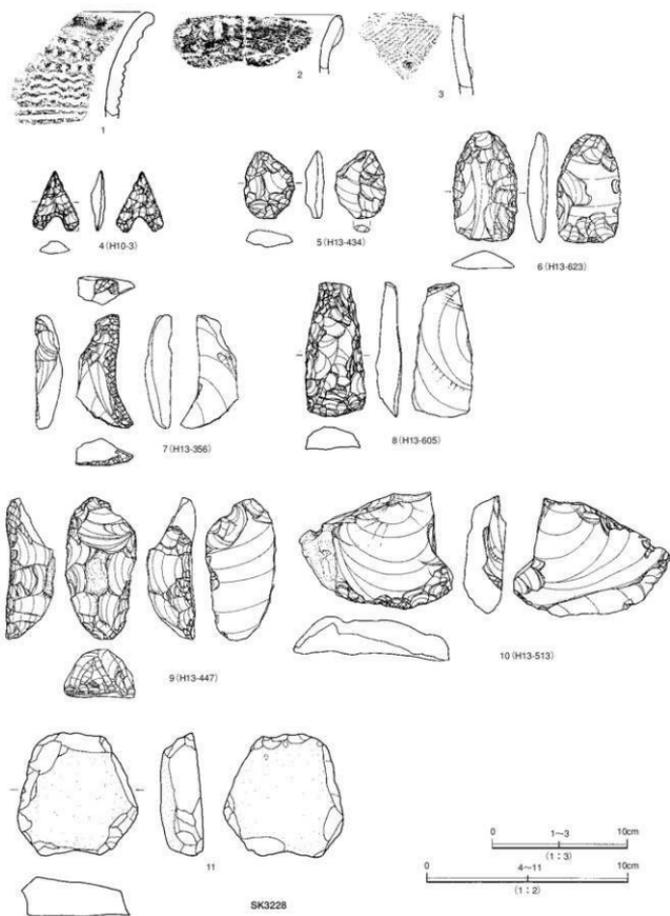
SK3228

- | | |
|--------------------|--|
| 1 10YR17/1 黒色砂質粘土 | 風化曜の粒子を多量に含み、固くしまっている |
| 2 10YR2/1 黒色砂質粘土 | 風化曜粒、黄褐色粘土粒子を含み固くしまっている |
| 3 10YR3/4 暗褐色砂質粘土 | 黄褐色粘土粒、風化曜を若干含みやや固い、2にやや近似する |
| 4 10YR4/4 褐色砂質粘土 | 黄褐色粘土ブロック、風化曜粒(径3cmくらい)を多量に含む |
| 5 10YR3/4 暗褐色砂質粘土 | 4に近似するが、多量の炭化材料粒子を多量に含む、柔らかい炭化粒子、風化曜粒を多く含む、非常に柔らかい |
| 6 10YR3/2 黒褐色砂質粘土 | 黄褐色粘土ブロック、風化曜粒、炭化粒子を多量に含む固くしまっている |
| 7 10YR3/2 黒褐色砂質粘土 | 7に近似、ブロック(径5cm)がより多くなる、しまる |
| 8 10YR3/2 黒褐色砂質粘土 | 8より粘土ブロック(径10~12cm)が多くなり、固くしまっている |
| 9 10YR3/2 黒褐色砂質粘土 | 砂質土、粘土ブロックを多量に含む、柔らかい、壁跡崩落土 |
| 10 10YR3/4 暗褐色砂質粘土 | 砂質土、粘土ブロックの中粒が含まれるが、やや固くなる |
| 11 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 | 砂質土 |
| 12 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 | 炭化、白色風化曜粒子が混じる |
| 13 10YR4/6 褐色シルト | 炭化、白色風化曜粒子が混じる |
| 14 10YR3/1 黒褐色砂質粘土 | 14に近似するが、粘土ブロック、風化曜が混じる |
| 15 10YR3/1 黒褐色砂質粘土 | 黄褐色粘土ブロック(径6~8cm)、風化曜が混じり固くしまっている |
| 16 10YR3/3 暗褐色砂質粘土 | |



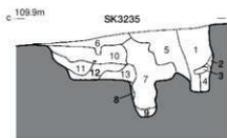
第283図 ST4168 住居跡・出土遺物(1)

III 縄文時代



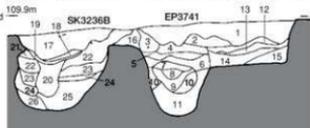
第284回 ST4168 住居跡出土遺物 (2)

III 縄文時代



SK3235

- | | | |
|-------------|----------|--|
| 1 10YR3/1 | 黒褐色砂質粘土 | 若干の炭化、白色風化粒を含み柔らかい、下部にいくに従って砂質が強くなる |
| 2 10YR5/8 | 黄褐色砂質土 | 地山の崩落土 |
| 3 10YR6/8 | 明黄褐色砂質土 | 地山の崩落土 |
| 4 10YR5/2 | 灰黄褐色砂質粘土 | 炭化粒、炭化殻を含み非常に柔らかい、地山崩落土と混じる |
| 5 10YR7/6 | 明黄褐色砂質粘土 | 中層に10YR6/8明黄褐色土ブロック、大小の粒を含み、やや固くしまっている |
| 6 2.5YR2/1 | 赤黒色砂質粘土 | 黄褐色粘土粒、炭化粒の微粒を多量に含み、ややしまっている |
| 7 10YR2/2 | 赤黒色砂質粘土 | 10YR6/8明黄褐色粘土ブロックを含み、下層ブロックや小粒、砂質土粒を含む、若干の炭化粒子を含み、柔らかい |
| 8 5YR8/1 | 灰白色砂質土 | 地山の崩落土 |
| 9 2.5Y3/2 | 黒褐色砂質粘土 | 砂質土ブロック、粘土ブロック、炭化粒を多量に含み、柔らかい |
| 10 2.5Y3/1 | 黒褐色砂質粘土 | 6より色調がやや明るく、黄褐色粘土中粒を多く含み、ややしまる |
| 11 10YR17/1 | 褐色砂質粘土 | 若干の白色風化粒を含み、やや固くしまっている |
| 12 10YR2/2 | 赤黒色砂質粘土 | 黒褐色粘土ブロック (H13-476)、炭化粒を含み柔らかい |
| 13 10YR2/2 | 黒褐色砂質粘土 | 12と近似するが色調やや明るい、多量の炭化粒子を含み柔らかい |

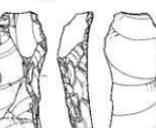
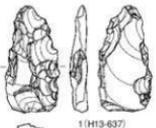


EP3741



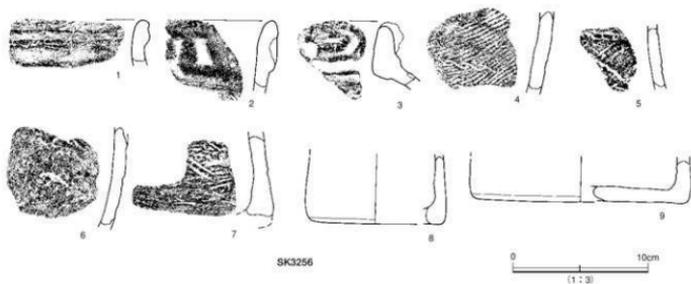
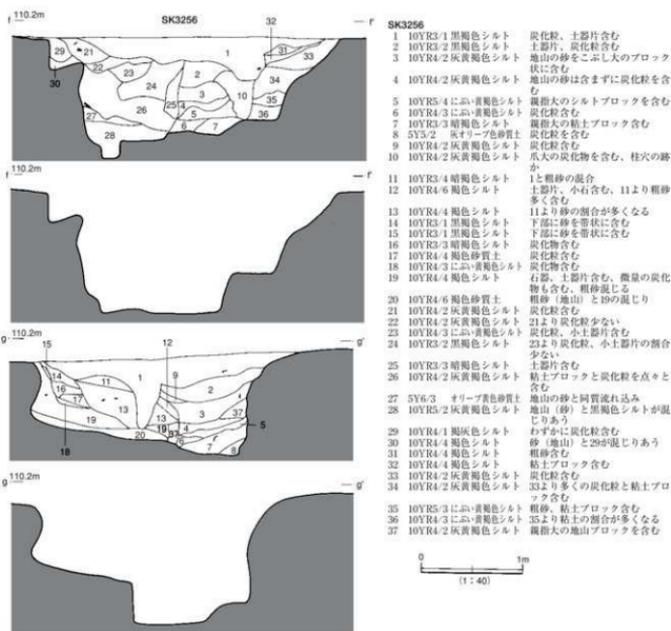
SK3236B・EP3741

- | | | |
|------------|----------|----------------------------------|
| 1 10YR2/2 | 黒褐色砂質粘土 | 黄褐色粘土ブロックが露点状に混じり、炭化粒も含まれ固くしまる |
| 2 10YR2/1 | 黒色砂質粘土 | 炭化、炭化殻 (白色) が含まれしまっている |
| 3 10YR3/1 | 黒褐色砂質粘土 | 黄褐色粘土粒、炭化粒を含みやや柔らかい |
| 4 10YR3/2 | 暗褐色砂質粘土 | 黄褐色粘土粒子、炭化粒、炭化殻を含み、柔らかい |
| 5 10YR4/4 | 褐色砂質粘土 | 黄褐色粘土土、砂質ブロックが充填し柔らかい |
| 6 10YR3/3 | 暗褐色砂質粘土 | 黄褐色粘土粒子、炭化粒子を含む |
| 7 10YR3/3 | 暗褐色砂質粘土 | 6より黄褐色粘土が多く含まれる、人為的に埋められている |
| 8 10YR3/4 | 暗褐色砂質粘土 | 黄褐色粘土ブロックが充填、人為的に埋められている |
| 9 10YR3/2 | 暗褐色砂質粘土 | 黄褐色粘土土、砂質ブロックが充填、人為的に埋められている |
| 10 10YR3/2 | 暗褐色砂質粘土 | 黄褐色粘土ブロック、粒子が多量に含まれる、人為的に埋められている |
| 11 10YR2/1 | 黒色砂質粘土 | 黄褐色粘土粒や粒子、炭化粒子を多く含む柔らかい |
| 12 2.5Y6/6 | 明黄褐色砂質粘土 | 砂質土、黄褐色土ブロックが混じり固くしまっている |
| 13 2.5Y3/1 | 黒褐色砂質粘土 | 炭化粒子、黄褐色粘土粒を含みややしまっている |
| 14 10YR3/1 | 黒褐色砂質粘土 | 黄褐色粘土ブロックを多量に含み柔らかい |
| 15 10YR3/3 | 暗褐色砂質粘土 | 炭化粒子、黄褐色粘土粒子を多量に含み柔らかい |
| 16 10YR2/3 | 暗褐色砂質粘土 | 白色風化礫粒、黄褐色粘土ブロックが混じり固い |
| 17 10YR3/2 | 暗褐色砂質粘土 | 炭化粒子、黄褐色粘土粒子を含みやや固くしまっている |
| 18 10YR3/3 | 暗褐色砂質粘土 | 硬土ブロック粒子、炭化粒、粘土ブロックが混じる |
| 19 10YR2/1 | 黒色砂質粘土 | 炭化土ブロック、粒子を多量に含む柔らかい |
| 20 2.5Y5/4 | 黄褐色砂質土 | 炭化材、ブロック、若干の黄褐色粘土粒が混じり柔らかい |
| 21 10YR4/4 | 褐色砂質粘土 | 黄褐色粘土ブロック、砂質土ブロックが混じり柔らかい |
| 22 10YR3/3 | 暗褐色砂質粘土 | 黄褐色粘土ブロック、粒子が多量に混じる、柔らかい |
| 23 10YR3/3 | 暗褐色砂質粘土 | 22に近似するが、やや固くしまっている |
| 24 10YR3/3 | 暗褐色砂質粘土 | 23に近似するが、黄褐色粘土ブロックを多量に含み、22よりも多い |
| 25 10YR3/1 | 黒褐色砂質粘土 | 炭化粒子、黄褐色粘土粒子を多量に含み柔らかい |
| 26 10YR4/4 | 褐色砂質粘土 | 粘土ブロック、砂質土ブロックを多く含む、礫体の崩落土 |



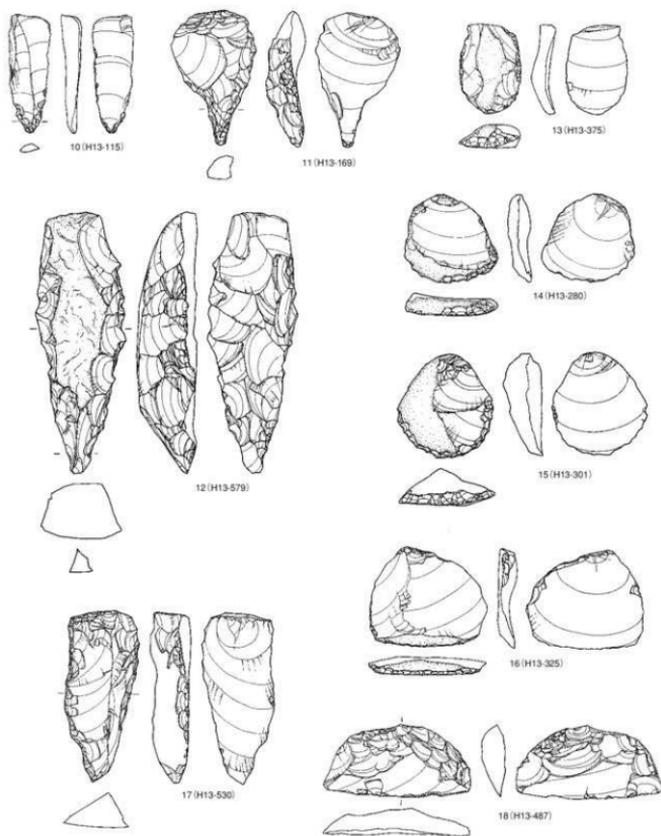
第285図 ST4168 住居跡・出土遺物 (3)

III 縄文時代



第286図 ST4168 住居跡・出土遺物(4)

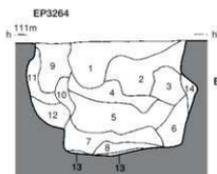
Ⅲ 縄文時代



SK3256

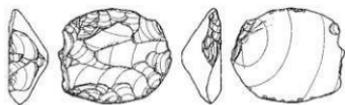
0 10cm
(1:2)

第287図 ST4168 住居跡出土遺物 (5)

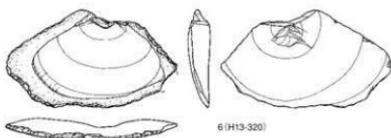


EP3264

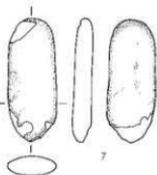
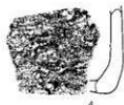
- 1 10YR3/2 黒褐色シルト 土礫片、炭化粒をわずかに含む
- 2 10YR4/4 褐色シルト 1をブロック状に含み、炭化粒が1よりも多く含む
- 3 10YR4/3 に近い黄褐色シルト 地山ブロックを含む
- 4 10YR5/3 に近い黄褐色シルト 炭化粒をわずかに含む
- 5 10YR3/4 暗褐色シルト 地山ブロックを含み、炭化粒も混じる
- 6 10YR3/4 暗褐色シルト 粗砂を所々に含み、極わずかの炭化粒を含む
- 7 10YR3/3 暗褐色シルト 砂が多くなり、地山ブロックも含む、炭化粒も含む
- 8 10YR3/4 暗褐色シルト 砂が多くなり、炭化粒、地山ブロックを含む
- 9 10YR4/3 に近い黄褐色シルト 炭化粒を含む
- 10 10YR4/3 に近い黄褐色シルト 地山ブロックを含む
- 11 10YR4/4 褐色シルト 地山ブロック、炭化粒を含む
- 12 10YR4/6 褐色砂質土 地山(砂)とシルトが混じり合う、炭化粒は含まない(崩落土)
- 13 10YR2/2 黒褐色粘質土 炭化粒を含む(自然堆積土)
- 14 10YR4/3 に近い黄褐色砂質土 炭化粒を含む、別の土上の覆土か



5(H13-294)

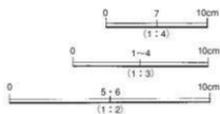


6(H13-320)



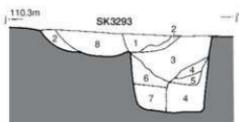
7

EP3264



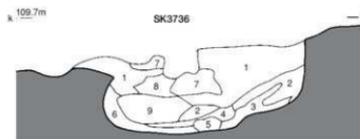
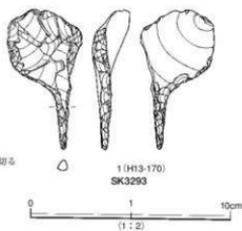
第288図 ST4168 住居跡・出土遺物(6)

Ⅲ 縄文時代



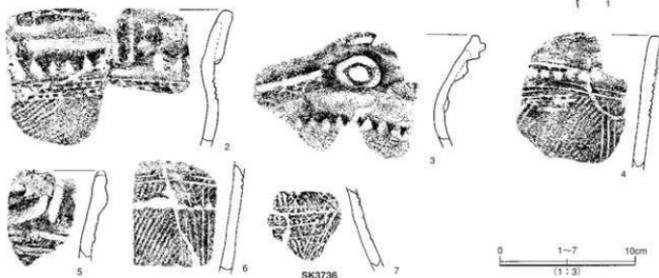
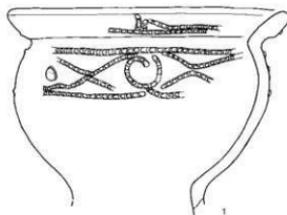
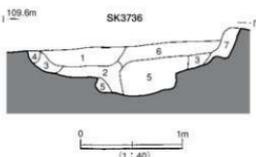
SK3293

- 1 HOYK3-1 黒褐色土 黄褐色土ブロックを多く混入 (1, 2, 8で一つの土塊、概乱か) 深い土塊を切る
- 2 HOYK3-1 黒褐色土 黄褐色土粒少量混入
- 3 HOYK3-1 黒褐色土 黄褐色土粒を多量に混入。同ブロックをわずかに混入
- 4 HOYK3-1 黒褐色土 3とほぼ同様だが、より黄褐色土ブロックを多量に混入
- 5 HOYK3-2 灰白色砂
- 6 HOYK3-1 黒褐色土 黄褐色土ブロック、同粒子多量に混入、4よりも多い
- 7 黄褐色土 黒色土、及び砂を混入
- 8 HOYK3-1 黒褐色土 黄褐色土ブロック、同土を多量に混入

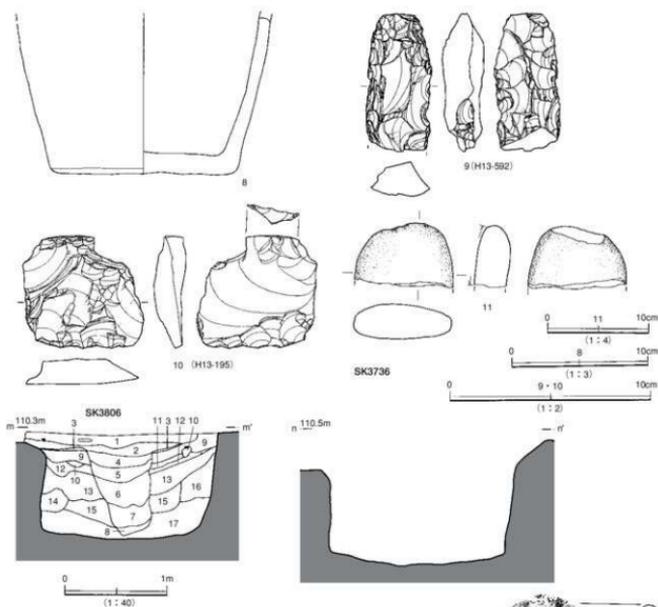


SK3736

- 1 HOYK3-1 黒褐色土 黄褐色粘質土ブロック、灰白色土ブロック、灰白砂を多量に混入
 - 2 HOYK3-1 灰白色粘質土 1を少量混入
 - 3 HOYK3-1 黒褐色土 1とほぼ同様だが、灰白色土ブロックを混入しない
 - 4 HOYK3-4 黒褐色土 黄褐色粘質土ブロックを多量に混入
 - 5 HOYK3-8 黄褐色粘質土ブロック 4を少量混入
 - 6 HOYK3-1 灰白色砂 2とほぼ同様だが、灰白色砂でなく褐色砂である
 - 7 HOYK3-8 黄褐色粘質土ブロック 1をわずかに混入
 - 8 HOYK3-4 褐色砂質土 黄褐色粘質土ブロックを多量に混入
 - 9 HOYK3-6 明黄褐色砂質土
- 1F
 - 1 HOYK3-1 黒褐色砂質土 黄褐色砂質土粒少量混入
 - 2 HOYK3-1 黒褐色砂質土 黄褐色砂質土粒多量混入
 - 3 HOYK3-1 黒褐色砂 黄褐色砂少量混入
 - 4 HOYK3-1 黒褐色土 黄褐色砂少量混入
 - 5 HOYK3-1 黒褐色土 黄褐色粘質土ブロック多量に混入
 - 6 HOYK3-3 黒褐色土 黄褐色砂質土多量に混入
 - 7 HOYK3-3 黒褐色土 黄褐色土ブロック多量に混入



第289図 ST4168 住居跡・出土遺物 (7)



SK3806

- 1 10YR3-1 黒褐色シト質粘土 若干の炭化粒子、白色風化産物や砂子を含み、やや固くしるす土層
- 2 10YR3-1 黒褐色シト質粘土 13に近似するが、炭化粒子や風化産物をやや多く含む、やや固くしるす土質
- 3 10YR3-2 黒褐色シト質粘土 黒色粘土ブロック、黄褐色粘土粒やブロックを含む、固く踏みしめられている
(ST3300東面、貼付)
- 4 10YR3-1 黒褐色シト質粘土 炭化粒子、黄褐色粘土ブロック及び炭化粒子を多く含む、やや柔らかく、砂質性が強い
- 5 10YR2-2 黒褐色シト質粘土 炭化粒子、黄褐色粘土ブロック (厚10-15cm) が多量に混じり、柔らかく、砂質性はより強い
- 6 10YR3-3 黒褐色シト質粘土 炭化粒子、黄褐色粘土粒を多量に含み、柔らかく
- 7 10YR3-3 黒褐色シト質粘土 6に近似、より柔らかくしるす
- 8 10YR2-2 黒褐色シト質粘土 黒色粘土ブロック、黄褐色粘土ブロック、黄褐色粘土ブロックが混じり、固く混じっている
- 9 10YR4-4 褐色シト質粘土 褐色砂質土と黒色土ブロックが多量に混じり、固くしるす。ST3300東面や壁を構築する
- 10 10YR3-2 黒褐色シト質粘土 黄褐色土、黒色粘土ブロックに混入
- 11 10YR3-3 黒褐色シト質粘土 黒色粘土ブロックが、レイズ面に混焼
- 12 10YR3-2 黒褐色シト質粘土 黒色粘土、黄褐色粘土、塊土ブロックや炭化粒子を多量に含み固い
- 13 10YR4-4 褐色シト質粘土 黄褐色土や風化産物、若干の炭化粒子が混じり、固く混じっている
- 14 10YR4-4 褐色シト質粘土 13に近似する、より黄褐色粘土ブロックが多量に混入する、砂質性が強い
- 15 10YR4-4 褐色シト質粘土 13に近似する、より黄褐色粘土ブロックが多量に混入する、砂質性が強い
- 16 10YR4-4 褐色シト質粘土 13に近似するが、12、14、15よりも砂質性が強くなる
- 17 10YR3-3 黒褐色シト質粘土 13に近似するが、粘質性が強くなり固く混じっている

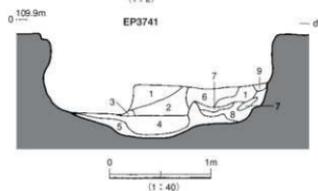
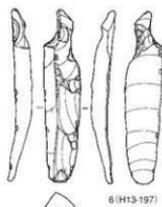
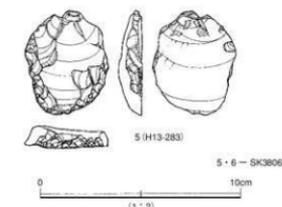


SK3806



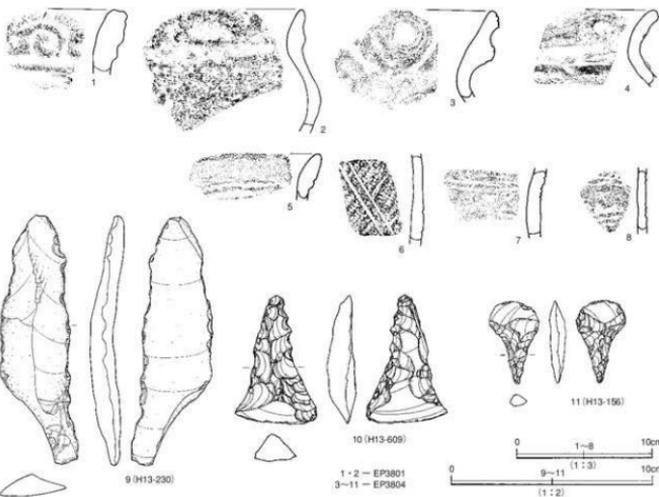
第290図 ST4168 住居跡・出土遺物 (8)

III 縄文時代

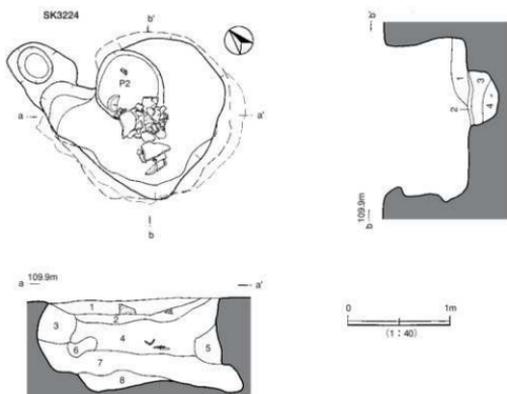


EP3741

- 1 10YR2/2 黒褐色土 黄褐色土粒多量に混入
- 2 10YR3/2 黒褐色粘質土 黄褐色砂多く、黄褐色土粒多量に混入
- 3 10YR8/2 灰白色砂 黒褐色土粒少量混入
- 4 10YR2/2 黒褐色土 黄褐色土ゾロツク、同粒子多量に混入
- 5 10YR8/2 灰白色砂 地山、非常に軟弱砂
- 6 10YR3/2 黒褐色粘質土 2と似るが、2よりも多量に黄褐色砂混入
- 7 10YR5/6 黄褐色砂 5の砂と黒色土を混入
- 8 10YR2/2 黒褐色土 1とほぼ同じだが、やや黄褐色砂多い (2よりも黄褐色砂少ない)
- 9 10YR5/6 黄褐色粘質土 黒色土少量混入



第291図 ST4168 住居跡・出土遺物(9)



SK3224

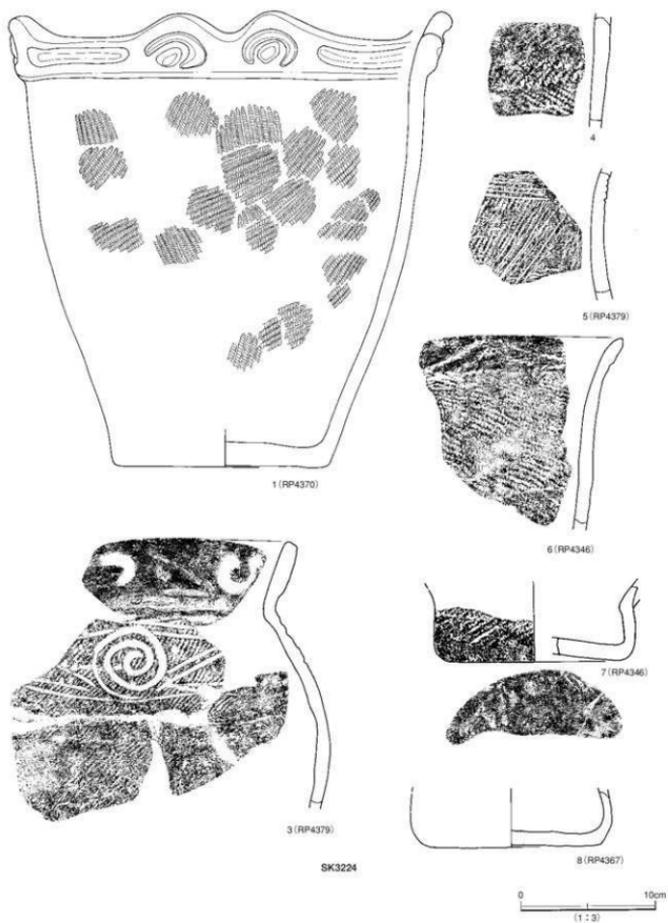
- a-a'**
- | | |
|-------------------------|--------------------------------------|
| 1 10YR2/3 黒褐色シルト | しまり強く粘性あり、土器片含む |
| 2 10YR3/3 暗褐色シルト | しまり強く砂微少、遺物、石器 |
| 3 10YR5/6 黄褐色粘質シルト | しまりあり、暗褐色土混合（炭状） |
| 4 10YR2/3 黒褐色シルト | しまり弱い（柔らかい）、炭化物含む、土器（KP4346）包絡、土器片含む |
| 5 10YR4/4 褐色シルト | 砂質ブロック含む、炭化物少量、しまり弱い（柔らかい） |
| 6 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質シルト | 暗褐色土混合（炭状）、しまりあり |
| 7 10YR3/4 暗褐色シルト | 砂質ブロック含む、黄褐色土混じる（炭状）柔らかい |
| 8 10YR6/6 明黄褐色粘質シルトブロック | 黒褐色シルト混じる、しまり強く固い |
- b-b'**
- | | |
|---------------------|--|
| 1 10YR5/6 黄褐色シルト質粘土 | 黄褐色粘土、若干の白色粘土ブロックを含み、固く踏みしめられている |
| 2 10YR3/1 黒褐色シルト質粘土 | 若干の炭化粒子、黄褐色粘土ブロックを含み、固い |
| 3 10YR3/3 暗褐色シルト質粘土 | 暗褐色粘土ブロック（径15～6cm）を多量に含み、固くしまっている、若干の黒褐色土も含まれる |
| 4 10YR4/6 褐色シルト質粘土 | 黄褐色粘土ブロック（径12～15cm）と黒褐色粘土ブロックが混じる、固くしまる |

第292図 ST4168 住居跡

S K3806では1～6の半截竹管文などの深鉢片、搔器・石匙が出土している。E P3801では1・2の半截竹管文の台付鉢、E P3804では3～11の半截竹管文の台付鉢片、削器・石鎌が出土している。

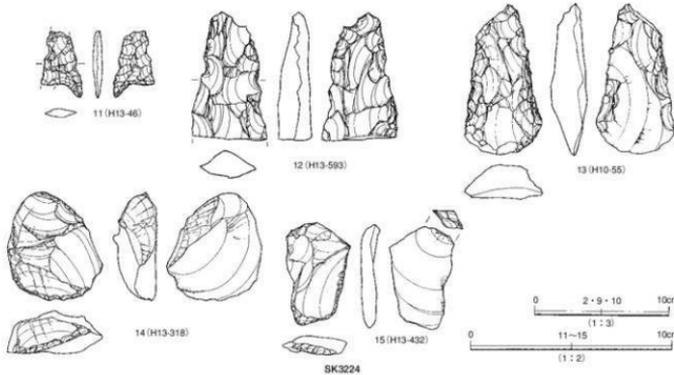
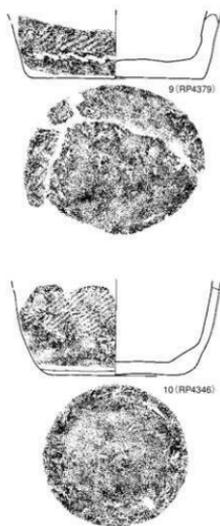
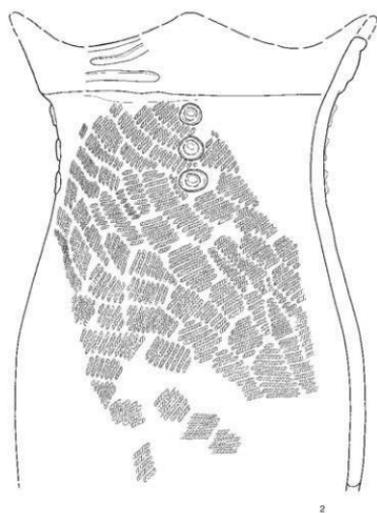
P 2の所在するS K3224フラスコ状土坑では、1～16のまとまった遺物が出土している。1は口縁部に太い沈線を施す深鉢、2はボタン状貼付文の深鉢である。3～10は半截竹管文・押圧縄文・太い沈線の深鉢・台付鉢である。11～15は石鎌・尖頭器・削器・搔器、16は石皿である。

Ⅲ 縄文時代



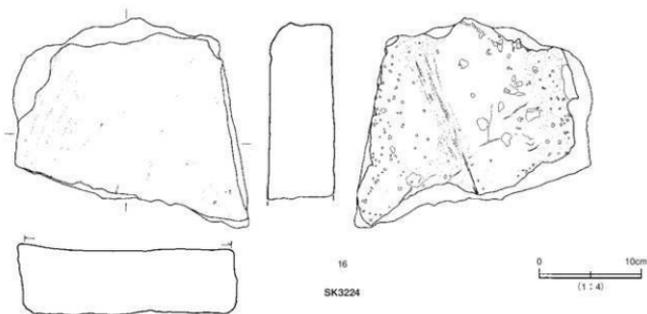
第293図 ST4168 住居跡出土遺物 (10)

Ⅲ 縄文時代



第294図 ST4168 住居跡出土遺物 (11)

Ⅲ 縄文時代



第295図 ST4168 住居跡出土遺物 (12)

S T 4007～4012・4061住居跡 (第296～302図 写遺物-67・71・79)

グリッド16・17・96・97に位置する。本址は環状集落の南西に傾斜する斜面上に所在する。この地区のプラン確認時に多数の土色変化が確認され、遺物も多数出土した。そのため住居跡の遺構と推定して調査を進めた。その結果、床面や炉が検出されないこと、底面がかなり傾斜していること、遺物が浮いて出土していること等の理由から竪穴住居跡の遺構ではなく遺物包含層

遺物はS T 4008から1～8の深鉢口縁部や石錐が出土。S T 4009では9～26の半載竹管文の深鉢口縁部や台付鉢の台部、S T 4010では27・28の深鉢片や石器が出土している。S T 4011では29～70の半載竹管文や口縁部に歯状の貼付文を施す深鉢土器片(35)、石器、礫石器が多数出土している。65・70は凹石、66～69は磨石である。S T 4012からは71～89の半載竹管文の深鉢片が出土している。73～81は同一個体で鶏屋町式～朝日下層式土器とみられる。90～93の波状口縁の深鉢はS T 4061から出土し、94・95の半載竹管による平行沈線文の深鉢は、S T 4011内に所在する径50cmの小ビット状遺構のS P 4098から出土している。

S T 4062住居跡 (第296・303～305図 写遺構-173 写遺物-72)

グリッド17・95・96に位置する。縄文時代前期末葉の環状集落の南側斜面上、S T 4061の東に隣接して所在する。平面形は円形を呈し、径3.4mを測る。壁面は黒色土をはは垂直に掘り込む。南壁は斜面のため、僅かに検出されるだけである。南壁付近では多数の円形の土坑状ビット、S K 4069～4073・4078・4088が重複している。床面は黒色土で、南へ傾斜する斜面に位置するためか床面も傾斜している。床面には柱穴状のビットが10基ほど検出された。遺物も大型破片などが出土している。

本址の検出状況は以上であるが、黒色土の壁や床面、柱穴は明確ではない。貼土も構築され

ておらず、堅緻な床面や伊は検出されない。これは他の住居跡と様相が大きく異なる。このような状況から現時点で本址は、住居跡と考えるよりも包含層ないしは捨て場とした方が適当と考えられる。重複する土坑も同様である。

遺物は1~14が出土している。1は半載竹管による波状文、2は爪形文(刺突文)、3は波状口縁で細い粘土紐貼付文の深鉢である。6は口縁部の上下に押捺文、8は穿孔が施される。石器は搔器・削器・石核である。S K 4070は本址南西壁付近に重複して検出された。南北1.2m、東西1.1m、深さ20cmである。東西の底面は平坦だが南北はやや傾斜する。1の波状口縁の深鉢が出土している。胴部上半に雉状施文具により平行沈線と波状文を交互に施文している。S K 4071はS K 4070の南に重複する。長軸1.4m、短軸1.1m、深さ27cmを測る。東西の床面は平坦である。遺物は1~10が出土している。1は口縁下部に隆帯を貼付、竹管による刺突を施し、細い粘土紐による連続山形文を施文する。2~7は雉状施文具による沈線文の深鉢口縁部片、8は凹石である。S K 4078・4088は南北1.9m、東西1.5mを測る。東西の床面は平坦で南北の床面はやや傾斜する。遺物は1~5の深鉢がある。1は口縁部に爪形文施文の深鉢である。2・3は爪形文、細い粘土紐貼付による連続山形文の深鉢、5は深鉢下半部である。

S T 4063・4064・4065 (第308~318回 写遺構-173 写遺物-5・73~80)

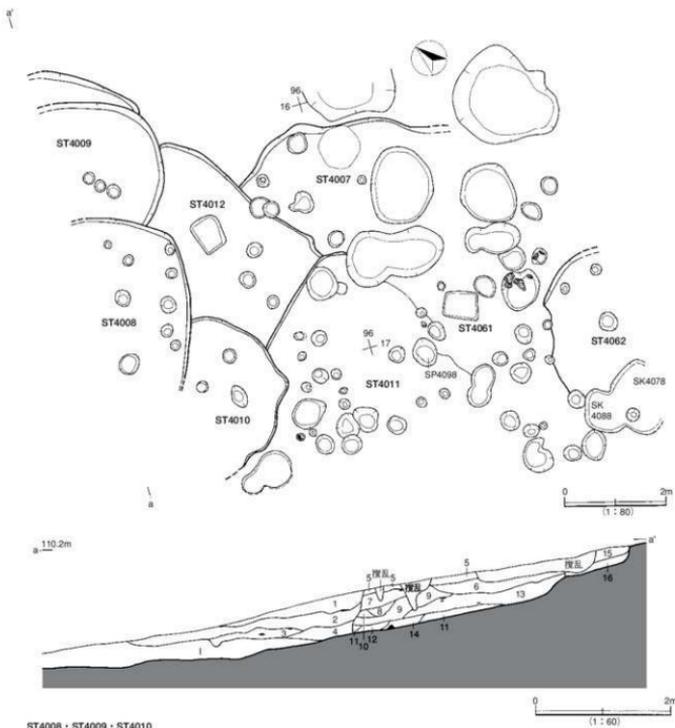
グリッド18・19~94・95に位置する。環状集落の南西斜面部に位置する。S T 4007~4012・4061・4062等と同様の性格の遺構である。平面プランは3棟の住居が重複している様相を呈し、遺物も多量に検出された。壁はほぼ垂直、底面は東西では平坦、南北では南に傾斜している。柱穴状のピットも多数が検出されている。しかし前記のS T 4062等と同様、遺物包含層または土器捨て場と考える。

S T 4062と同様

S T 4063で検出された遺物は1~95である。1~83は深鉢、台付鉢である。全体の器形が寛めるものや大型破片が多数出している。しかし、ほとんどが底面より、かなり浮いた出土状況である。1は口縁部に3個一組の円形突起、胴上半部に半載竹管による半隆起線文、重菱形文・ボタン状貼付文の深鉢。2は結節状沈線文とボタン状貼付文の台付鉢。4は口縁部隆帯に押圧縄文、頸部に連続爪形文の深鉢。5は肥厚する口縁部に単沈線による連続山形文、やや太い沈線文の深鉢。6は縦位傾位のやや細い沈線文、7は口縁部に押圧縄文の隆帯、8は口縁部に棒状浮文、9・10・11は口縁部に爪形文、11はボタン状貼付文。それぞれ深鉢である。13は細い沈線文が僅かに残る深鉢。14は肥厚する口縁部、頸部に穿孔を巡らす台付鉢。15は肥厚する口縁部に押圧縄文の深鉢、16は口縁部下端に爪形文の深鉢。17は口縁部に隆帯、胴上半部に半載竹管による平行沈線文、波状文、ボタン状貼付文の深鉢。18は肥厚する口縁部に縦位の連続沈線文の深鉢。19は口縁部に太い沈線文による連続山形文、胴上半部に隆帯に刻目文、半載竹管の波状文の台付鉢、20は波状口縁深鉢。

21は口縁部に縦位・横位に隆帯を貼付けて凹文を構成し頸部隆帯に刻目文、口縁部下端に刺突文。22・24~26は口縁部隆帯文に押圧縄文を施文。23は棒状浮文とボタン状貼付文、平行沈線文。27・45は口縁部に円形凹文と結節状沈線文。28・29は平行沈線文、30は刺突文、31は波状口縁にボタン状貼付文、32は太い沈線文と口縁部下端に刺突文、33・34は口縁部隆帯に押圧縄文施文、口縁部下端に半載竹管による連続刺突文。35・40は沈線による連続山形文、35は口

III 縄文時代

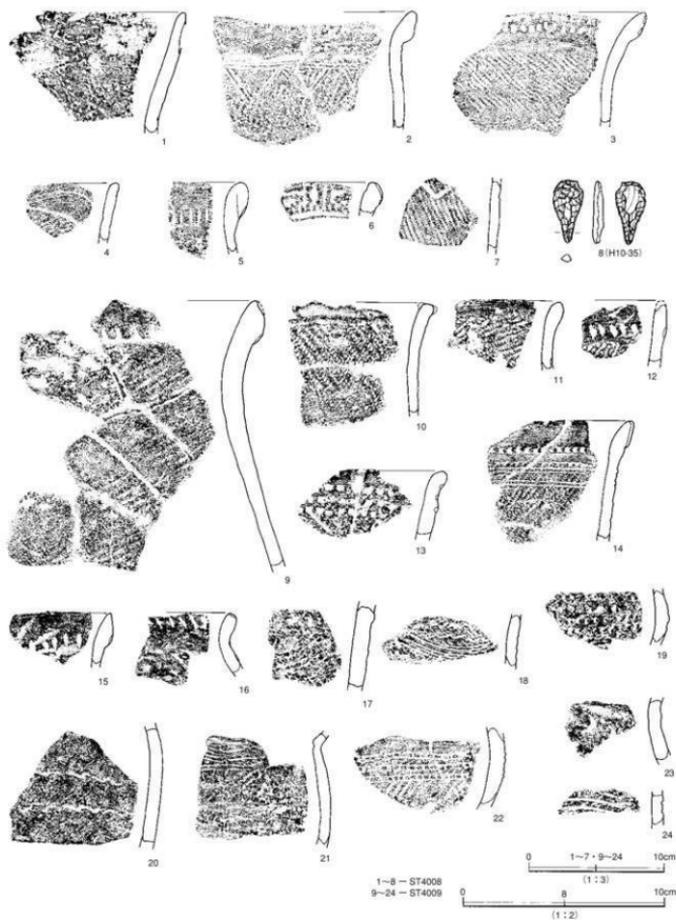


ST4008・ST4009・ST4010

- 1層 10YR1.7/1 黒色シルト質粘土 風化層や小礫が混じり固くしており、どちらかという粘着性に富んでいる
(黄褐色粘土堆土の上に堆積しており、曲割面の住居跡の床面を形成している)
- 1 10YR2/2 黒褐色シルト質粘土 炭化粒子と白色風化層粒が混じり、やや固くしまっている (礫も混じる)
- 2 10YR2/2 黒褐色シルト質粘土 多量の炭化粒子と若干の白色風化層粒と小礫が混じり共に北へると柔らかくなり、砂質性が強くなる
- 3 10YR2/3 黒褐色シルト質粘土 多量の炭化粒子と若干の白色風化層粒と小礫が混じり、より固くしまっている
- 4 10YR2/3 暗褐色シルト質粘土 多量の炭化粒子や黄褐色粘土とブロックや黒褐色粘土ブロックが混じり、やや固くしまり粘質に富んでいる
- 5 10YR2/4 暗褐色シルト質粘土 黄褐色粘土ブロックや黒褐色粘土ブロックを多量に、若干の炭化粒子が混じり、固くしまっている
- 6 10YR4/3 灰色黄褐色土質土 多量の黄褐色粘土ブロック (厚1-5cm) や粘土、黒色粘土ブロック等に砂礫が混じり、固くしまっている
- 7 10YR2/2 黒褐色シルト質粘土 多量の炭化粒子と黒色粘土ブロック (厚1-2cm) が多量、褐色粘土粒やブロックが少量混じり、固くしまっている
- 8 10YR2/4 褐色シルト質粘土 黄褐色粘土ブロックが化調している頃に、若干の細灰褐色粘土ブロックと黒色粘土ブロックも混じり、固い
- 9 10YR2/2 黒色シルト質粘土 黒色粘土ブロックが多量に、黄褐色粘土粒や炭化粒子が混じり、やや固くしまっている
- 10 10YR2/2 黒色シルト質粘土 土質などは逆に柔らかくなるが、より固くしまっている
- 11 10YR2/3 暗褐色シルト質粘土 黒褐色粘土と黄褐色粘土が多量に混じり、非常に固くしまっている
- 12 10YR4/4 褐色シルト質粘土 黄褐色粘土と黄褐色粘土ブロックや黒色粘土ブロックが混じり、やや固くしまっている
- 13 10YR2/1 黒褐色シルト質粘土 多量の炭化粒子と白色風化層粒と小礫が混じり、やや固く砂質性が強い
- 14 10YR2/2 黒褐色シルト質粘土 多量の炭化粒子や黄褐色粘土粒、若干の塊土粒が混じり固くしまっており、砂質性に富む
- 15 10YR2/1 黒褐色シルト質粘土 多量の炭化粒子と白色風化層粒と小礫が混じり、砂質性がありややしまっている
- 16 10YR2/2 黒褐色シルト質粘土 土質は逆に柔らかくなるが、更に炭化粒子が多くなり砂質性に富んでいる

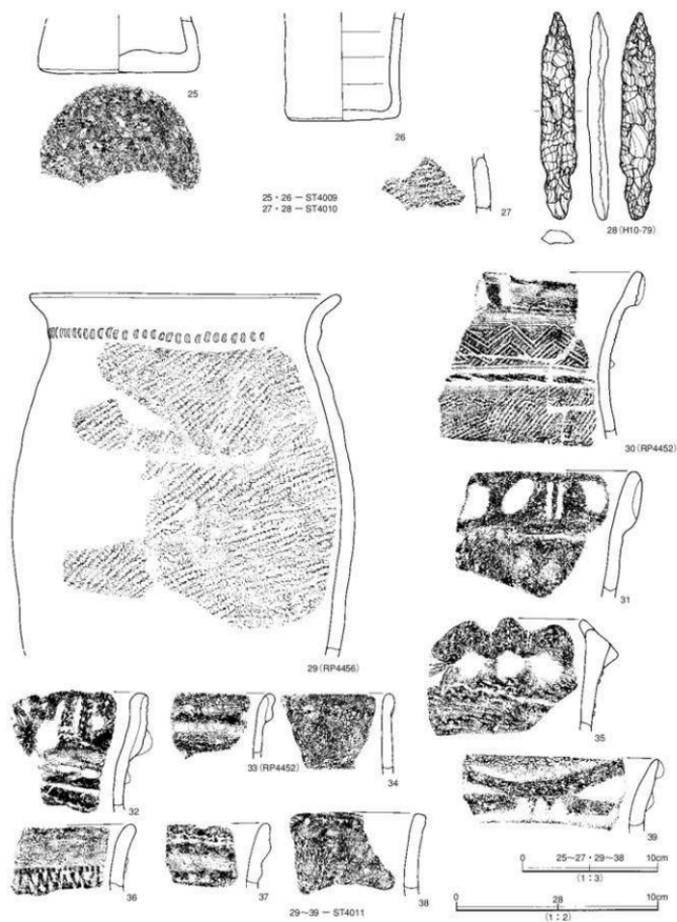
第296図 ST4007～4012・4061・4062 住居跡

Ⅲ 縄文時代



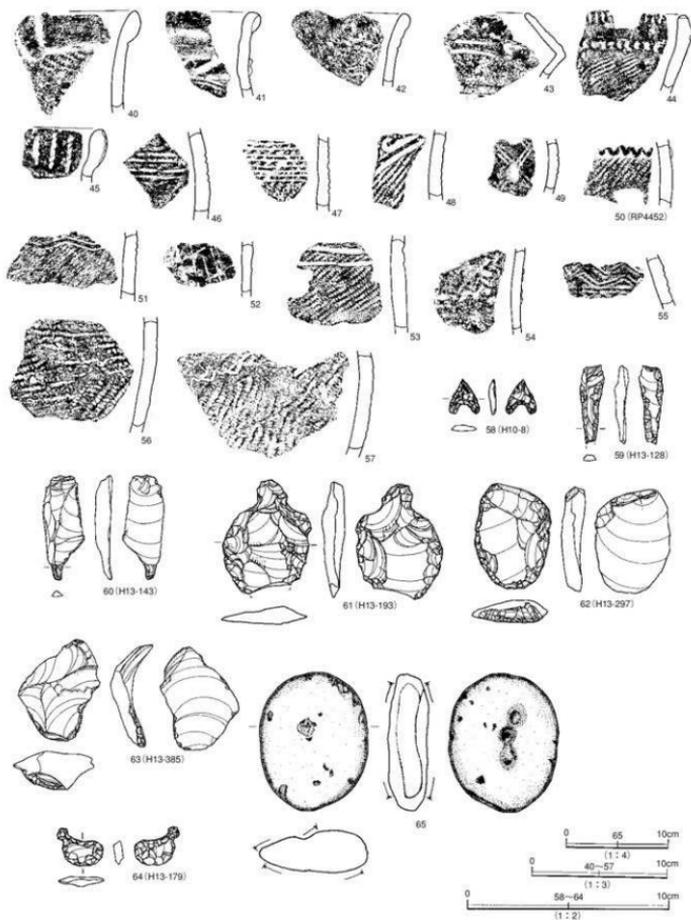
第297図 ST4008・4009 住居跡出土遺物

Ⅲ 縄文時代



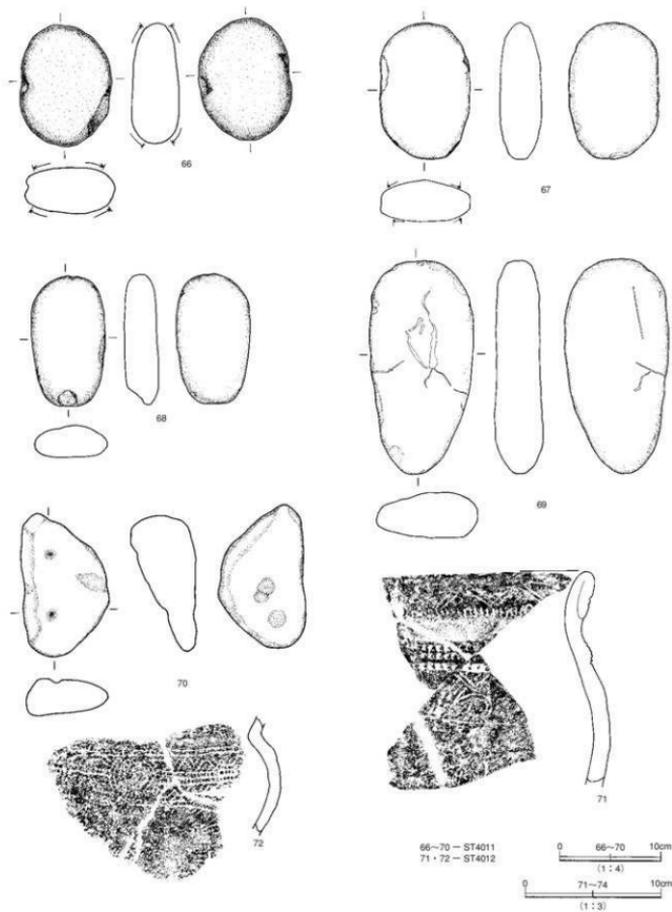
第298図 ST4009~4011住居跡出土遺物

Ⅲ 縄文時代

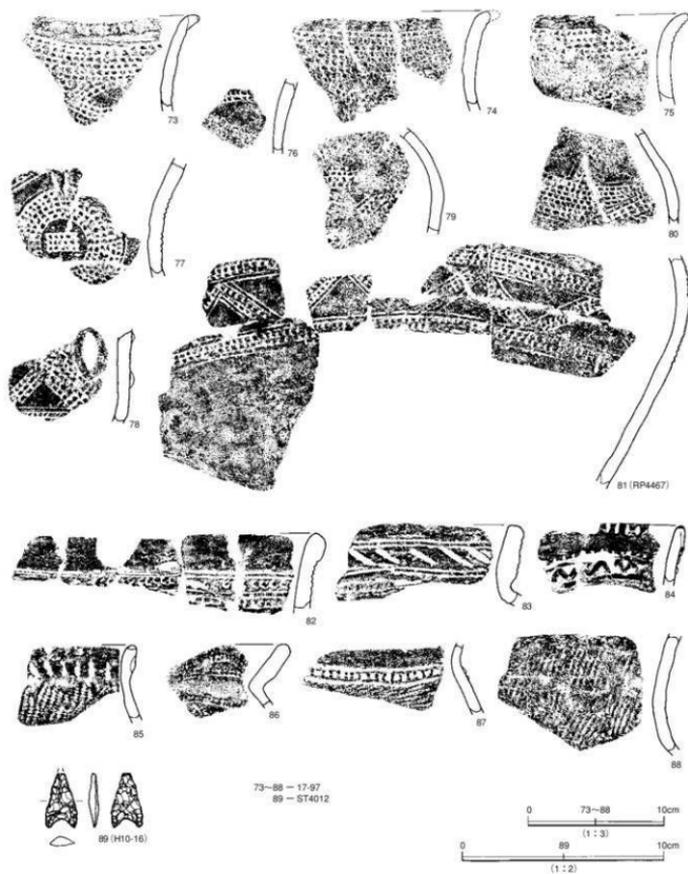


第299図 ST4011住居跡出土遺物

Ⅲ 縄文時代



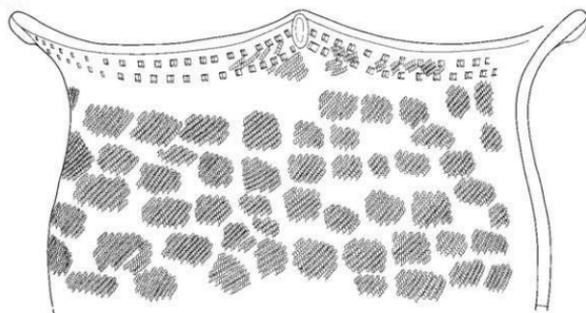
第300図 ST4011・4012 住居跡出土遺物



第301図 ST4012 住居跡出土遺物・グリッド出土遺物

Ⅲ 縄文時代

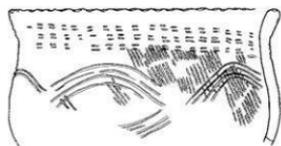
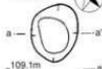
ST4061



90 (RP5554)



SP4098



94



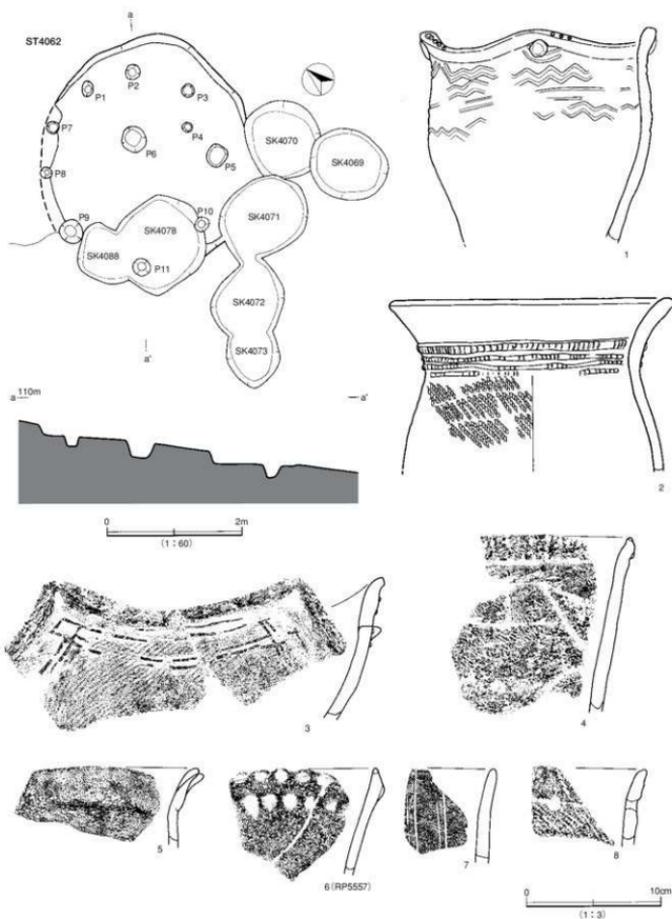
95

90-93 - ST4061
94-95 - SP4098



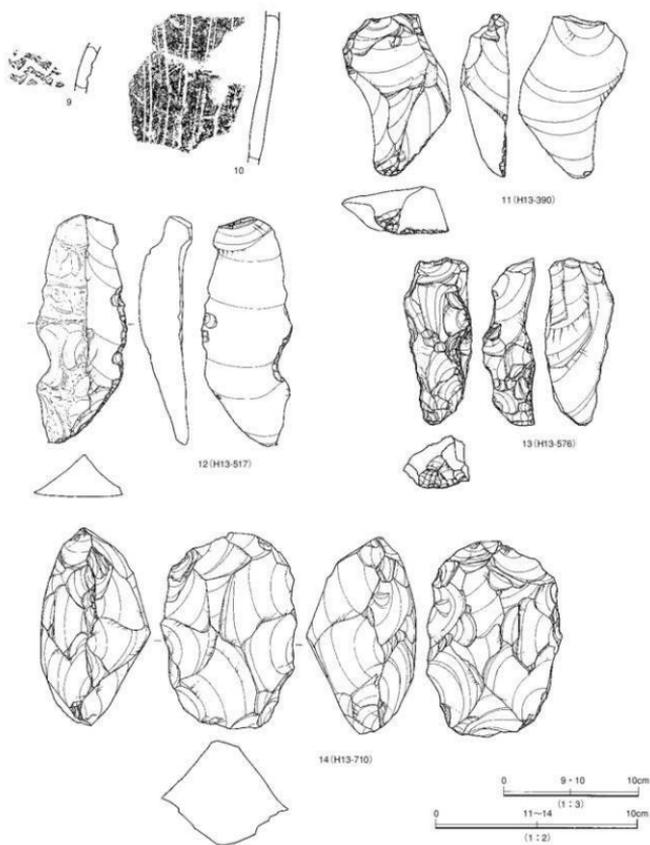
第302図 ST4061 住居跡・出土遺物

Ⅲ 縄文時代

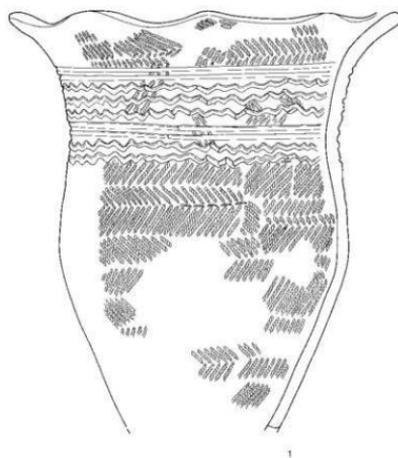
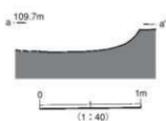
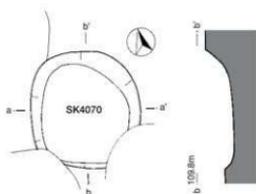


第303図 ST4062 住居跡・出土遺物 (1)

Ⅲ 縄文時代



第304図 ST4062 住居跡出土遺物(2)

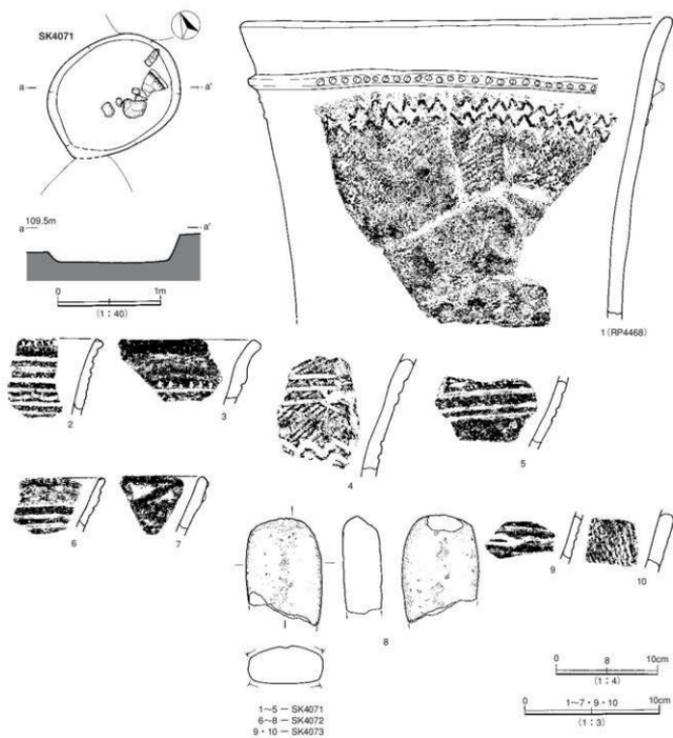


1-3 - SK4070



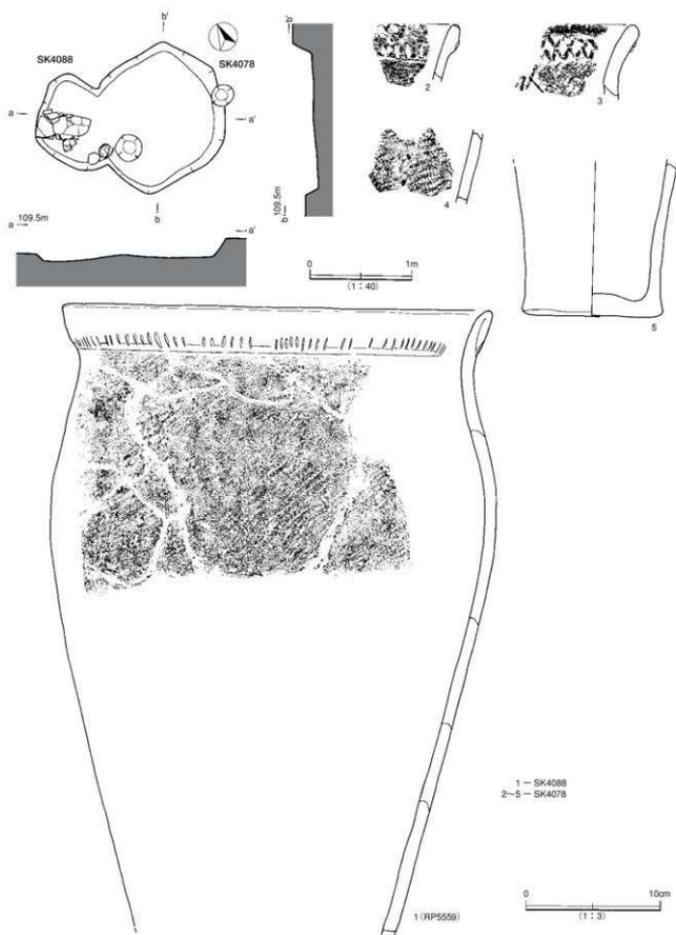
第305図 ST4062 住居跡・出土遺物 (3)

Ⅲ 縄文時代



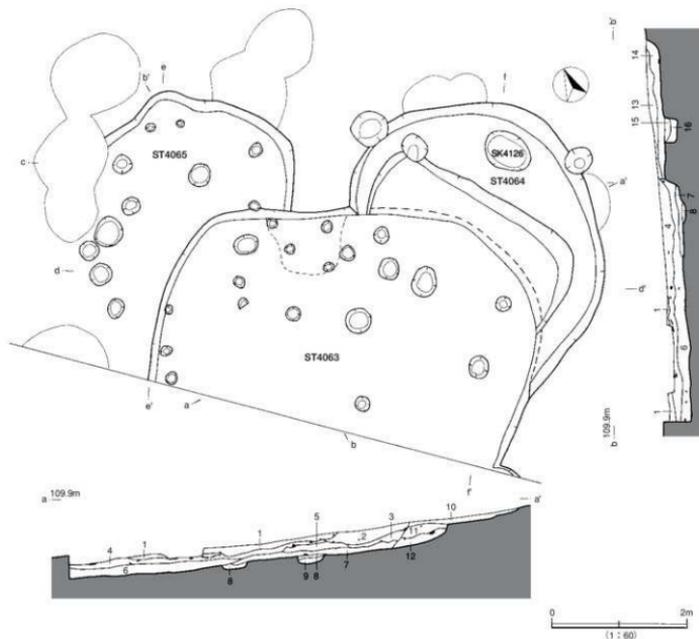
第306図 ST4062 住居跡・出土遺物(4)

Ⅲ 縄文時代



第307図 ST4062 住居跡・出土遺物 (5)

Ⅲ 縄文時代



ST4063

- 1 10YR3/3 暗褐色シルト質粘土
- 2 10YR4/3 に近い黄褐色シルト質粘土
- 3 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土
- 4 10YR3/4 暗褐色シルト質粘土
- 5 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土
- 6 10YR2/3 暗褐色シルト質粘土
- 7 10YR3/2 暗褐色シルト質粘土
- 8 10YR3/1 黒褐色シルト質粘土
- 9 10YR4/4 褐色シルト質粘土

若干の炭化粒子と白色風化礫粒が混じり、やや固くしまっている
 小礫(径2~4cm)と黒色、黄褐色粘土ブロックや炭化粒子を多量に混じり、やや柔らかい
 小礫(径1~3cm)と黄褐色粘土ブロックや炭化粒子を多量に混じり柔らかい、2と近似する
 炭化粒子、黄褐色粘土粒を多量に含み、やや柔らかい
 4と近似するが、白色風化礫粒を多量に混じる
 炭化粒子、白色風化礫粒多量に含み、やや柔らかくなる
 6に近似しているが、若干の黒色、黄褐色粘土粒が混じる
 多量の炭化粒子を多量に含み、柔らかい
 黄褐色粘土粒や炭化粒子を含み、柔らかい

ST4064

- 10 10YR4/3 に近い黄褐色シルト質粘土
- 11 10YR4/4 褐色シルト質粘土
- 12 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土

黄褐色粘土粒や炭化粒子を多量に含み、固くしまっている
 炭化粒子、黄褐色粘土ブロックや黄褐色シルトブロックが多量に混じり固くしまっている
 炭化粒子、白色風化礫粒を多量に混じり、柔らかい(自然堆積)

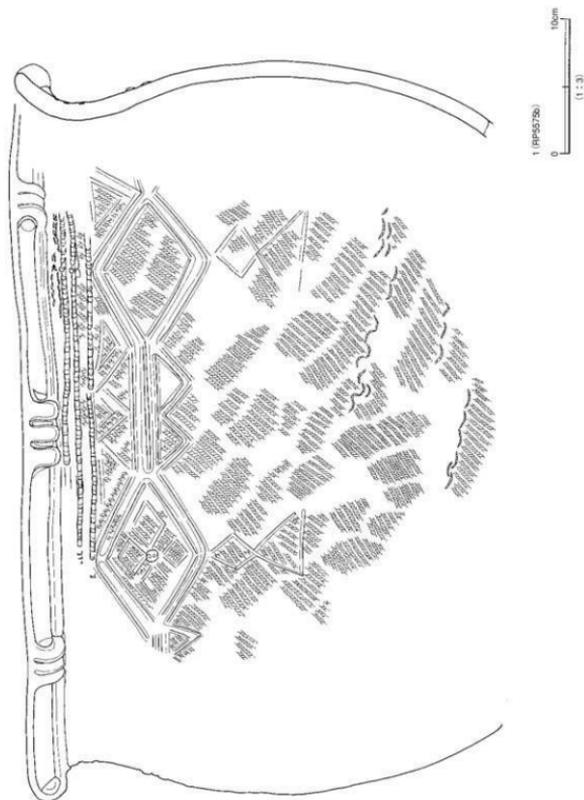
ST4065

- 13 10YR4/4 褐色シルト質粘土
- 14 10YR2/3 暗褐色シルト質粘土
- 15 10YR3/1 黒褐色シルト質粘土
- 16 10YR3/2 黒褐色シルト質粘土

炭化粒子、黄褐色粘土粒、白色風化礫粒を多量に含み、固くしまる
 炭化粒子、白色風化礫粒を含みやや固くなる
 炭化粒子を多量に含み、柔らかい
 炭化、黄褐色、黒色粘土粒を含み、柔らかい

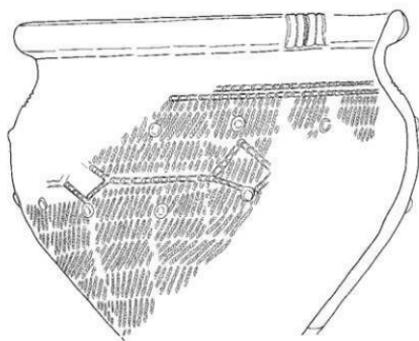
第308図 ST4063・4064・4065 住居跡(1)

Ⅲ 縄文時代

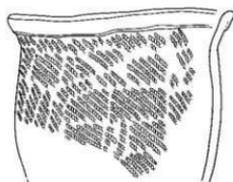


第310図 ST4063 住居跡出土遺物 (1)

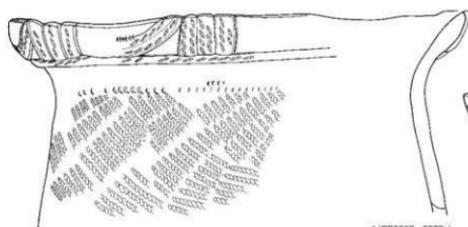
Ⅲ 縄文時代



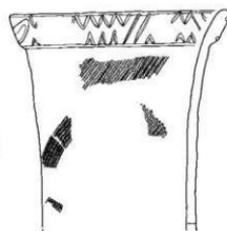
2 (RP5575d)



3 (RP5576)



4 (RP5527 - 5577c)



5 (RP5575e)

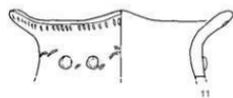
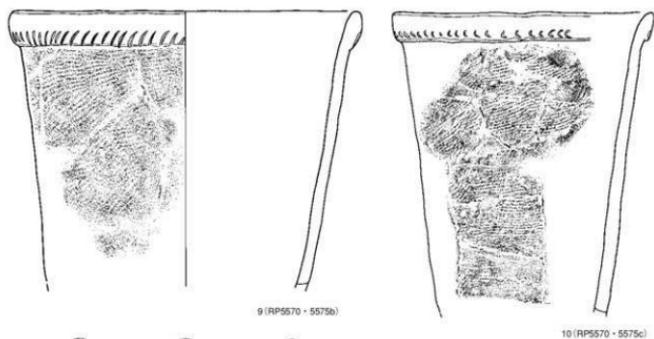
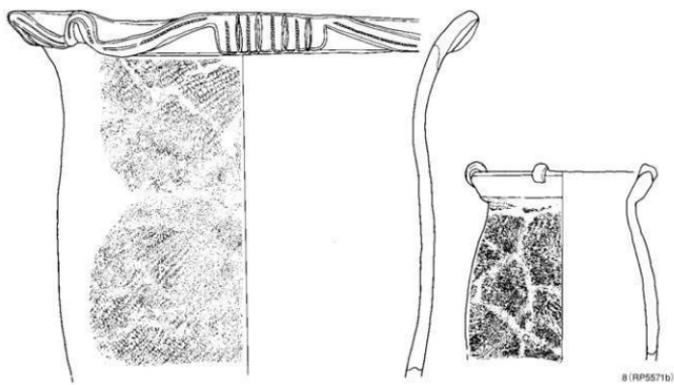


6



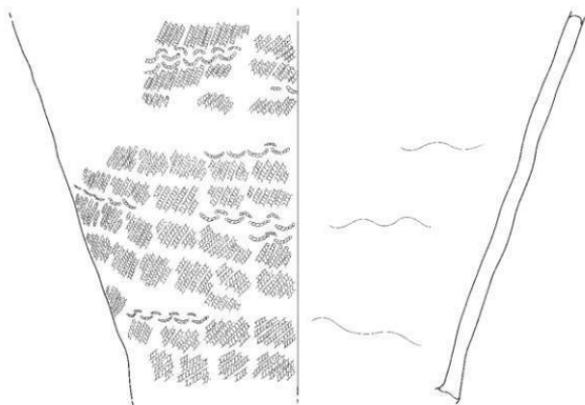
第311図 ST4063 住居跡出土遺物 (2)

Ⅲ 縄文時代

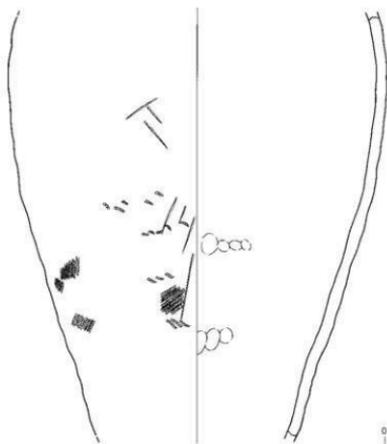


第312図 ST4063 住居跡出土遺物 (3)

Ⅲ 縄文時代



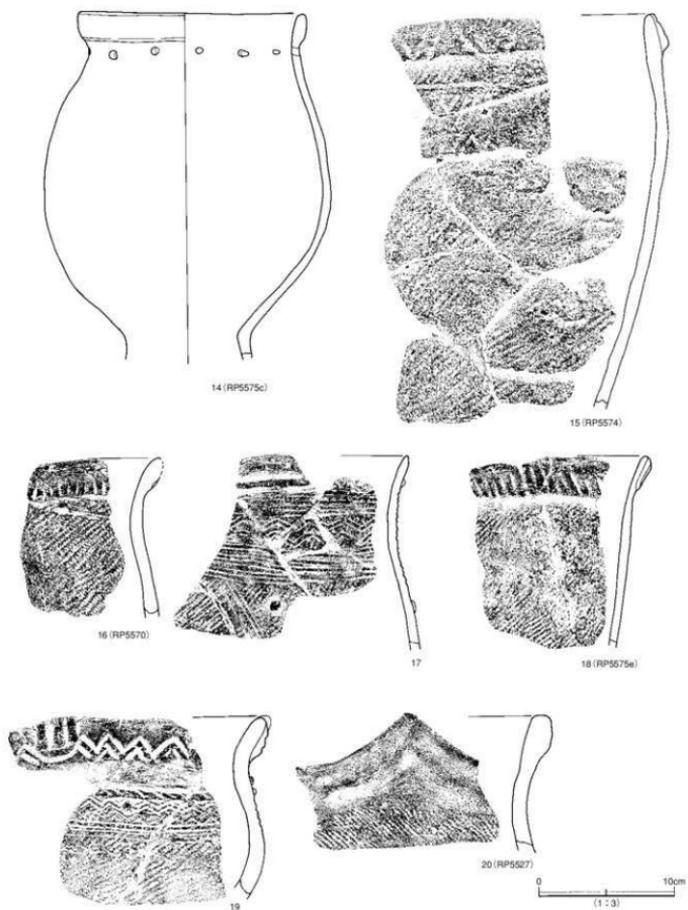
12 (RP5570d)



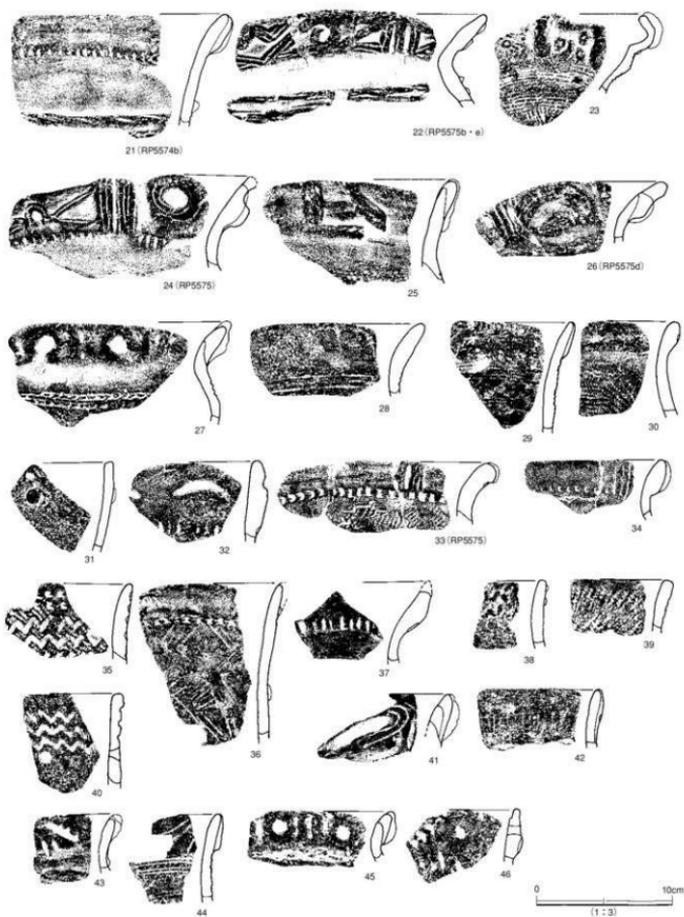
13 (RP5527)

第313図 ST4063 住居跡出土遺物 (4)

Ⅲ 縄文時代

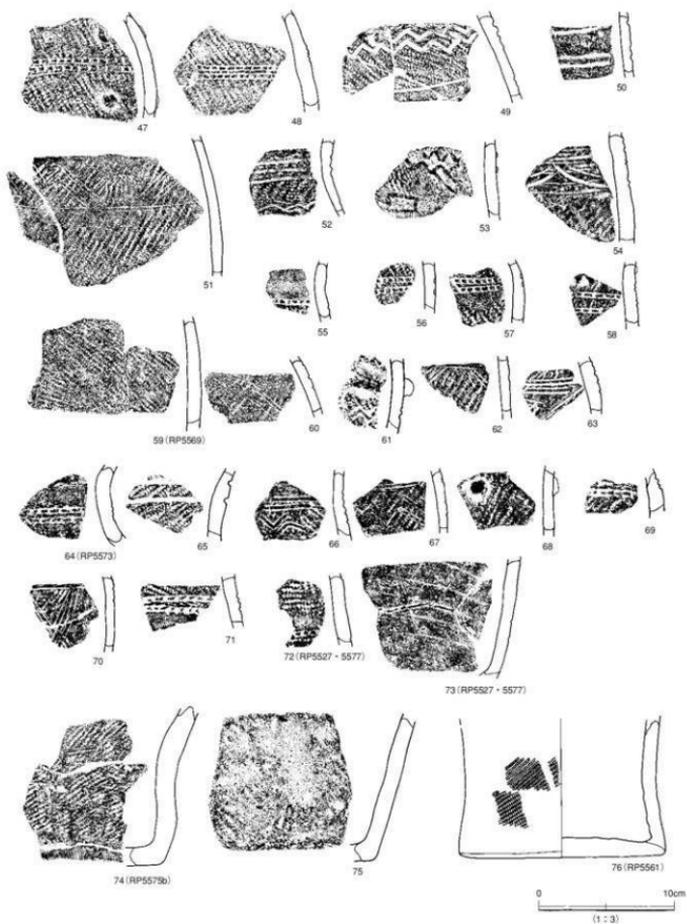


第314図 ST4063 住居跡出土遺物 (5)



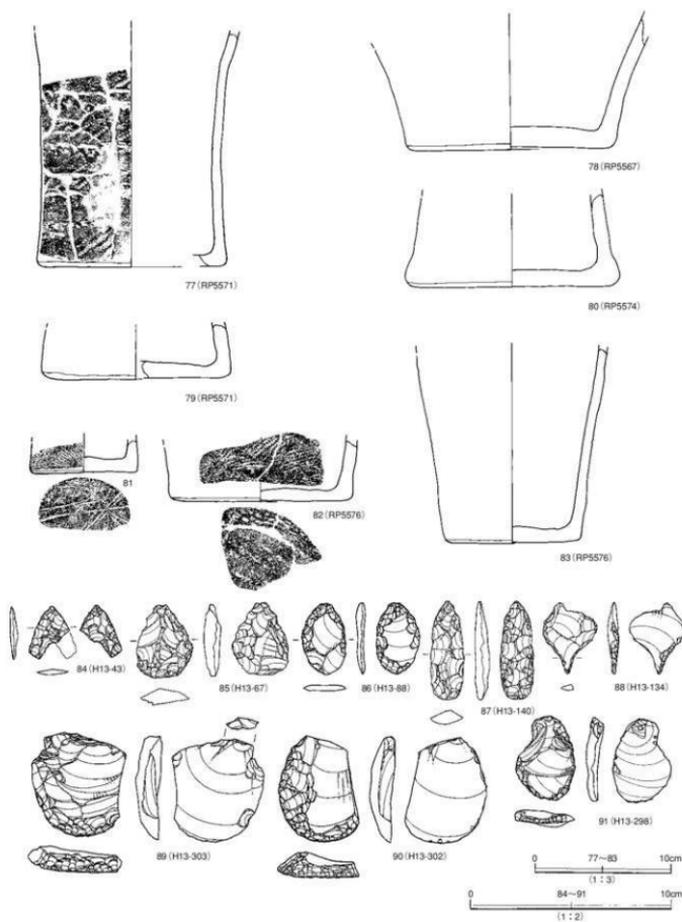
第315図 ST4063 住居跡出土遺物 (6)

Ⅲ 縄文時代



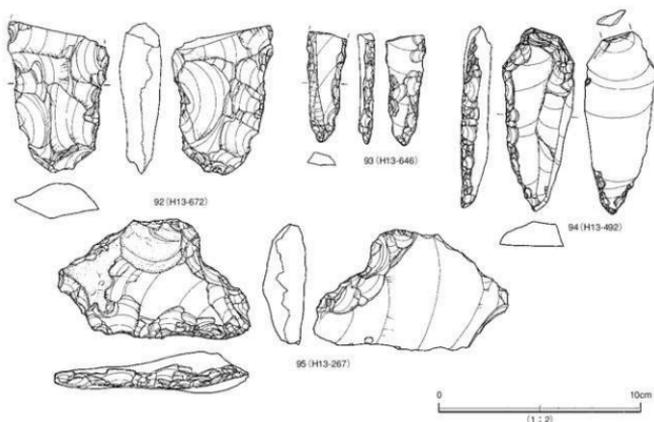
第316図 ST4063 住居跡出土遺物 (7)

Ⅲ 縄文時代



第317図 ST4063 住居跡出土遺物 (8)

Ⅲ 縄文時代



第318図 ST4063 住居跡出土遺物(9)

縁上部に半載竹管による刺突文、36は口縁部下端に刺突文、胴部に縦位の連続山形文。37・42は口縁部下端に爪形文。38は細い粘土紐貼付け山形文。41・43は太い沈線文、44は肥厚する口縁部に押王縄文、胴部に平行沈線文。46は口縁部穿孔と刺突文。

47・48・55～58・64・69・71は結節状沈線文、49は単沈線の連続山形文。50・52・54・63・65はやや太い平行沈線文、波状文。51・60・62・66・67・70は半載竹管による平行沈線文、連続山形文。74～83は深鉢、台付鉢の底部である。84～95は石鎌・搔器・鎌などの石器である。

S T 4 0 6 4
出 土 遺 物

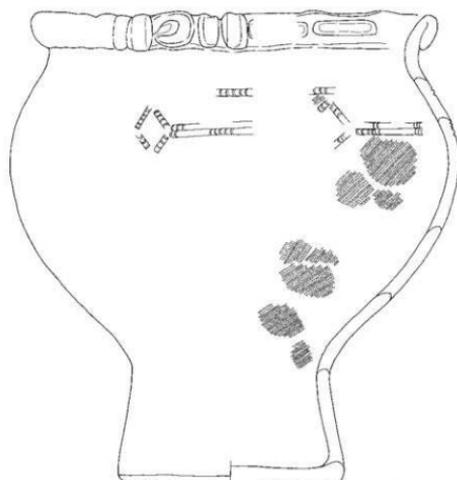
S T 4064で検出された遺物は1～47がある。1は口縁部隆帯文及び凹文、胴上半部に結節状沈線文の台付鉢。2は結節状沈線文、隆帯に刻目文、半載竹管による平行沈線文、連弧文の台付鉢。3は結節状沈線文とボタン状貼付文の深鉢。4は平口縁、5・7・9は口縁部隆帯に押王縄文及び刻目文、胴上半部に結節状沈線文。5は頸部突帯に刻目。

6は波状口縁で単沈線による横位・縦位の山形文。8は口縁部に半載竹管による連続山形文。10は口縁部下端に爪形文。11は口縁部両端に刻目文、頸部に細い突帯文、これに円形刺突文、細い粘土紐貼付の連続山形文。12・13は口縁部隆帯に半載竹管文。14は口唇部に刻目文、17は口縁部両端に刻目文と刺突文、円形凹文、18は三角刻印文、粘土紐貼付け文に半載竹管刺突文。

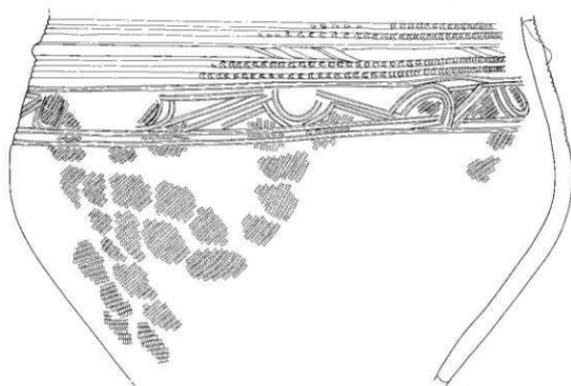
19・22～24・29・30は結節状沈線文。20は半載竹管文、ボタン状貼付文。21・26・27・28は半載竹管による平行沈線文、連続山形文。25は細い粘土紐貼付文。32～36は深鉢底部である。

S T 4 0 6 5
出 土 遺 物

37～47は鎌・搔器などの石器である。48～56はS T 4065出土の深鉢口縁部及び石器である。48は爪形文、49・50は肥厚する口縁部に太い沈線による半円形文、50は口縁部下端及び頸部に刻目文。51は波状口縁に沈線文、52は細い粘土紐貼付けによる横位縦位の連続山形文。53は刺突文、54は半載竹管文。55は石鎌、56は削器である。



1 (RP5566) SK4126

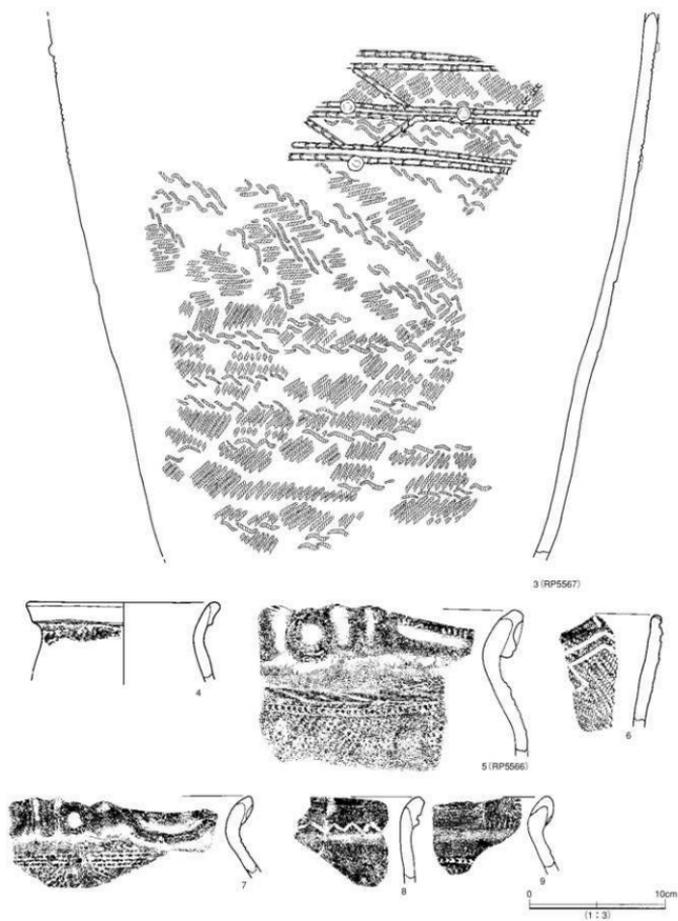


2 (RP5564)

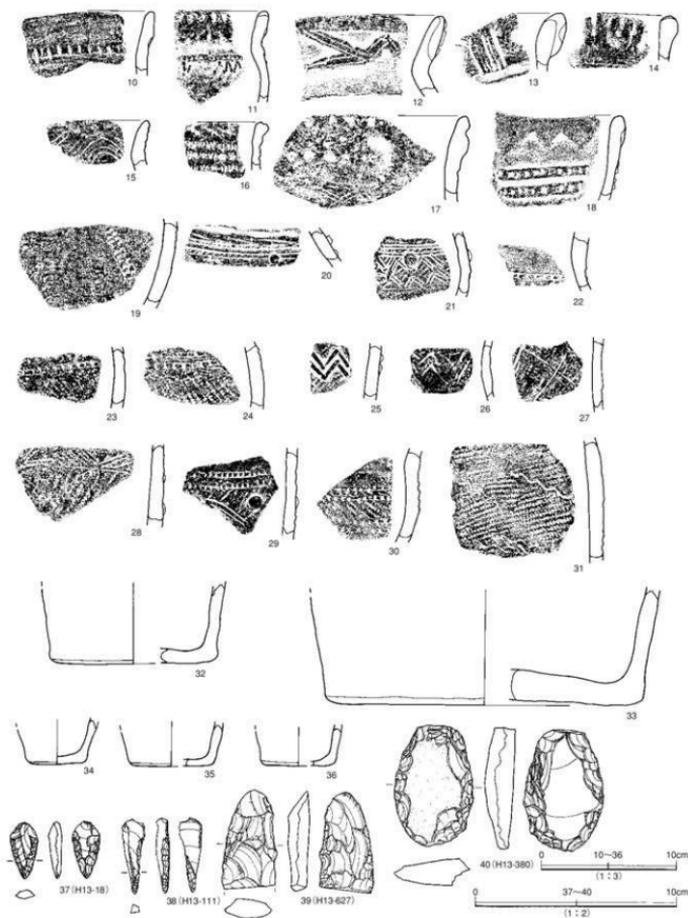


第319回 ST4064 住居跡出土遺物 (1)

Ⅲ 縄文時代

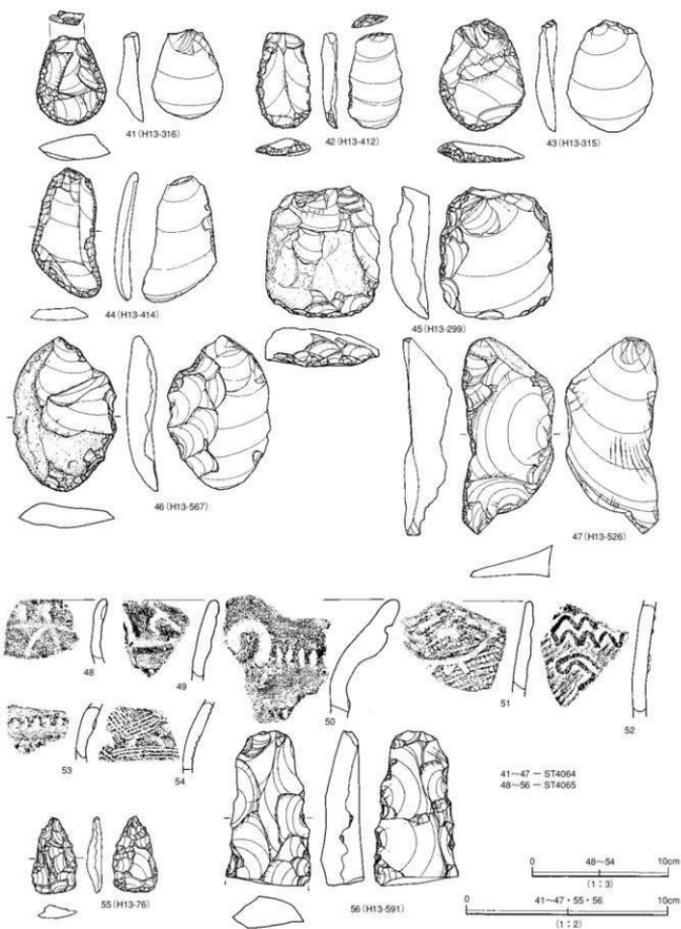


第320図 ST4064 住居跡出土遺物(2)



第321回 ST4064 住居跡出土遺物 (3)

Ⅲ 縄文時代



第322図 ST4064・4065 住居跡出土遺物

3 縄文時代中期の竪穴住居跡

S T1005住居跡 (第323～327図 写遺構-78 写遺物-22・113・114)

本址は第5調査区グリッド9・10-117・118に位置する。南壁付近で掘立柱建物跡S B1049・S B1082・S B1088と、西壁付近でS B1051と重複する。東壁では平安時代の土坑S K1009と重複する。平面形は円形～楕円形を呈する。規模は南北6.5～8m、東西5mを測る。南北の内側の周溝では6.5m、外側の周溝で8mを測る。確認面からの深さは10cmである。覆土は黒褐色砂質土から暗褐色砂質土を主体とする。壁は地山の黄褐色砂質土を掘り込む。床面は黄褐色砂質土の直床であるが、やや黒色砂質土が混入する貼床部分がある。

柱穴はP1～26が検出された。P1は大型の柱穴である。主柱穴はP1～3・P6～17である。これらは径30～45cm、深さ約50～60cmを測る。他の柱穴は深さ15～20cmでP5は深さ30cm、P22・26は深さ40cm、P23は深さ80cmである。周溝は北側で二重に検出され、「建て替え」あるいは「拡張」が考えられる。内側の周溝はP6・16付近まで、外側の周溝はP7～19付近までが考えられる。幅20cm前後、深さ5～15cmである。

炉は石囲炉が検出されている。規模は110×95cmの楕円形である。大型の礫を据えてその周りに小礫の礫を配置している。炉内には焼土が堆積している。この炉の北側にも焼土が堆積し礫も数個みられる。これは「炉の作り替え」の可能性もある。このさらに北側の焼土の中には4の深鉢胴部が埋設され、隣接して深さ20cmのP24がある。さらに北側には2の深鉢が逆位で埋設され、その西には石で囲まれた中に3の深鉢口縁部が逆位で埋設されていた。

遺物は埋設土器の他に、10・11の磨製石斧、12の石棒、13の赤焼土器などが出土している。1の深鉢口縁部は本址に重複するS B1051・P4内の出土である。

S T1027住居跡 (第328～332図 写遺構-79 写遺物-22・112・189)

第5調査区グリッド8～10-112・113に位置する。西壁付近でS B1046・S B1079と重複し、東壁ではS B1045・S B1085と重複する。当初、上面で須恵器環などが出土したため、平安時代の竪穴住居跡として調査を進めた。その後、石囲炉が検出され縄文時代の住居跡と判明した。

平面形は楕円形を呈し、規模は南北8.3m、東西5.6mを測る。覆土は黒色砂質土～暗褐色砂質土を主体とする。壁は地山黄褐色砂質土を掘り込み、検出面からの深さは2～5cmと非常に浅い。床は黄褐色砂質土～暗褐色砂質土の直床であるが、明確な堅い床面などは検出されていない。柱穴はP1～17が検出された。径30～60cmで深さは40～60cmを測る。P1・2・7は深さ30cm、P15～17は20cm前後と浅い。周溝上に位置するものが主柱穴とみられ、大きく深いものが多い。周溝は全周する。幅は20～25cm、深さ2～13cmを測る。P9・10付近、P2・7付近でも一部周溝が検出された。「建て替え」ないしは「拡張」の可能性もある。

炉は石囲炉で馬蹄形を呈する。先端部に1の深鉢が正位で埋設されるが、奈良～平安時代のピットとみられるP6により壊される。石囲炉は20×10cmの楕円形の礫を据えて、その上に5～7cmの小礫を配置して構築される。埋設土器1の左右には25×17cm、20×15cmの大きい礫を配置し、その後列に20×10cmの楕円形の礫を配置する。さらにその上に小礫を配置している。燃焼部では焼土は多いが、あまり焼けた痕跡はみられない。この炉の1.4m北に埋設土器2の深鉢が正位で埋設される。

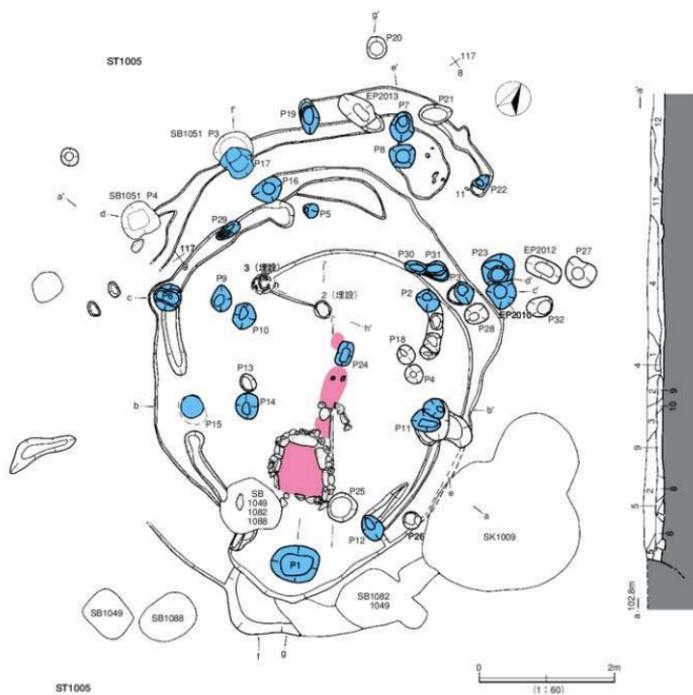
二重の周溝

埋設土器

馬蹄形の石囲炉

埋設土器

Ⅲ 縄文時代



ST1005

a-a'

- | | |
|-----------|--------------------------|
| 1 黑色砂質土 | 黄褐色砂質土少量、焼土粒少量混入 |
| 2 黒褐色砂質土 | 暗褐色砂質土、木炭粒わずかに混入 |
| 3 黒褐色砂質土 | 木炭粒わずかに混入、(2より黒色) |
| 4 黒褐色砂質土 | 黄褐色砂質土粒多く混入 |
| 5 暗褐色砂質土 | 2と似るが2より暗褐色、黄褐色砂質土わずかに混入 |
| 6 暗褐色砂質土 | 黄褐色砂質土多量に混入 |
| 7 黄褐色砂質土 | 暗褐色土を混入、(油土) |
| 8 黒褐色砂質土 | 黄褐色砂質土少量混入 |
| 9 黄褐色砂質土 | 黄褐色砂質土やや多く混入 |
| 10 黒褐色砂質土 | 9と同様だが、軟弱(根の覆乱を受ける) |
| 11 暗褐色砂質土 | 4と黄褐色砂質土を多く混入 |
| 12 黄褐色砂 | 油土 |

第323図 ST1005 住居跡(1)



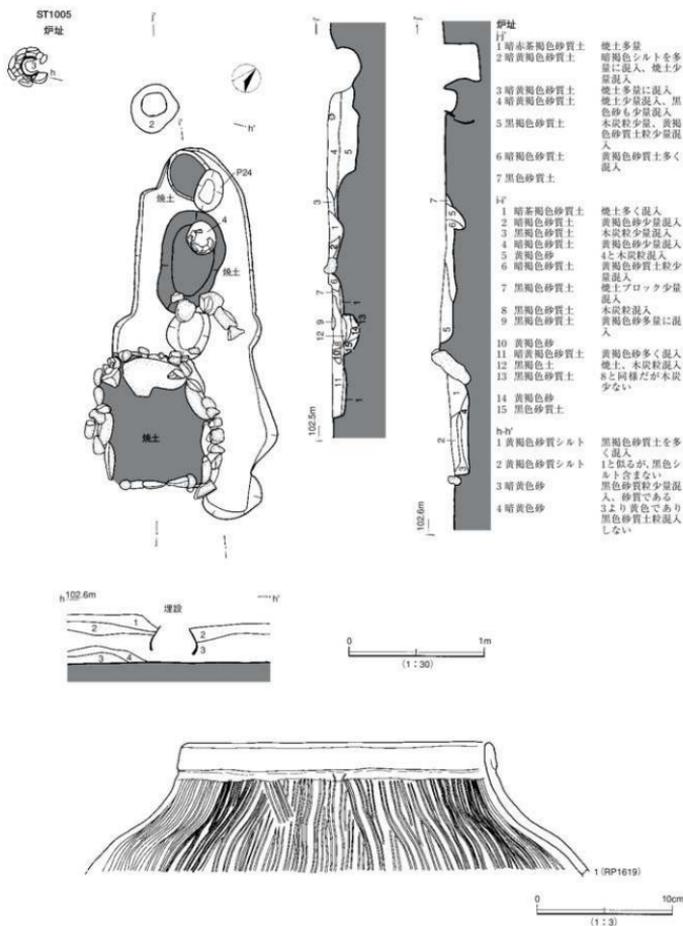
第324図 ST1005 住居跡 (2)

遺物は1～23が検出された。1は石囲炉に埋設されていた土器で波状口縁で渦巻文が施される深鉢である。1/2以上をP6の視乱で失う。2も埋設土器で、炉の北側1.4mに正位で埋設されていた深鉢で、底部を欠く。他には4・5が底部穿孔の深鉢、6～17は深鉢口縁部片、18は凹石、19～21は磨石である。22・23は上面出土の平安時代の須恵器坏である。

S T1060住居跡 (第333図 写-80)

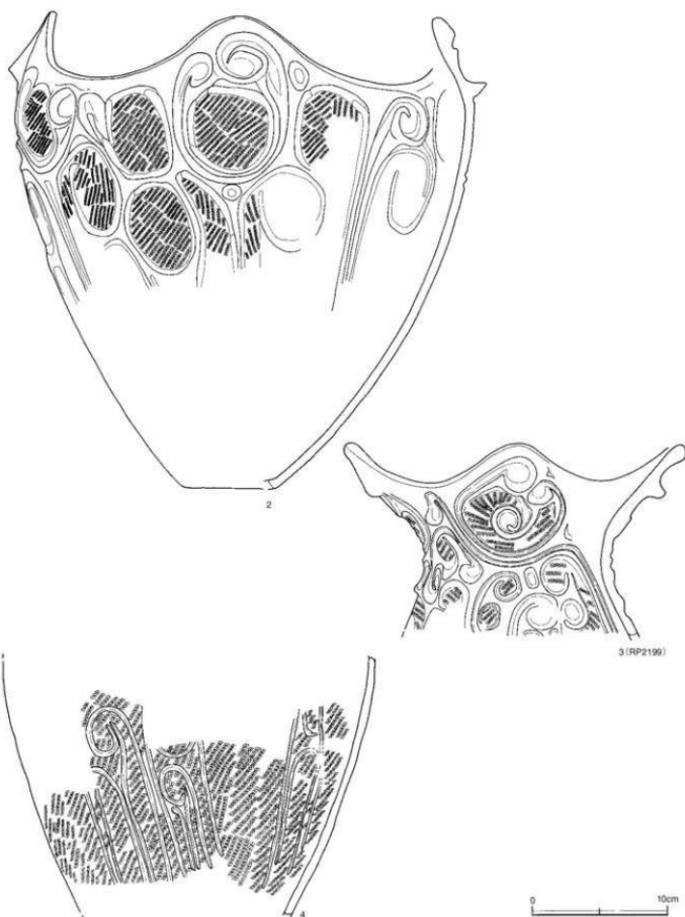
第5調査区グリッド7・8-112～114に位置する。S X1007・S B1045・S B1085等と重複

III 縄文時代



第325図 ST1005 住居跡・出土遺物(1)

Ⅲ 縄文時代



第326図 ST1005 住居跡出土遺物 (2)